Vol.77通巻887号　平成8年2月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可　ISSN 0912-8182

建築と社会

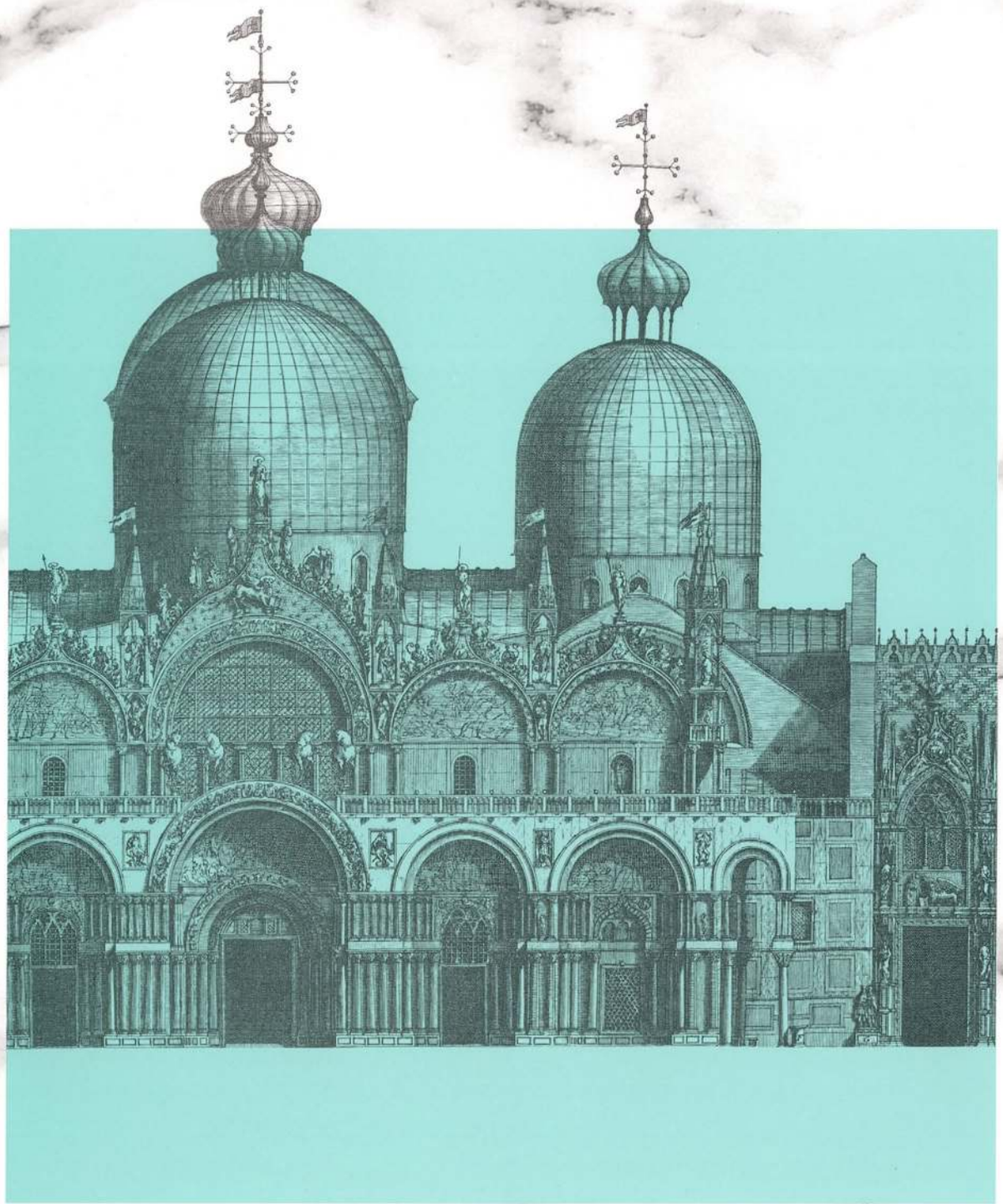
ARCHITECTURE AND SOCIETY

日本建築協会

1996 2 FEBRUARY

＜特集＞

大阪府住宅供給公社創立30周年



SEKISUI HOUSE

街のどこかに、積水ハウス。

街があって、家があって、
待っている家族がいる。
あたりまえのことなのに
なぜかうれしい。
そんなあたりまえかもしれない
「うれしい」を、わたしたちは
お届けしています。
街のどこかに、積水ハウス——
販売戸数115万戸。
（平成7年12月末現在）



CENTRAGE-LR
セントレージ LR
のびやかなLDKが憩いの時を演出。
暮らしやすさを追求した住まい。



通商産業省選定
95年度グッドデザイン
部門賞受賞商品

URBIS-3
PRIVATE
アービス・プライベート
都市の喧騒から暮らしを守りつつ、
街並みにも調和する三層住宅。



SHAWOOD
シャーウッド(エムシャントア)
洗練された外観と木の温もりを併せ持った住まい。



GRENIER-EX NEW
グルニエ-EX NEW
和と洋の趣が溶け合った外観。
新しい日本の暮らしを提案する住まい。



CENTRAGE-FR
セントレージ FR
質感豊かな外壁。集いの時を演出し、
住む人の誇りとなる住まい。



ONE CONCRETE LIFE IS STAGE
イズ・ステージ
街並みに映える確かな存在感で、
最高級住宅の資質を備えた住まい。

積水ハウス株式会社

本　　社／〒531　大阪市北区大淀中1丁目1番88号　梅田スカイビル タワーイースト　TEL.06-440-3111
東京支社／〒151-70　東京都渋谷区代々木2丁目1番1号　新宿マインズタワー　TEL.03-5352-3111

ホテル シーガル てんぽーざん大阪 見学会

大阪港の美しい日没で有名な天保山ハーバービレッジに、海遊館、サントリーミュージアム、ホテルシーガルてんぽーざん大阪の三つの建物が、海に向かって並んでいます。
ホテルシーガルてんぽーざん大阪は、親水性のある段状のテラス広場を前庭とし、海・船・港をテーマにしたリゾート性のある、明るく楽しい雰囲気を持ったホテルを目指して計画しました。
海からの外観は、低層部の茶色いタイル、高層部の白いタイルの２色を基調とし、チャペルを含む他のエレメントに原色を使って、明るい表情を海に向かってつくっています。外壁は、４種の面状の違うモザイクタイルを、一部ラスター仕様にすることによって、太陽光の変化を刻々と受け止め、生き生きした表情が感じられるように工夫しました。一方、インテリアは、前庭のテラスが内部まで連続する形で、ロビー・レストランを配置し、宴会場のロビーも同様、広いテラスの一部に居る感覚を出すように計画しました。
各階からの海の見え方、楽しみ方に変化を持たせ、ホテルらしくきめ細かくデザインしたり、仕掛をしたり、いろいろ楽しんでもらえるような工夫をしています。この地域に少ない緑をたっぷり植え、めずらしいハンギングガーデンも有ります。百聞は一見にしかず、ぜひ見学にお越し下さい。

（梅原良矢）



●建築概要
所在地　大阪市港区海岸通1-5-15
建築主　大阪ウォーターフロント開発㈱
設計監理　坂倉建築研究所大阪事務所
施工　竹中工務店
敷地面積　13,429.41㎡(含,サントリーミュージアム)
建築面積　2,682.90㎡
延床面積　13,669.68㎡
構造規模　SRC・S、B1・14F
工期　1994年３月～1996年１月
オープン　４月15日（予定）

日時　1996年**3**月**15**日㈮
13:30－16:00
講師　梅原良矢／坂倉建築研究所
定員　50人
＊申込者多数の場合は抽選
集合　現地
＊地下鉄中央線「大阪港」駅から徒歩約５分
参加費　会員１,000円、一般２,000円
申込　３月８日㈮までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（ホテルシーガル見学会）
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います
＊参加証を３月11日㈪に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田１-１-３-2100
大阪駅前第３ビル21階　〒530
FAX 348-0634　TEL348-0633

八幡屋プール 見学会

日時　1996年**3**月**19**日㈫
13:30～16:00
講師　米村理市／大阪市都市整備局営繕部企画主幹
藤田　寛／東畑建築事務所
弓場千歳／フジタJV工事長
定員　60人
＊申込者多数の場合は抽選
集合　現地
＊地下鉄中央線「朝潮橋」駅下車すぐ
参加費　会員１,000円、一般２,000円
申込　３月12日㈫までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（八幡屋プール見学会）
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を３月13日㈬に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田１-１-３-2100
大阪駅前第３ビル21階　〒530
FAX 348-0634　TEL 348-0633

平成９年度大阪国体を契機として計画された本施設は、国際競技にも対応する屋内プール施設である。
施設は、50mプール、飛び込みプール、及び25mプールと、これらの付帯諸室、レストラン等で構成されている。
プールはいずれも公認プールであるが、本施設では、50mプールと飛び込みプールに昇降床を採用し、水深の自由な変更を可能にしている。これにより競技種目を選ばないばかりか、一般に開放する際の安全な水深の設定が、さまざまなバリエーションで実現できるようになった。
屋根は、ケーブルネット膜構造によるテフロン膜と、周囲からオーバーハングするPC・SRC梁部のステンレスで構成され、内部外部ともに躍動感ある形態を与えている。

（藤田　寛）

●建築概要
所在地　大阪市港区田中３八幡屋公園内
設計監理　大阪市都市整備局営繕部
東畑建築事務所
施工　フジタ・鴻池・藤木JV
敷地面積　123,986.02㎡
建築面積　7,778.52㎡
延床面積　24,922.54㎡
構造規模　RC・SRC、B2・2F
屋根:ケーブルネット膜構造
施設構成　50m公認プール/冬期アイスアリーナ
飛び込み公認プール
25m公認プール/通年温水プール
レストラン、会議室等
工期　1993年10月～1996年３月
オープン　1996年春（予定）



大阪市立中央図書館見学会

日　時　1996年 3 月 28 日(木)
13:30－16:30
講　師　國松弘一／大阪市都市整備局営繕部設計課主査
丸山利幸／石本建築事務所大阪支所次長
臼井章二／戸田JV所長
定　員　70人
＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
＊地下鉄千日前線「西長堀」駅下車すぐ
参加費　会員1,000円、一般2,000円
申　込　3月21日(木)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（大阪市立中央図書館見学会）
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を3月22日(金)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階　〒530
FAX 348-0634　TEL 348-0633



大阪市立中央図書館は、生涯学習の基盤施設として、高齢化、高度情報化、国際化社会に対応したサービスを提供する21世紀にふさわしい図書館をめざして建設されたものであり、地方自治体では最大規模の図書館である。300万冊の蔵書を収容できる大規模な書庫を地下6階から地下3階に設けるとともに、30万冊の図書資料等を配架する閲覧室を地下1階から地上3階までの4フロアーにわたって設けている。閲覧室は、吹き抜けを通じてつながり、2階の約200席の読書室をはじめ各フロアーに閲覧席を配するなど、ゆとりある読書空間を提供している。
利用しやすい図書館をめざし、新なにわ筋からの入口のほか、地下鉄西長堀駅からもサンクンガーデンを通じて地下1階にアプローチできるよう計画している。また、段差解消・拡大読書機の設置など「ひとにやさしい」施設づくりに努めている。
外観は、図書館らしい落ち着きと重厚な雰囲気を感じさせるとともに、開かれた図書館をイメージできるものとした。　（大阪市都市整備局）

●建築概要
所在地　大阪市西区北堀江4-3-2
設計監理　大阪市都市整備局営繕部
石本建築事務所
施　工　戸田・佐藤・錢高JV
敷地面積　6,280㎡
建築面積　4,223㎡
延床面積　34,500㎡
構造規模　SRC・RC、B6・6F・P1
工　期　1992年12月～1996年1月
オープン　1996年7月（予定）

長居陸上競技場見学会

旧長居陸上競技場は、大阪市南部の中心的大公園である長居公園内に位置し、2万3千人収容の観客席を有する第1種公認陸上競技場として昭和39年に建設され、広く市民に利用されてきた。また、大阪国際女子マラソンなども開催され、大阪市の代表的なスポーツ施設として親しまれてきたが、平成9年に開催される「なみはや国体」の主会場となることが決まったこと、経年変化による施設の老朽化が進んでいたことなどから、21世紀に向け、世界に開かれた国際都市大阪にふさわしい、観客収容能力約5万人を有する国際レベルの大会も可能な施設とするため、また、2002年のサッカーワールドカップ開催も可能な競技場として建て替え整備が決定された。完成時は大屋根を有する日本でも有数の競技場となる。
（大阪市都市整備局）



●建築概要
所在地　大阪市東住吉区長居公園内
設計監理　大阪市都市整備局営繕部
昭和設計
施　工　竹中・フジタ・鴻池JV
敷地面積　705,000.00㎡
建築面積　26,692.73㎡
延床面積　52,300.14㎡
構造規模　RC・S、5F
屋　根　19,083.69㎡、立体トラス構造
工　期　1992年9月～1996年5月
オープン　1996年6月（予定）

日　時　1996年 3 月 22 日(金)
13:30－16:00
講　師　樋口裕二／大阪市都市整備局営繕部企画主幹
森崎生也／昭和設計主査
赤木一雄／竹中JV所長
定　員　50人＊申込多数の場合は抽選
集　合　現地＊地下鉄御堂筋線・JR阪和線「長居」駅下車徒歩5分
参加費　会員1,000円、一般2,000円
申　込　3月15日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（長居競技場見学会）
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を3月18日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階　〒530
FAX 348-0634　TEL 348-0633

大阪府立新図書館(仮称)見学会

日　時　1996年3月27日(水)
13:30－16:30
講　師　赤木　隆／日建設計設計主管
母里弘志／鹿島JV所長
定　員　70人
＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
＊近鉄東大阪線「荒本」駅(地下鉄中央線接続)下車徒歩約5分
参加費　会員1,000円、一般2,000円
申　込　3月19日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（大阪府立新図書館見学会）
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を3月21日(木)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階　〒530
FAX 348-063 TEL 348-0633



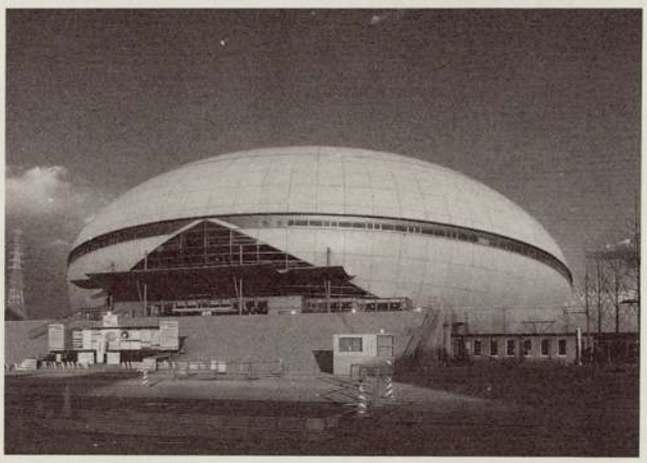
今世紀の初頭、野口孫市の設計により大阪市内に建てられた大阪府立中之島図書館は、永年にわたりその恵まれた環境と格調高い建物デザイン及び豊富な蔵書などにより、府民に親しまれてきた。さらに、その後設立された府立として二つめの大阪府立夕陽丘図書館とともに、多角的な図書館サービスが行われてきた。
しかし、生涯学習・高度情報化時代を迎え、今日においては利用者ニーズが高度化・多様化しており、府民が求めるサービスに十分に応えているとはいえない状況になり、今回府下3大新都心として整備の進められつつある東大阪市荒本地区に、新たな府立図書館を建設することになった。
この図書館は公園に囲まれた新都心の立地に鑑み、総合的な図書館機能をもつのに加え、ホールや会議室及び地下駐車場も併設している。
また最大収容冊数は自治体最大規模の約350万冊を予定している。

（赤木　隆）

●建築概要
所在地　東大阪市荒本北62他
設　計　大阪府建築部営繕室
日建設計
監　理　大阪府建築部営繕室
大阪府建設監理協会
日建設計
施　工　鹿島・熊谷・前田・森JV
敷地面積　18,500.05㎡
建築面積　6,426.27㎡
延床面積　30,770.67㎡
構造規模　SRC、B2・4F・P1
工　期　1993年1月～1996年3月
オープン　1996年5月（予定）

大阪府立門真スポーツセンター(仮称)見学会

古の時代、この地は大阪湾の一部の〝河内湾〟と呼ばれる入江になっていました。時代と共に湾岸線も変遷し、〝潟〟から〝陸〟へと変わり、大阪湾も現在のような整った楕円になりました。
形態的には、この大阪湾の楕円（長軸：短軸＝2：1）を基本に、それを5°傾けることにより、大阪の夢を柔らかく包み込む〝楕円の船〟が〝未来〟という大海に向かって飛び立とうとする姿をイメージしています。



この施設は、平成9年の「なみはや国体」夏季大会の開・閉会会場、競泳、飛込競技会場に使用され、メインアリーナは、多目的な利用を前提にプールの床を可動することにより、冬季はアイススケート、春・秋季はフロアにしてスポーツの他イベント・コンサート会場として利用できるように計画されています。

（松田善弘）

●建築概要
所在地　門真市大字三ッ島308-1
設　計　大阪府建築部営繕室
昭和設計
監　理　大阪府建築部営繕室
大阪府建設監理協会
昭和設計
施　工　竹中・鴻池・淺沼・住友・東海JV
敷地面積　45,795.38㎡
建築面積　25,461.40㎡
延床面積　37,660.81㎡
構造規模　RC・S・SRC、B1・3F
構　法　パンタドーム構法
外　装　タイル打込炭素繊維強化セメント板
工　期　1993年10月～1996年3月
オープン　1996年6月（予定）

日　時　1996年4月9日(火)
13:30－16:30
講　師　松田善弘／昭和設計主管
添野建一／竹中JV総合所長
定　員　50人
＊申込者多数の場合は抽選
集　合　現地
＊地下鉄鶴見緑地線「鶴見緑地」駅下車徒歩約20分
参加費　会員1,000円、一般2,000円
申　込　4月2日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名（門真スポーツセンター見学会）
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を4月3日(水)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階　〒530
FAX 348-0634 TEL 348-0633

30'sEYE 21世紀へのエスキス
第17回

宮本 佳明

アトリエ第5建築界
大阪芸術大学専任講師

元気であるために

「30'sEYE－21世紀へのエスキス」をテーマに、30代を中心に様々な分野でご活躍の方々をゲスト講師に迎え、従来の講演会形式とは違う「語り合い、情報交換を行う場」をつくりたいと考えています。気軽にご参加下さい。





斜面のたのしみ

いわゆる「建築作品」は、どのように強弁してみたところで、明らかに多くの人の手を煩わせて（場合によっては人を不幸にして）ようやく世に生まれ出たものでしょう。それらが、われわれに元気や勇気を与えないぐらいなら、ハードな建築や環境を構築しようという試み自体を放棄すべきだと考えています。他にもっと楽しいことはいくらでもあります。

既知のものであれ、先見的なものであれ、何か（たとえば階級や婚姻といった社会制度、あるいは「軽さ」「重さ」といった時代の空気など）を意図して表現するための形式としては、建築はあまりにも不条理で結果として人間に犠牲を強いてきたように思えてなりません。

一方で、人間に対する興味を掻り起こしたり、人間について考えるためのきっかけを与えてくれる身近なテクストとして見たとき、建築や環境というジャンルは伝達手段がよりリアルで身体的である分だけ、文学や映画などと較べて一見控えめではあっても実は力強い、稀少なメディアとして今後も有効性を持ち続けるように思います。

そんなことについて話し合えればと思います。（宮本佳明）

宮本佳明（みやもと かつひろ）
1961　兵庫県宝塚市生まれ
1984　東京大学工学部建築学科卒業
1987　同大学院修士課程修了
1988　アトリエ第5建築界設立
1995～大阪芸術大学専任講師
＜主な仕事＞
1987　閉鎖的でない中庭の家
1988　キッ川邸 addition
1990　芦屋市中央地区再開発計画
　　"Topographical"
1991　雨につつまれる地下室
1992　Open-Air Kindergarten
1994　家族文化アパートメント "愛田荘"
1995　芦屋川左岸公共堆積体
＜コンペティション等＞
1991　SD Review入選
　　BL国際デザインコンペ奨励賞
1992　安全ガラスセーフティコンペ優秀賞
　　INTER INTRA design selection大賞
1993　GA JAPAN LEAGUE'93
1994　GA JAPAN LEAGUE'94
1995　GA JAPAN LEAGUE'95
　　"夢シティ21への提言" 最優秀賞
　　建築環境デザインコンペティション佳作

日　時　1996年 3月29日(金)
　　18:30－20:30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　宮本佳明
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、学生会員500円
　　一般1,500円、学生一般1,000円
　　＊含、飲物・消費税
　　＊団体会員扱いは1社1名
申　込　3月22日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名（30'sEYE）
　　②氏名
　　③個人・団体会員、一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を3月25日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　大阪駅前第3ビル21階 〒530
　　FAX.348-0634 TEL.348-0633
主　催　㈳日本建築協会
　　若い会員の集い小委員会
　　主担　廻はるよ／東畑建築事務所

スライド・レクチャー
ぶらり海外建築見て歩き
第6回

ちょっと変わった教会堂

日　時　1996年 3月26日(火)
　　18:30－20:30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　杉本真一／大阪芸術大学講師
定　員　30人
　　＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般2,000円
　　（学生は半額、飲物付、税込）
申　込　3月19日(火)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　①催し名（スライド・レクチャー）
　　②氏名
　　③個人・団体会員、一般の別
　　④職場・学校名
　　⑤参加証郵送先
　　⑥連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を3月20日(水)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　大阪駅前第3ビル21階 〒530
　　FAX.348-0634 TEL.348-0633



スターブ式教会（ノルウェー）



岩の教会（フィンランド）

ヨーロッパではどんな小さな村でも教会堂があります。今回はその中から、スターブ式教会（ノルウェー）、アーネム円形教会（オランダ）、岩の教会（フィンランド）、アアルトやウッツォンの設計した教会等、ヨーロッパに点在する面白い教会堂を紹介します。

このスライド・レクチャーシリーズでは、スライドを使って、海外の建築及びその周辺の風物を紹介しています。大学の授業のような堅苦しい話ではなく、建築に関係のない方にも楽しんでいただけるような内容ですので、気軽に聴きに来ていただければ幸いです。

（杉本真一）

●次回の予定
1996年4月23日(火)　18:30－20:30
「アメリカのキャンパス」
プリンストン大学を始めとするアイヴィー・リーグの大学（東海岸）やスタンフォード大学、カリフォルニア大学（西海岸）等のキャンパスを紹介します。

出版委員会企画
第15回<プロのノウハウ>講座

都市計画法を読みこなすコツ

―阪神大震災後の最新条項を盛り込む―

最近、メディアを通じ首都移転に関するニュースが頻繁に流されているようだ。誘致に積極的な市は、国会議事堂の模型まで作って売り込みを開始している。

日頃、単体建築を相手に格闘を強いられている私達にとっては、大きな視野で都市あるいは、街のことを考える良きチャンスかも知れない。こういう時宜をうまくとらえたのが、この著書である。また、阪神大震災の惨状を目の当たりにしている人々にとっても、ホットな情報が盛られている。

「都市計画事業を進めやすくする」という章中には―被災市街地復興推進地域の都市計画―として紹介されており、専門家のみならず、一般の方々にも、理解しやすく説かれている。また、多くの章で全国的な最新データ数字が盛られており、全体の中でどうなのか、他にどんなことをやっているのか、というような比較するには良き目安となりそうだ。

全体として、都市計画法の周辺を総括的にまとめ、効果予測までの展開には説得力がある。冒頭でハワイ、チューリッヒの好例が紹介されている。日本でも、これからは、各行政の窓口に街の現状模型と、10年後の予想模型が併置され、街並の景観比較ができるようなシステムを、ぜひ導入したいものである。建築主、建築家ともども、良き街づくりの指針になるであろう。

たまには知事か市長になったつもりで通読されることをお薦めしたい。

(出版委員会副委員長・上原正行／竹中工務店)

日　時　1996年 **4** 月**18**日(木)
18:00－20:00

会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第３ビル・21階

講　師　高木任之氏
㈳日本木造住宅産業協会専務理事

定　員　30人

受講料　会員 4,000円　一般 5,000円
＊含、消費税

テキスト　<プロのノウハウ>「都市計画法を読みこなすコツ」
(テキスト代１部特価2,300円〔含、消費税〕にて頒布。)
＊当日持参の方は不要。

申　込　本会事業課へハガキかFAXまたは電話にてお申込下さい。
＊申込先着順にて順次、受講券をお送り致します。
①催し名(プロのノウハウ講座)
②氏名
③個人・団体会員、一般の別
④職場・学校名
⑤受講券郵送先所在地
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。

申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第３ビル21階　〒530
TEL.06-348-0633
FAX.06-348-0634



高木任之（たかぎ　ただゆき）
●昭和30年：北海道大学建築工学科卒業
●主な勤務歴：建設省住宅局建築指導課課長補佐、自治省消防庁予防課課長補佐、千葉県都市部建築指導課長、建設省都市局都市再開発課建設専門官、同計画局宅地開発課建設専門官、宅地開発公団事業部長、住宅・都市整備公団都市開発事業部第一部長を経て退官、㈶性能保証住宅登録機構専務理事、東洋大学建築学科講師（都市計画・建築法規）を歴任、現在㈳日本木造住宅産業協会専務理事
●著書：「新版　建築基準法を読みこなすコツ」「建築物の消防法を読みこなすコツ」「建築関連法規を読みこなすコツ」(学芸出版社)、「都市計画・建築法規ドッキング講座」「消防・建築法規ドッキング講座」(全国加除法令出版)、「建築法規用教材」(共著、日本建築学会・丸善)　ほか

寄贈品の受領

このたび、本会正会員・事業委員会委員の宮内宏氏（宮内商会）より、「映像記録　阪神大震災」(毎日放送制作)―ビデオフィルム一巻―をご寄贈いただきました。

ここに誌して厚く御礼申し上げます。

㈳日本建築協会編

『建築設計者のための設備知識』第2刷割引価格で頒布中

㈳日本建築協会の編著、㈱オーム社の出版で『建築設計者のための設備知識』の第２刷を、より新しい情報に差しかえて刊行いたしました。

第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こし、その解決を選択肢で示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。

本書は、全国の書店店頭に出ていますが、本会でも販売をいたします。本会では特別価格で頒布しますので、お買い求め下さるようお願い申し上げます。

詳細お問い合わせ、および購入申込は、㈳日本建築協会へお願いします。

編著者　社団法人　日本建築協会
(東畑建築事務所／坂田進・城下善雄・弓崎幸治・中野格、日建設計／藤岡茂・瀬戸良昭・押田忠明、安井建築設計事務所／日根東治・水谷広治・山根敏和、大阪ガス／中村秀行・佐々木明美、関西電力／中村秀夫・大木俊郎)
〒530　大阪市北区梅田1-1-3-2100　TEL06-348-0635

発行所　㈱オーム社
〒101　東京都千代田区神田錦町3-1　TEL03-3233-0641

体　裁　B5判、220頁、上製本
定価5,000円



「建築と社会」誌

特集一覧● 1975～1995

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635, FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1975 Vol. 56	●図書館	●東海の新建築・	●インテリア・	●PC板を使用した工業化住宅	●社会・建築・法・	●都市の景観と施設	●建築とプレストレストコンクリート構造	●生活排水処理施設のあり方	●人間環境としてのターミナル・	●騒音対策と防音材料	●第22回青年技術者・	●集合住宅の設備・
1976 Vol. 57	●証言'76—建築デザインの動向・	●建築基礎構造の問題点・	●医療施設・	●床工法と材料・	●建築防災と法・	●市街地整備・	●工場建築の設備・	●鉄骨構造のジョイント	●集住体のハードとソフト・	●結露防止対策と断熱材料・	●第23回青年技術者・	●設備からみた建築の問題点
1977 Vol. 58	●デザインの動向—部分と全体・	●兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	●コンクリートの品質管理と行政指導の方向	●日影規制と法・	●身障者施設・	●照明設備・	●埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	●日本住宅公団と建築作品	●ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ・	●建築における省エネルギー化	●第24回青年技術者・
1978 Vol. 59	●デザインの動向—新旧のコントラスト	●水・	●医療施設—病院建築と情報システム	●外壁塗装材料・	●電波障害と建築・	●組合方式による集合住宅計画	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD—設計とコンピュータ	●一般号・	●第25回青年技術者・	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発・	●大阪南港ポートタウン	●商業空間	●コンクリートのひびわれ	●日影規制・	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌・	●建物の終局強度の検討・	●庄内のまちづくり・	●80年代のインテリア・	●第26回青年技術者・	●建設業の労務事情・
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望・	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物・	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集・	●住宅の耐久性・	●建築行政と法規・	●最近の防水工法・	●都市景観とアメニティ・	●屋内体育施設の設備・	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材・	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅・	●これからの建築設計と新耐震設計法・
1981 Vol. 62	●職能論・	●中国の論文—北京の都市計画・	●ポートピア'81・	●台所まわりの計画と設備・	●シーリング材の知識・	●災害と法—安全な環境をめざして・	●都市住宅—住まい手からの発想・	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集・	●住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割・	●間仕切壁の性能評価・	●第28回青年技術者・	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開・	●省エネルギーと開口部・	●医療施設—地域医療と設備計画・	●近畿の地盤と地質・	●都市景観—まちなみ美観への誘い・	●大阪市庁舎（第一期）・	●ホール建築と音・	●大スパン構造・	●昭和設計作品集・	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築・	●風土・空気と人間・
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設・	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール・	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル	●ビルのリフレッシュ—内外装補修技術の現状と発展—	●建設産業とロボット開発	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル・	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語・	●東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール—それが生みだす文化—	●建物の表情—最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合—人体と建築にみる— ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間—都市型集合住宅にみる	●屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住居と設備	●開発—その創造的仕掛けの鍵をもとめて— ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ・	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明	●制振	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ・ ●大阪府営緒	●第35回青年技術者 ●800号記念・	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術・	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●熊島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン・	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化—設計の多様化をめざして—・	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営緒の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観・	●高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり—I—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり—II— ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念・	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	●一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン—東海支部—	●建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	●木構造を使ってみませんか—集成材による構造—	●接着—建築分野への限りなき可能性	●中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台—仮設の魅力に学ぶ— ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているのか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営緒	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境—限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生—構造技術の役割— ●大阪市営緒	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街造りとアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって—会員作品・	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美—建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 Vol. 76	●光がつくる風合の世界・	●音—騒音から操音／創音へ	●飛騨・美濃—まちの活性化と地方文化	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法—会員作品	●新しい「都市・建築」の視点	●建築構造と社会の接点 ●日建設計	●ライフラインと建築設備	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課

・印は欠号

建築と社会

1996 2 1917年創刊 第77集／通巻887号

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

今月の表紙

表紙デザイン：立川悦夫

Antonio Zatta著
『L'Augusta Ducale Basilica』

1063年～94年にコンスタンチノープルのハギイ・アポストリ聖堂を範として建立されたサン・マルコ大聖堂は、15世紀に正面の一部が補修されたが、5個の大円蓋を覆いながらそびえ立つ円屋根を持つ外観と、大理石やモザイクの装飾で飾られた内部を持ち、中期ビザンチン様式の建築を代表する。本書は、その詳細を銅版図で表したもの。

2月号では、この図書から、サンマルコ大聖堂の図版の一部分を引用した。

表紙制作協力：関ヶ原石材

■特集予告

3月号／東海の地方シリーズ 3－遠江

4月号／立体駐車場設備

編集委員会（平成7年度）

■副会長
金多　潔
薬袋　公明

■編集理事
青柳　司
◎荒井　清
荒巻　恭士
井上　豊
小島　雄
竹中　錬一
深江　實
松村　慶三
溝神宏至朗

■編集顧問
東　孝光

■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
伊礒　憲幸
梅村　宏尚
小浦　久子
鈴木　克彦
田中　直人
松川　敏正
横関　真紀
※吉村　英祐
☆建築計画系
荒井　博
磯村千恵子
上杉　秀隆
※江副　敏史
荻窪　伸彦
菅野　忠司
笹村　欽也
佐藤不二男
塚本　史郎
刃金　国男
山本　匡
☆インテリア・住宅系
石川　佳子
岡本　昭子
加藤　力
※角方　利幸
北浦かほる
小梶　吉隆
小島　保人
高橋　文吾
中村　孝之
畑　康之
福田　由利
松田　隆
山上　恭子
渡邊　秀俊
★構造分科会
太田　寛
西郷　意師
鈴木　勝博
多田　元英
※長瀬　正
平野　富之
北條　稔郎
松本　孝弘
宮本　光則
★設備分科会
岩本登志男
遠藤　進
梶井　宏修
河津　隆之
※田ノ畑好幸
西岡　道雄
水谷　昇
村上幸三郎
横平　光伸
★施工材料分会
※有光　利治
植田　実
小椎八重猛
志水　史典
十倉　毅
野口　和宏
吉田　茂二
★法令分科会
乾　康雄
※入江田吉仁
樫田　攻
城戸　史郎
中西　孝子
水田　志郎
■作品作風小委員会
赤木　隆
小笠原絵理
小野　正人
尾﨑　久純
川上比奈子
倉渕奈千子
杉原　繁
田中　均一
○富田　昌義
藤城　義丈
前川　治彦
前田　幸宏
増田　敬彦
増田　俊哉
松田　善弘
宮地雄一郎
■会員企画小委員会
伊藤　郁郎
○稲木　裕子
槽谷　浩史
毛谷村英治
小板橋鉄雄
佐伯由紀子
佐野　洋
高岡　伸一
高田　光雄
高橋　麗子
塚口　明洋
増渕　昌利
松石　千秋
山嵜　章子
■広告企画小委員会
池渕　俊男
上井　善一
勝　一弘
○河原　正雄
菱田信八郎
藤田　孝吉
山下　修司

◎委員長　○副委員長　※幹事

印　刷　平成8年2月20日
発　行　平成8年2月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06－348－0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1165円〕

CONTENTS

特集● **大阪府住宅供給公社創立30周年記念**

［作　品］ メロード吹田/アメニティ長野/メープルコート ―― 39
コーポラティブハウス"デネブ"/コーポラティブハウス"クレセント"
コピアス八尾/エルベコート二色の浜/千里山田西-A/エステ南千里
しんかなシティ/コモンシティ星田アステージ/コモンシティ星田西-A・B
フロンテージ長野

［座談会］ 都市住宅づくりにおける、公社のかかわり、建築家の役割 ―― 51
安原　秀/遠藤剛生/川上昌男、芥田　暁〈司会〉

会告 ホテルシーガルてんぽーざん大阪見学会，八幡屋プール見学会，大阪市立中央図書館見学会，長居陸上競技場見学会，大阪府立新図書館（仮称）見学会，大阪府立門真スポーツセンター（仮称）見学会，30's EYE（17）宮本佳明「元気であるために」，スライド・レクチャー（6）ちょっと変わった教会堂，〈プロのノウハウ〉講座「都市計画法を読みこなすコツ」，寄贈品の受領，「建築設計者のための設備知識」第2刷、割引価格で頒布中。 1

作品作風 豊栄のさと / 鳥取市営サッカー場（バードスタジアム） / 兵庫県立森林・林業技術センター 木材利用研究棟・実験棟 / 大同生命葉山セミナーハウス / 新劇ビル / 尼崎信用金庫池田支店 / 阪急今津駅 8

W 建築家おすすめデートスポット：いきいきタウン大府―笠嶋淑恵●高岡伸一 22

being 老人介護の妖精―下山名月●北村恭一 24

gallery ルネス学園体育棟―魅きつける空間―（設計：葉山　勉）●川上比奈子 26

寄稿 神戸都心に芸術拠点とモデル住宅を●佐野正一 28

法令コーナー 京都府福祉のまちづくり条例●乾　康雄 31

書評 難波を中心に日本史黎明期の都市と建築を復原（日本古代の都城と建築を読んで）●浅川滋男 32

ブックステーション 短評4題●伊藤郁郎・稲木裕子 33

学生の頁 dáスクール：コンペ「Street」を終えて… 34

GBRCニュース パラペット笠木の風力係数について 36

委員会だより 出版委員会―伊丹での目まぐるしいひとときを楽しむ●山田　修 37

建築の眼 フィレンツェにて―2●鈴木良介，既存不適格●垂水英司 / 花と祈り●瀬戸本淳，責任追求型と原因追求型●田中正司 38

構造の頁 ドームの構造設計と施工―大阪府立門真スポーツセンター（仮称）―●田中三郎 62

設備の頁 オゾン脱臭トータルシステム●田端伸行 63

information 「身体と表現1920―1980～ポンピドゥーセンター所蔵作品から～」―琳派の萌芽―光悦村再現展，筑波大卒業制作有志展96'，許可等の事務を堺市へ移譲，被災者向け融資を創設，ひろしま2045事業設計者選定，NEG空間デザインコンペ公募，「今、注目される木造の世界」，インテリアプランニング賞'96募集，「久宝寺寺内町・町家型建築設計競技」審査結果，第15回大阪まちなみ賞の入賞，タキロン国際コンペ入賞作。 64

月報 平成7年12月分 66



アプローチ

作品
作風

設計監理 ■
クカニア・タフ
施工 ■
松村組

豊栄のさと

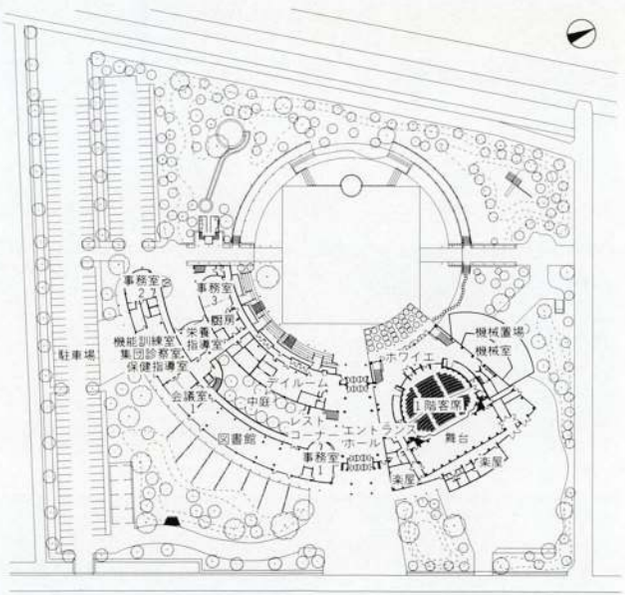
豊郷町にある千樹寺が発祥の地とされる江州音頭は、滋賀県をはじめ周辺でも夏の盆踊りとして親しまれている。その江州音頭に代表される豊郷町の歴史、文化の継承発展および地域文化活動の拠点となる施設が求められた。

同心円と放射軸の軸線上に扇形に開く建物の形は江州音頭で用いる扇子を模しており、この基本骨格によって豊郷町独自の空間構成の創出を試みている。

この建物は機能的には、500人収容のホールと公民館、福祉保健センターの複合施設であり、それらの施設が江州音頭を演じる円形広場を囲う形で扇形に配置されている。建物と反対側には広場を囲み配置された木製回廊があり、その屋根にはソーラー発電パネルが設置されている。約2haの敷地の中に円形広場を核として広場にむかって階段状に開かれた建物と回廊を配置し、広場を囲い込むことにより屋外空間と建物との一体化を図っている。

幸いにも私たちの予想をはるかに上回る利用状況で、この施設が今後も人々に愛され成長していくよう願っている。

(西巻　優／クカニア)



1階平面図

所 在 地 ——— 滋賀県犬上郡豊郷町大字四十九院字又手1252
敷地面積 ——— 19,456.53㎡
建築面積 ——— 4,186.80㎡
延床面積 ——— 5,091.02㎡
構造規模 ——— RC(一部S)、3F
工　　期 ——— 1994年7月～1995年9月
最 寄 駅 ——— JR東海道本線河瀬駅
撮　　影 ——— 花城辰男



航空写真



外観東南面夕景



▲1階文化ホール・客席

モニュメント▼



▲航空写真

▼メインスタンド





▲北面アプローチ

▼コンコース



作品
作風

設計 ■
安井建築設計事務所
監理 ■
鳥取市建設部建築課・安井建築設計事務所

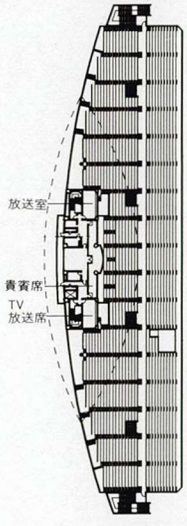
施工 ■
メインスタンド建築/懸樋・八興・富士建設・大照共同企業体
サイド・バックスタンド建築/藤原・岡本・谷建共同企業体
電気設備/栗原・吉備・北陽共同企業体
機械設備/鳥取瓦斯・鳥取管機共同企業体

鳥取市営サッカー場（バードスタジアム）

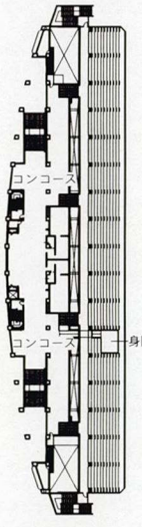
当施設は、鳥取市街地の南方約3.5kmのおだやかな丘陵をひかえる田園地帯に、サッカー専用球技場として計画されました。
その田園地帯の奥に広がる美しい山並が望める位置に、メインスタンドを配し、前面道路である県道から適度な長さのアプローチにより、スポーツイベントを訪れる人々の心理的高揚を計り、祝祭的雰囲気を盛り上げます。
メインスタンド外観は、大きな弧を描く力強いRC打放しのフレームと鳥の翼をモチーフにした軽やかな金属屋根の構成で、スポーツのもつ躍動感を表現しました。平面計画は、選手と運営関係者、観客ゾーンをそれぞれエントランスからグランドアプローチにいたるまで完全に分離し、安全で明快な動線を確保しています。
すでに全国高校総体のサッカー競技会場として供用を始め、Jリーグの試合も過日開催され、専用競技場としてのグランドとスタンドの一体感は、併用競技場では味わえない興奮と感動を観客にもたらしました。　（高田　茂・上枝真二／安井建築設計事務所）


西面外観

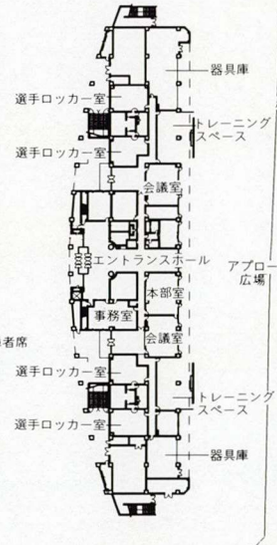
所 在 地 ——— 鳥取市蔵田地内
敷地面積 ——— 40,804.79㎡
建築面積 ——— 9,017.25㎡
延床面積 ——— 12,155.37㎡
構造規模 ——— RC、一部S、3F
工　　期 ——— 1994年2月～1995年3月
最 寄 駅 ——— JR因美線津ノ井駅
撮　　影 ——— SS大阪



3階平面図



2階平面図



1階平面図



敷地全体計画図　1：2000



作品風

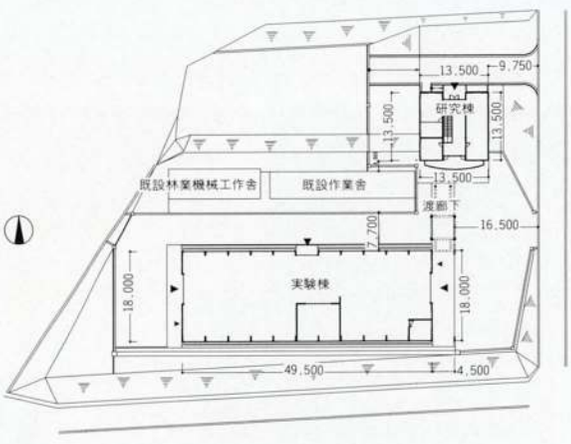
設計監理 ■
兵庫県都市住宅部営繕課

施工 ■
上林建設

兵庫県立森林・林業技術センター
木材利用研究棟・実験棟

兵庫県の西播磨地域を流れる揖保川沿いに北上していくと、山間に銀色の屋根が見えてくる。
当施設は木材の品質向上技術や新製品の開発等を行う試験研究機関である。県産材の需要拡大と木材産業の振興を図ることを目的として昨年10月にオープンした。
施設は「実験棟」と「研究棟」で構成され、両棟を渡り廊下がつないでいる。離れて見る幾何学的形態と銀色の屋根による軽快な外観は背景の緑との心地よい対比を生み出している。
実験棟は県内産の杉を利用した高さ10.5m、梁せい1mの大断面集成材アーチが13連並ぶ施設で、研究棟と渡り廊下にも集成材が利用されている。
建物に近づくと、仕上げに用いられた杉材により施設全体に柔和な雰囲気が感じられる。
建物の内側に入れば、実験棟には北側に大きな開口部、研究棟には屋根頂上にトップライトがあり、そこから差し込む光が木造の架構材をより印象的に見せている。
木材による伸びやかな空間の中で、施設を訪れる人々に木材利用の可能性の大きさを感じてもらうことが、木材利用の振興拠点としての当施設の役割の一つであろうと考える。

（福本　豊／兵庫県都市住宅部営繕課）



配置図　1:1500

所 在 地 ——— 兵庫県宍粟郡山崎町五十波字尾崎430
敷地面積 ——— 6,070.00㎡
建築面積 ——— 1,387.80㎡
延床面積 ——— 1,200.00㎡
構造規模 ——— W（大断面集成材使用）、一部RC、1F～2F
工　　期 ——— 1994年12月～1995年9月
最 寄 駅 ——— JR姫新線新宮駅
撮　　影 ——— ナムラフォート


外観全景


▲実験棟内部

研究棟玄関ホール▼



海側外観



西面住宅地側外観（スクリーン）

作品
作風

設計監理 ■
東畑建築事務所・総合企画アンド建築設計

施工 ■
立建設

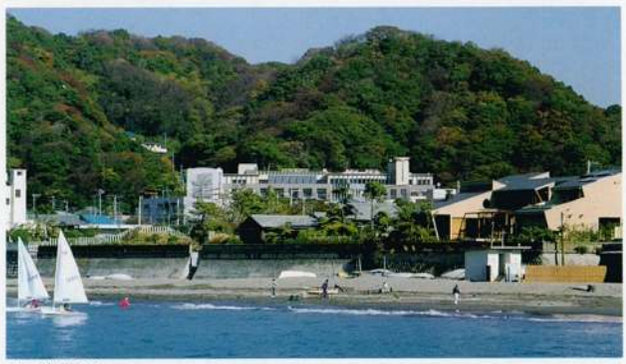
大同生命葉山セミナーハウス

葉山は、関東の中でもひときわ穏やかな海と明るい陽光に恵まれた地である。この町の古くからの別荘なども点在する住宅地の一画の、相模湾を一望できる小高い山の斜面にセミナーハウスが計画された。

この立地にあって「環境といかに関係するか」を設計上のひとつのテーマと考えた。周辺の比較的小さなスケールの集積に配慮しながら、背後の豊かな緑や眼前に広がるみごとな眺望を生かす全体構成を検討し、傾斜地という地形にも対応したボリュームの適度な分節と重層的な構成を図りつつ、全体として「開きながら閉じる」といえるような内外の関係をつくった。内部の機能により外部との関係のし方が異なり、例えば個室の前のスクリーンはプライベート(内部)とパブリック(外部)の関係を調停する役割をもっている。

内部のデザインにおいては、都市の稠密なオフィスから「葉山に移る意味」を重視しようと考えた。そこに求められるのは研修のための機能的なスペースだけでなく、ゆとりある思索のスペース、親密なコミュニケーションスペース、自然と対話できるスペースといった「非日常的生活空間」である。そのため、機能性が重視される研修室においても照明の柔らかな扱いなどによって自然の様相を内部にデザインすることを試み、またパブリックスペースでは、相模湾を見晴らすラウンジやテラス、緑の垣間見えるアルコーブといったいわば「積極的な残余のスペース」において、研修の合間のインフォーマルな人や自然とのコミュニケーションが誘発されることを期待した。内部空間は地形に呼応しながら縦横に連結され、ここで得られる流動的で多様なシークエンスの体験が、葉山の印象として利用者に銘記されるであろうと考えている。

(米井　寛・廻はるよ／東畑建築事務所)


森戸海岸より

所 在 地 ——— 神奈川県三浦郡葉山町堀内
敷地面積 ——— 4,226㎡
建築面積 ——— 1,998㎡
延床面積 ——— 4,645㎡
構造規模 ——— RC、2F、B2F
工　　期 ——— 平成5年10月～平成7年10月
最 寄 駅 ——— JR横須賀線・逗子駅
撮　　影 ——— エスエス横浜・華輪和彦


4階大研修室


4階ロビー・資料コーナー


▲3階ラウンジ

▼2階受付・ロビー




新開地劇場

作品風

設計■
大成建設大阪支店一級建築士事務所
監理■
神戸市住宅供給公社
施工■
大成建設神戸支店

新劇ビル

当建物が位置する神戸新開地は、戦前まで神戸の娯楽と文化の中心として繁栄していました。この地で、現在まで大衆演劇場を持つオーナーが、大衆演劇場（210余席）と90戸の特定優良賃貸住宅（神戸市住宅供給公社一括借上）との複合建物として、計画されたものである。

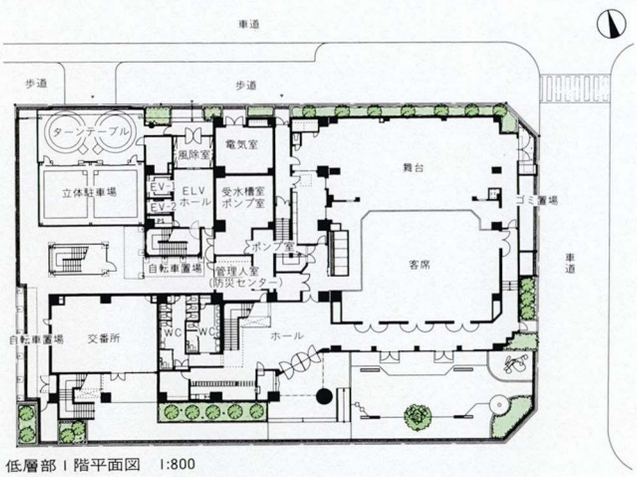
高層の住宅棟と低層の劇場棟とで構成され、軀形の敷地の三方の道路に面している建物周囲には、緑地及び緑地広場を設置し、特に南側新開地本通りに面した広場は、道路と一体感が保てる様に計画しました。

外観は、地域の「新開地まちづくり構想」にそって計画し、劇場のファサードの特色を生かしつつ、高層部の住宅棟との調和をはかり、又、周辺の景観との調和にも留意し、明るい色調でまとめております。

住戸は、66～67㎡の3LDKタイプを基本とし、高齢者対策として、浴室・洗面所廻り以外は、床の段差を極力無くしました。又、劇場内部の客席は、床・椅子を赤、壁は濃淡の紫色とし、その他ホールまわりも含めて、大衆演芸場の特色を表現した色調となっている。

最後にこの建物が、新開地の街の活性化の一端を担ってくれる建物として発展していってくれることを、願っています。

（杢谷通夫／大成建設設計部）



低層部１階平面図　1:800

所 在 地 ――― 兵庫県神戸市兵庫区新開地5丁目2-3及2-29
敷地面積 ――― 2,028.11㎡
建築面積 ――― 1,431.66㎡
延床面積 ――― 10,679.53㎡
構造規模 ――― SRC、14F、P1
工　　期 ――― 平成５年３月～平成７年11月
最 寄 駅 ――― JR神戸線・神戸駅
撮　　影 ――― 伸和

◀南東面外観

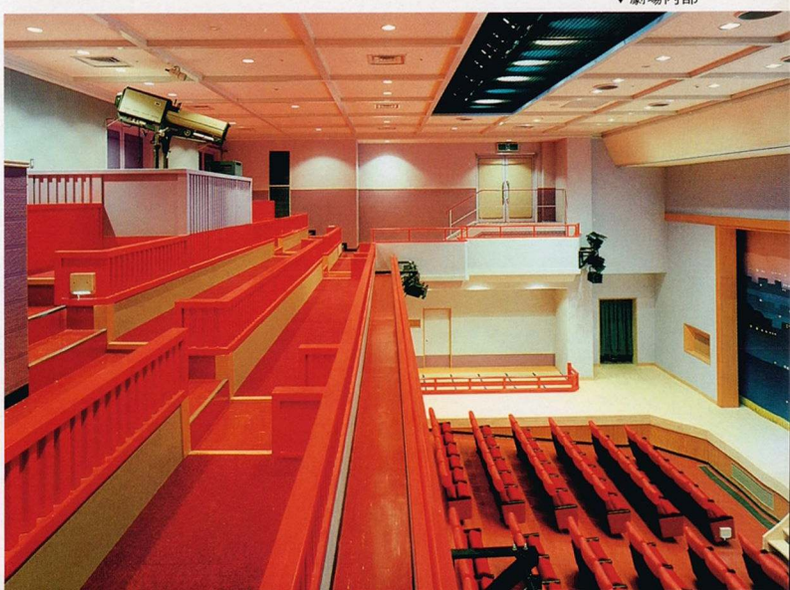


見上げ



▲劇場１階ホール

▼劇場内部




障害者用

作品
作風

設計監理 ■
大林組

施工 ■
大林組

尼崎信用金庫池田支店

尼崎信用金庫池田支店は大阪府郊外、阪急池田駅近くの見通しのよい小さな交差点に向いて位置している。
本計画の主題は「開放の仕掛け」である。近年、多くの金融機関の自動運行時間が延長されてきた背景のもとで、社会の変化に応じた建築のあり方を模索し、「銀行の開放性」を追求している。
建物は、敷地対角に走るスリットを境に、交差点側のパブリックゾーンと、反対側のプライベートゾーンに分けられた単純な構成である。パブリックゾーンとなる開放ロビーは、円弧状の透明なガラススクリーンと吹抜上部のトップライトで覆われており、外部からの透過性と内部での開放感を生み出している。さらに、かつての銀行のイメージであった「威厳のある重厚感」が込められた一枚の石の壁による対比で、透明なガラスのロビーの開放性を高めている。機能的にも、客用ロビーとCDコーナーを仕切るシャッターを設けずに、両者が営業時間外でも一体化したパブリックスペースとして店舗内部が開放される。空調設備計画においても、2階吹抜上部で吸い込んだ空気を1階の床から吹き出すことで、透明空間に対する空調負荷低減と、足下の適温確保に配慮している。
「透明なガラス箱」、「ガラスと石の対比」、「空間の統合」を、キーワードとして生まれた小さな建築は、人との関わりを尊重した新たな銀行のあり方を示唆している。　（下田英雄・荒井庸行／大林組）



1階平面図　1：400

所在地 ——— 大阪府池田市満寿美町2-17
敷地面積 ——— 459.97㎡
建築面積 ——— 314.70㎡
延床面積 ——— 597.14㎡
構造規模 ——— S、2F
工　　期 ——— 1995年6月～1995年11月
最寄駅 ——— 阪急宝塚線池田駅
撮　　影 ——— 岩田光弘・稲住泰広






阪急今津駅


阪急今津駅

作品風

設計■
阪急エンジニアリング
監理■
阪急電鉄鉄道施設部

施工■
奥村組・森組共同企業体

阪急今津駅

阪急今津駅は、今津線の高架化事業に伴い建築された高架駅である。1階がアプローチ、2階がコンコース、3階がホームで構成されている。将来、阪神今津駅の高架時に連絡する為の連絡橋を一部先行建設し、妻面にとりつけている。

外装計画にあたって、「今津らしさ」を表現するために、漁港―灘五郷の1つ―学問の町として発展した今津の歴史的記憶・遺産をデザインモチーフとして、それらを駅の本来の特性・機能である象徴性・発信性を表現しうる素材とディテールで構成することを試みた。具体的には、長手の立面は、今津港を行き来した樽廻船の垣立部分と酒蔵の高窓、コーナーは今津灯台、妻面は現存する六角堂のイメージを引用している。これらのイメージ展開を金属パネル、ミラーコートパネル、ガラスカーテンウォール等の現代の材料で構成した。

なお、駅舎のII期工事と1階店舗工事は、今後も継続して工事を行うこととなっている。

この駅が、今津の人々に親しまれ、町のさらなる発展に寄与することを願っている。

(阪急エンジニアリング)

所在地――兵庫県西宮市曙町
建築面積――1,960㎡
延床面積――2,100㎡
構造規模――RC2F+S上家
工　　期――平成6年3月～平成7年12月（第I期）
最寄駅――阪急今津駅
撮　　影――SS大阪



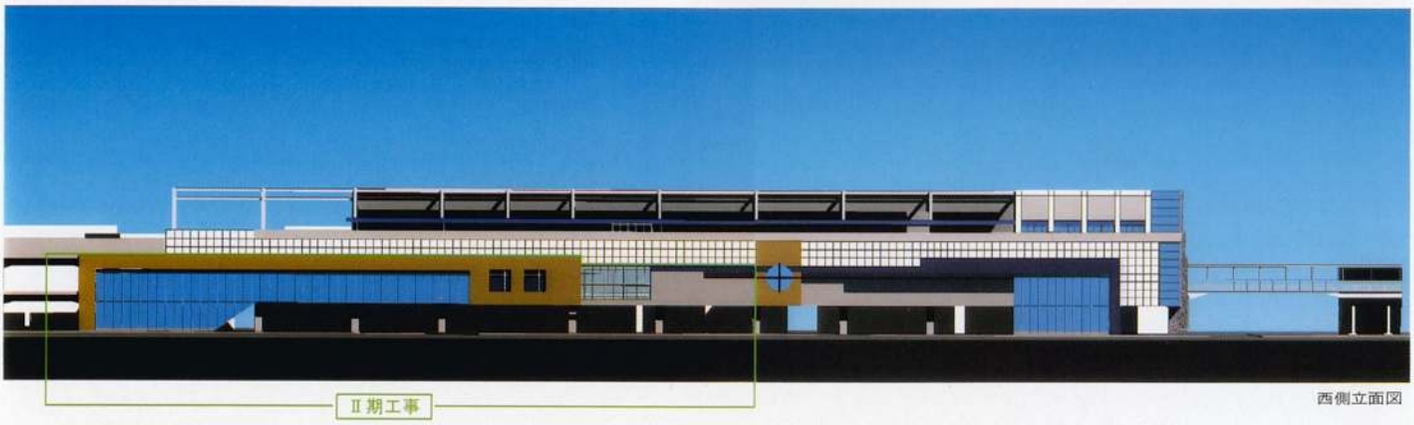
垣立イメージのパネル構成



2階改札口附近



ホーム



西側立面図



いきいきタウン大府　こだわりとさりげなさと

この連載では、既に10人を越える建築家にデートスポットを紹介していただいているが、実は女性の登場は今回が初めてである。近年の女性建築家の活躍を考えれば非常に不自然なことで、これもただただ我々男性編集委員の怠慢などと反省しつつ、眠たい目を擦りながら8時15分新大阪発の新幹線に乗り込み名古屋へと向かった。

今回の目的地は愛知県大府市、名古屋から快速で20分位のところに位置する郊外住宅地「いきいきタウン大府」である。これは国が全国15カ所で推進する「生涯学習のむら」に指定された、愛知県の居住環境整備事業「いきいきシルバー居住計画」の第1弾であり、そこにコミュニティーの核施設として、公民館的な機能を果たす「いきいきプラザ」と、在宅高齢者福祉を担う「デイサービスセンター」が建設された。そしてその2つの建物を設計されたのが、今回ご登場願う笠嶋淑恵氏というわけである。

設計者と使用者の想い

駅前での待ち合わせに少し遅れてやって来られた笠嶋氏は非常に小柄な印象の方で、きっとそうに違いない日常の激務にこんな体で耐えられるのだろうかと、思わず勝手な心配をしてしまうほどである。その華奢な体を装う服装は一見シンプルながら、しかしよく見れば確固としたこだわりがあるといった感じのスタイルで、たびたび見かける「私はいかにも建築家です」的なスタイルが非常に苦手な私にとっては（というよりそんなものを好む人が果たしているのだろうか）、まずはほっと一安心の初対面であった。

駅からタクシーで5分ほど走ると、右手に銀色に波打つ屋根がふわりと空にその姿を現した。「雑誌で見たのとおんなじだ」などと馬鹿なことを考えている私を尻目に、笠嶋氏はスタスタとデイサービスセンターへ。慌ててついて行くとエントランスでは所長の糠谷氏が出迎えて下さっていて、聞けば今日は休日にもかかわらず、我々のためにわざわざ出て来て下さったとのこと。糠谷氏からデイサービスセンターについて簡単な説明を受けた後、早速お二人に施設を案内していただくこととなった。お二人の話を伺っていて面白いのは、設計者の笠嶋氏と施設の使用者である糠谷氏とでは話して下さるポイントが微妙に異なってくることで、糠谷氏はやはり器具や部屋の使い勝手についての話が中心となり、一方笠嶋氏の解説はどちらかというと空間性への細やかな配慮や、その重要性へとウェイトが傾いていく。それが時には二人の間にズレを生み、糠谷氏から使い勝手の問題が指摘されると、「ではこうしてはどうですか」と笠嶋氏がすぐさま（本当に間髪入れずに）改善策を提案され、しばらく二人の接点を探し出す会話が続く。そんなやりとりが非常に和やかに進むのも、やはり互いが相手の立場をしっかり尊重されているからだろう。2階には建物の端から端までを貫くかたちで1本のハイサイドライトが設けられているのだが、そこから差し込む西日の強さは笠嶋氏の予想を超えるものだったようで、糠谷氏がその強烈さを訴える。そしてちょっと申し訳なさそうにハイサイドに簾を取り付けてしまったことを打ち明けると、実物を見た笠嶋氏は一言、「いいじゃないですか」。ささやかながらも設計者と使用者の想いが重なった、気持ちのよい一瞬であった。

シュタイナーの人智学から死生観へ

一通り見たあとソファーに戻り、この施設の設計に関する笠嶋氏の思想に話が及ぶと、笠嶋氏は一気にたたみ掛けられた。「シュタイナーの人智学は私は大変優れていると思ってるものですからね、その人智学で、老人施設に対してどういうことを考えているのかなと思って、ドイツから取り寄せて一通り読んでこの設計をしているんですけどね、まず『太陽の光の1日の変化、季節毎の変化(例えば朝の光、昼間の光、夕方









と　き　平成７年10月28日
ところ　大府市デイサービスセンター、大府市いきいきプラザ
（愛知県大府市横根町狐山）

の光等）を感じとることによって、時間の経過を確かに感じとること』っていうことがすごく大事だと言っているんですよ」と自然光の重要性を強調された。確かにこの施設には開口が多く、またその面積も非常に広い。話を伺っていたのは１階南側の休養室と呼ばれている部屋のソファーなのだが、そこまで聞いて初めて、自分がさっきから妙に落ち着いていることに気が付いた。何というか、上質な（「豪華」ではない）住宅の居間に通されたような、そんな心安まる光で空間全体が満たされているのである。「実際はね、どうしても機械的なサポートの方が、例えば機械浴ができるとかね、そういったことが優先されますね、もちろんそれはそれで重要で不可欠なんですけども、もうちょっと空間性みたいなこと、どういう空間が老人にとっていいのかっていうことも、それはまだこれから試行錯誤されると思いますけども、私としてはそういうことを考えた上で施設を設計しています」。

この施設が掲載された雑誌には、建築に「地に還る波」というタイトルが付けられている。そのことを伺うと笠嶋氏は少し苦笑いされながら、「高齢者にとってそういう呼ばれ方が好きか嫌いかはあるでしょうけど、私は人間が死を迎えるということは、また元に戻るっていうね、つまり死に対して余り否定的でもなく、心豊かに戻っていくっていうような、まあそういう意味ですね」と死生観についての話となり、さらに日本の高齢者とそれを取り巻く日本の社会に対する厳しい批判へと連なっていく。「日本の高齢者はそういうこと（死について考えること）を避けていますよね。自分がどうやって死を迎えるかっていうことを、私なりに考えながら設計したいと、元に戻って行く前の時期を過ごす場所として、自然にそのまま還っていくような、そんな場所にしたいと考えて設計しました」。笠嶋氏はそんな想いを、最後に〝内的充足〟という言葉で締めくくられた。

こだわりとさりげなさと

デイサービスセンターをあとにして、いきいきプラザへと向かう。こちらは集成材を使った構造的にも面白い（と笠嶋氏は説明して下さったが不勉強な私にはよく分からなかった）建築で、まずなによりもＳ字に反曲した大屋根がその存在感で目を引く。しかしその屋根は決して威圧的なものではなく、外に立つ人を迎え入れ、内部に入れば外へと空間を流して連続させてゆく軽やかなもので、そんな屋根に誘い込まれるようにして２人で内部へ。先の建物でもそうだったが、話をしながらも笠嶋氏は常に建物の細かなところに気を遣われていく。戸の開き具合を確かめ、中途半端に下がったブラインドをたたみ、位置のずれた電灯を自ら椅子に上って直されていく。そしてそんな細やかな配慮は建築そのものにこそあると言わんばかりに、階段下に取り付けたベンチや、ちょっとしたアルコーブ、踊り場のふくらみや木製サッシュのディティールなどについて、笠嶋氏はその重要性をひとつひとつ熱心に語っていく。

そんな笠嶋氏の徹底したこだわりは、それが決しておしつけがましさとなって訪れる人を強迫することがない。全ては様々な人たちの多様な行為を誘発する、ある空間の佇まいを生み出すために向けられている。だからコミュニティーの核施設を設計するといっても、「対話」や「絆」といったものを強要するような、よくある「いやらしさ」が建物には全く感じられない。そんな建物の性格は笠嶋氏の人柄そのままで、初対面の時の印象そのままに、話を伺っていく中で建築空間と笠嶋氏自身が重なっていく、そんな２時間のデートであった。

企画／会員企画小委員会　文・高岡伸一

being 38

老人介護の妖精



老人の意欲をひき出す
下山名月

ほら、こんなふうにと、とても小柄な下山さんが軽々とお年寄りを持ちあげます。ベッドから車椅子へ、そして便器へと、お年寄りの介護を実演されながら下山さんの講演は進みます。なるほどと感心しながら聞き入るうちに、その話の基点がすべて介護される側のお年寄りにあることに気が付きました。いつの間にか、自分が老人になったら、あんなふうに介護されたいと思ってしまうのです。決して筆者がその予備軍だからではありません。下山さんは、ふとしたきっかけで老人福祉の世界に入られました。それは新聞公告の求人欄だったそうです。

特別に福祉や介護の教育を受けたわけではありませんでした、たまたま職を捜していらっしゃった時にそんな求人があったのだそうです。そこは老人病院でした。ヘルパーとして働くうちに、なぜこんなに行き届いた施設の中でお年寄りがだんだん表情を無くしていき、寝たきり状態になっていくのかと不思議に思いはじめました。元気で歩いてきたお年寄りも、入院したことによって寝たきりや、ぼけの状態に追い込まれるのではないかと気付きました。自分でしようとする意欲とか、希望みたいなものが奪い取られていくのではないかと思いはじめました。下山さんのお話は聞く者の心に素直に入ってきます。何の衒いもなく、信じるままに行いを重ねてきた人に、自然に存わった説得力があるのです。お年寄りは、病気や障害が原因なのではなく、その人の置かれた環境や、介護などとの関わり方によって、その人は生きいきもするし、寝たきりやぼけにもなるのです。それと、もうひとつ、下山さんが主宰して始められた「生活リハビリクラブ」を作るきっかけになった動機です。それは、家庭で介護していく場合に、家族だけが看るのではなくて、家族でない他人が看護に参加することによって初めて、社会との接点が生まれ、緊張したり、ほっとしたりという生活のリズムができ、人間らしい生活が実現するのではないかということです。病院に入る前に自宅で暮らし続けるための、家族とともに生活することを支援できる施設が欲しいという気がしたのでした。



人間復帰の場「生活リハビリクラブ」

川崎市に、生協が運営する「生活リハビリクラブ」はあります。最初は専従の医療職員も、看護職員もなしに始められました。主宰者の不安と、周囲の反対もありましたが、デイサービスセンターは家庭の延長にしよう、そこで普通の生活をしてもらおうという原点から始められました。そこで家族以外の他人が入っていき、お年寄りの失われた人間関係を改めて作っていくのです。デイサービスセンターでは、家族が大変ですからお預かりすると同時に、人間復帰のお手伝をさせていただくというわけです。

生活リハビリってなんですか。

起きたい、歩きたいという目的をまず作ること。そうすると結果として、腹筋が収縮して起き上がったり、足の筋肉が動いたり関節が伸びたりします。老人のリハビリは、ガマンして苦しい訓練をして筋肉を鍛えようとするのではなく、欲求を目的に置き換えて自然発生的に体が動くようにすることです。それを生活リハビリと呼んでいます。

（生活どリハビリ研究所代表：三好春樹氏）

下山さん、どこからそんな力は湧いてくるのですか

先がないと思われている人たちのために使っている力より、希望のもてる、可能性のあることのために力を使うほうが負担がウンと少なくなります。お年寄りというのは可能性がないと思っています、けれどやり方ひとつでどんどん生きいきしてこられます。もちろん年を取るにつれて、だんだん弱っていくところはありますが、それは自然な年の取りようです。年相応に生きいきとその人らしく、最後まで個性を発揮して生きていかれるのを援助していくのが介護の理想だと考えます。

お話をうかがい、建設時に下山さんが助言された、特別養護老人ホーム「ハートふる須磨」を案内していただきました。「ハートふる須磨」はＮＴＴが運営している老人ホームです。ＮＴＴのOBとおっしゃる施設長の藤井さんをはじめ、下山さんの影響もあるのでしょうが、優しく一生懸命な気持ちの伝わってくる、素敵なスタッフのホームでした。ホームを廻る下山さんは、出会うすべてのお年寄りに声をかけます。手をとり顔を近づけ話し掛ける下山さんは、老人の意欲を引きだす妖精（三好春樹氏の表現を借りると）という形容がぴったしです。よほど機嫌の悪いお婆さん（たまにはこんな人もいるものです）でないかぎり、本当にうれしそうな笑顔が返ってきます。各部屋では、ご自分の住んでいらっしゃる区画をそれぞれに工夫していらっしゃいました。無知な私は不用意に下山さんに聞いてしまいました。「皆さんいつまでここにいらっしゃるんですか。」「ずーっとです。」アッ、自戒にかられながら考え込んでしまいました。４人部屋が補助対象の最小基準です。そのベッド配置は、窓側に２人、廊下側に２人と、病室のプランと同じなのです。老人福祉施設は病院ではありません、個人を対象とした集合住宅です。お風呂や食堂等色々な部分の配慮に感心しましたが、お話をうかがううちに、建築家のまだまだ行き届かない多くの場面に思いいたりました。下山さんのような実践的指導者と協同して、少しでも理想に近いケアホーム作りを推進したいものです。

下山さんは１年の半分以上、全国の老人福祉施設や市町村を廻って指導や講演をされるそうです。３泊４日でハートふる須磨に指導滞在されるという下山さんと別れて、寒い風に吹かれながら、彼女のことばを反芻しました。

「意欲のない人は老人と呼ばれるまで長生きしません。生活意欲、生命意欲があったから老人になったのです。それを引き出すような条件さえ作れば、寝たきりといわれる人が、まずご飯を自分で食べるようになります。可能性を周りが摘み取っている部分が多いような気がします。」

写真提供：下山名月
文：北村恭一（大建設計）

インタビューには大阪市生野区・保健婦　小林早智子氏に同行戴きました。文章は三好春樹氏の著書「新しい老人ケア」対話篇（雲母書房）を参考にさせてもらいました。

下山名月（しもやまなつき）
生協が運営する「生活リハビリクラブ」（川崎市）の創設者。現在は「オールラウンドワーカー」と自称して、全国の地域や施設で、老人の生活ケアの実地指導に飛び廻っている。小柄な体からあふれる情熱とパワーが現場のファンを引きつけている。
連絡先：生活とリハビリ研究所 TEL 03-5992-0920





バリア・フリーもよく考えよう

お年寄りにとって理想の浴槽は、普通の個人浴槽で、側壁が真っすぐに立ったものです。バリア・フリーなどという概念に捉われて、段差のない大型浴槽を床に掘ったりしてはいけません。入浴後の疲れた体でその浴槽の床から這いあがることを考えてください。浴槽に入って、四周の壁に体を支えられるように、そして立ち上がるときに自分で摑まったり、介護者が手を添えやすいように小さく、浮力を使いやすい深い浴槽がベストです。

ご自分の助言で作られた木製浴槽にご満悦の下山さん
（ハートふる須磨にて：北村・写）



gallery

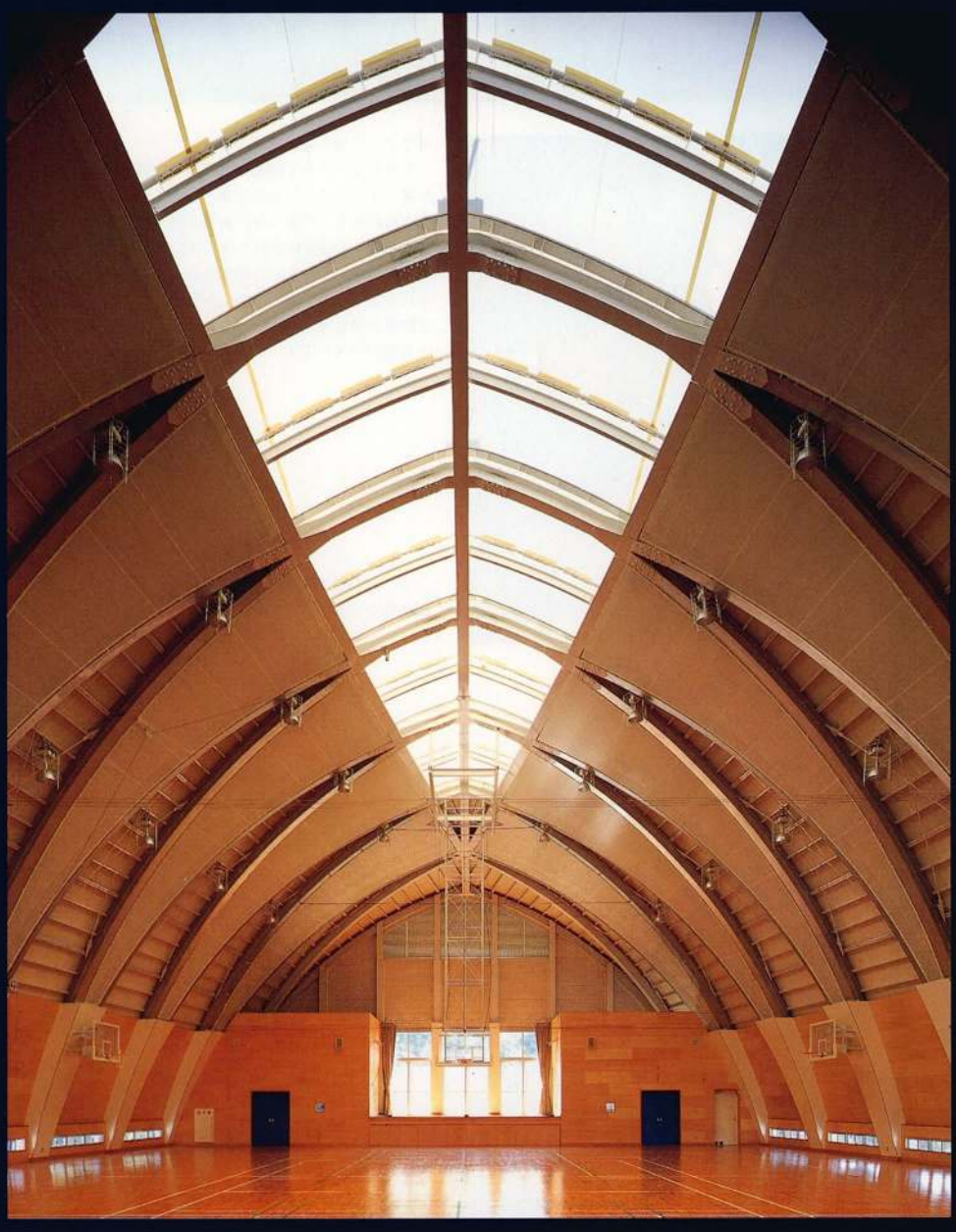
ルネス学園体育棟
魅きつける空間

設計
葉山　勉

「ユニークな建築をつくって欲しい」。施主である学園理事長のこの言葉から設計はスタートした。ユニークという、ごく日本的な曖昧な言葉をどう解釈すればよいものか。いわゆる従来の体育館からは抜け出したものにはしたい。が、単なるかたちの遊び、デザインの押しつけはしたくない。そこで建築の原点に立ち返り、空間それ自体がある「力」を持つことによって、人を魅きつけることができないかと考えた。アーティスティックであり、かつコストを押さえた実用的である空間。それを構造体の規則正しさと船底を反転させた動きを持つ空間のヴォリュームによって、緊張感と安心感が微妙なバランスをもって同時に存立する空間として実現させた。内部を体験する人が「揺れ」を感じるような空間である。内部空間のあらわれとしての外観は、緑ゆたかな背景の中で新しい丘のような様相を見せつつ、すでに風景の一部として溶けこみつつある。

葉山　勉（はやま　つとむ）
1961　鳥取県米子市生まれ
1986　京都工芸繊維大学大学院修士課程修了
　　設計事務所ゲンプラン、上田篤都市建築研究所を経て
1991　葉山建築設計事務所　設立
　　京都精華大学専任講師
1994　設計組織　B.B.アーキテクツ共同設立

撮　影—ナカサ＆パートナーズ。
　　中道　淳
企画編集—川上比奈子（作品作風小委員会）









神戸都心に芸術拠点とモデル住宅地を

建築家　佐野　正一

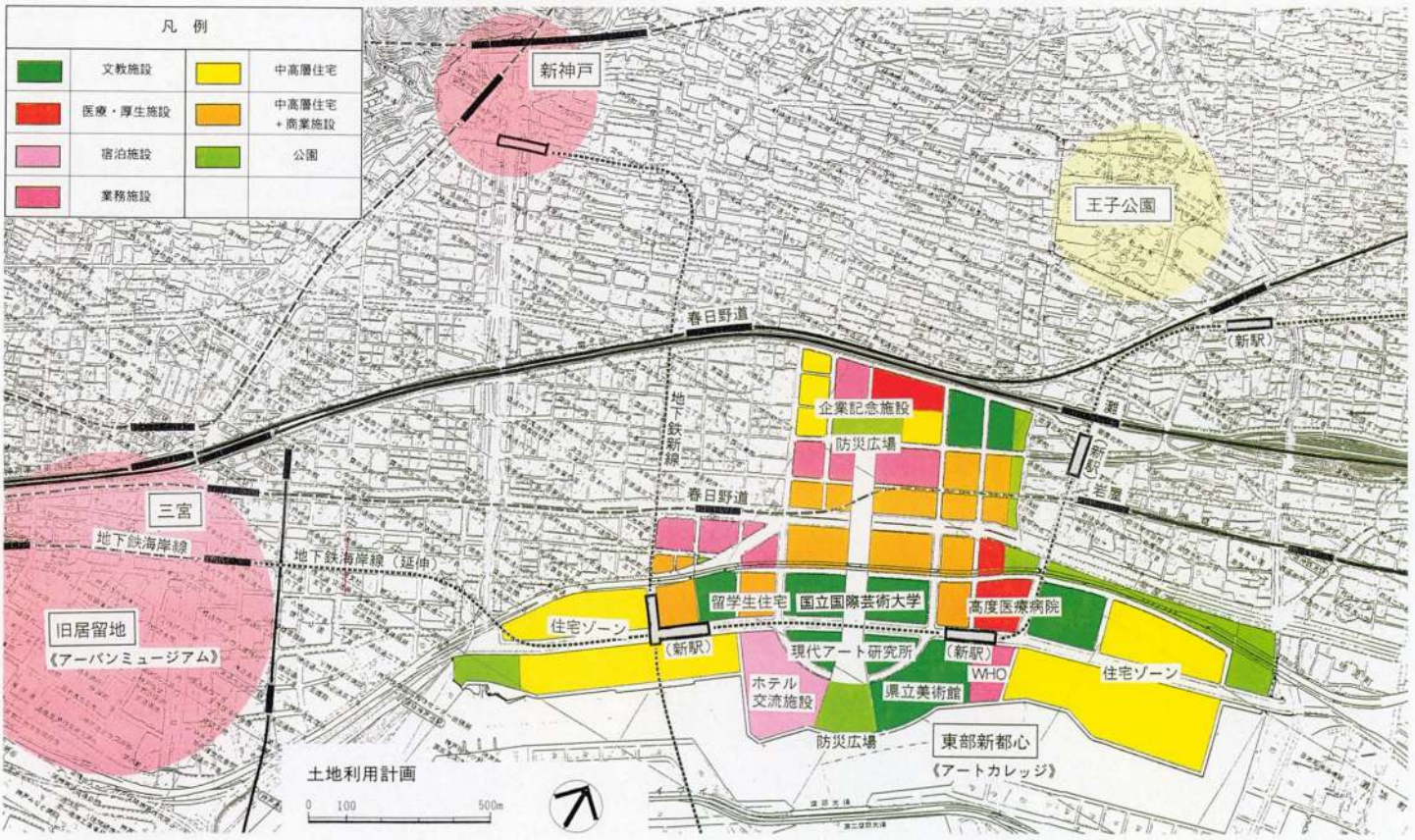
阪神大震災から一年が過ぎた。復旧工事の速やかさに較べて、復興事業は思いのほか停滞している。昨年夏に、兵庫県・神戸市の復興計画が策定され、その道筋が一応明らかになり、いくつかの重要プロジェクトの具体化作業が進められている。その中にあって、中央区と灘区にまたがる大規模工場跡地（約80ha）を対象とする「東部新都心計画」は、本格復興の嚆矢として人々の期待と注目を集めている。

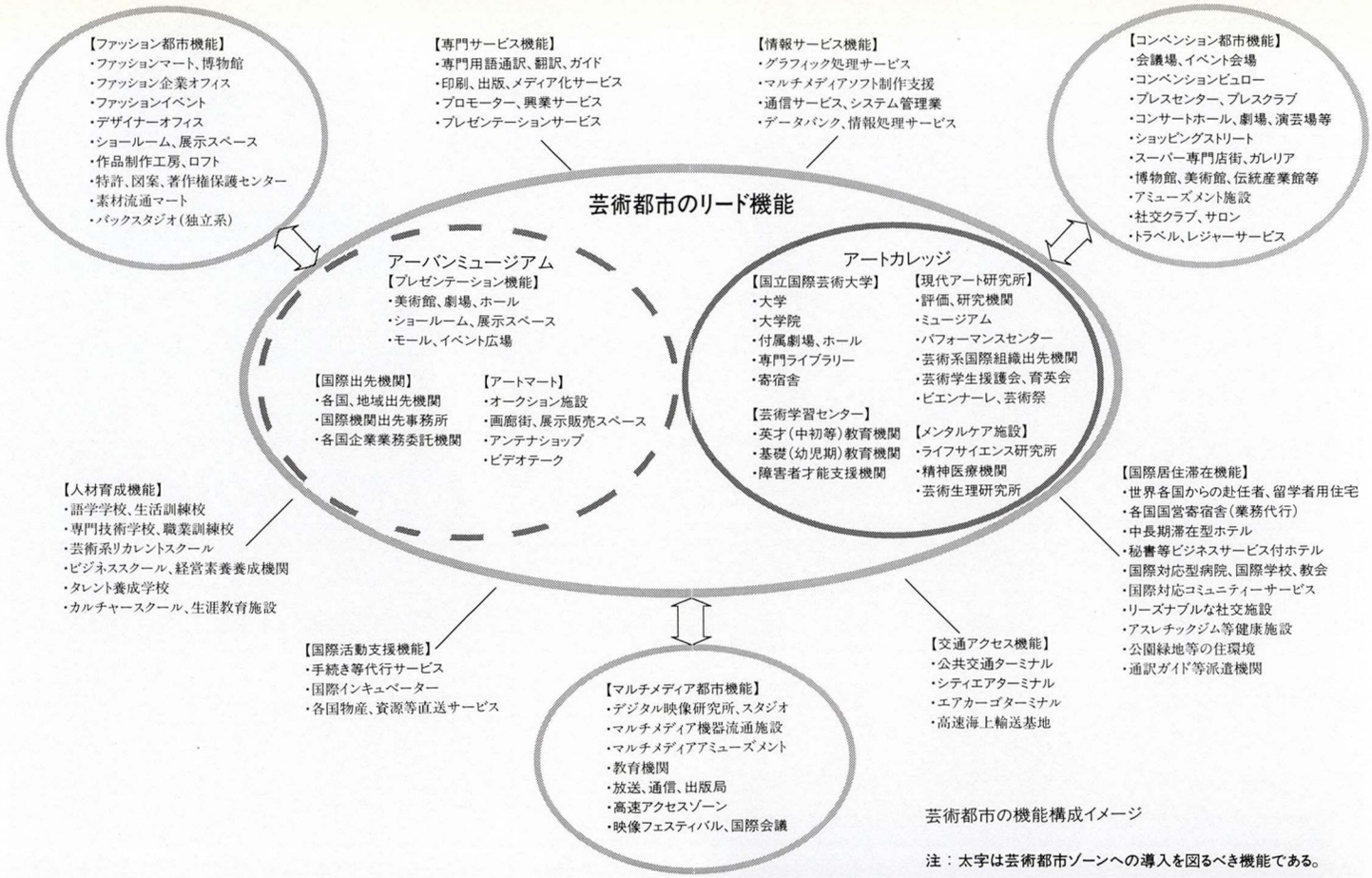
このプロジェクトは、神戸復興の意気込みを内外に示すものであると同時に、今後の神戸ひいては阪神地域の再建の方向を指し示す役割も負っている。その意味でこの開発には今後とも多くの人々の様々な知恵が結集される必要があると考える。私は、このような認識のもとに、この度私見をとりまとめることとした。

施設用地には経済再建のキー機能を

本設住宅が切望されている今、この計画の土地利用の主体が住宅となることは、当然のことである。しかし、住宅以外の施設用地の使い道については、神戸の産業・経済の再建の方向を見据えた明確なビジョンのもとに戦略的に考える必要がある。神戸の産業は、戦前・戦後を通じ港湾、海運、鉄鋼などの基幹産業部門をリードし、経済の安定成長期以降はいち早くハイテク、ファッション、コンベンションなどへの転換を進めてきた。重から軽へ、物から情報への産業の質的転換は先進国共通の流れであるが、神戸はこの流れを的確にリードし、街づくりの理念としても「アーバンリゾート都市」を掲げていくつかの実績を積み重ねてきている。こうしたこれまでの神戸の蓄積と文化の香り高い関西圏における神戸の役割を考え合わせると、これからの神戸にとっては、文化的情報発信力の向上とそれを産業に結び付ける条件の確保が格別に重要であると考えられる。

神戸の再興を担うこの開発においては、そのためのキーとなるような機能・施設群の立地を構想すべきである。それは、ハイレベルの研究・教育機関であり、魅力的で活力のある展示・マート施設である。具体的には、国立の総合芸術大学を核として、これに附属する国際レベルの研究所、美術館、英才教育機関などを東部新都心に配し、芸術都市の骨格を形成する。一方、隣接する旧居留地においては、流出したオフィス機能の還流を促進する意味も込めて、その成熟した市街地環境の中に、ショールーム、オークション施設、イベント施設、工房などを展開する。





芸術都市の機能構成イメージ

注：太字は芸術都市ゾーンへの導入を図るべき機能である。

住宅地はリニア型市街地に

復興住宅の第一の目的は、被災市民に対して安住の場を確保することである。被災により深い精神的ダメージを受けた人々にとっては、滑らかな人間関係の形成が特に重要である。そのためには、適切な規模のコミュニティユニットの設定と快適で変化のある共用空間の確保が必須である。

そして第二の目的は、今後の復興住宅市街地のモデルを提示することである。これからの都市の住宅地に求められることは、街に愛着を感じ、街を楽しめるようにすることであろう。愛着を持てるためには、人々の生活の足跡が街に蓄積される条件が必要であり、楽しみにとっては、〝通り空間〟の楽しさが重要な役割を果たす。

この二つの目的の実現には、中層住宅主体のリニア型市街地が有効であると考える。それは、幹線道路を生活幹線に転換し、これを軸として各種の都市的機能を帯状に展開させ、これに直交して各々表情の異なる路地空間を配置するものである。軸状幹線は変化のある〝通り空間〟の演出を可能とし、路地空間ではそれぞれに居住者の工夫が施されることにより重要なコミュニティ空間の役割を果たす。また、リニア型市街地は、災害時の対応という面でも、救助活動、情報伝達、物資供給等各種の活動を効率的に展開し得るなど、優れた特性を有している。

以上は、神戸を精神的、文化的香りの高い魅力ある街にするための提案であり、ハードルは高くとも夢のある復興目標を掲げて前進したいと思う。

（さの　しょういち）

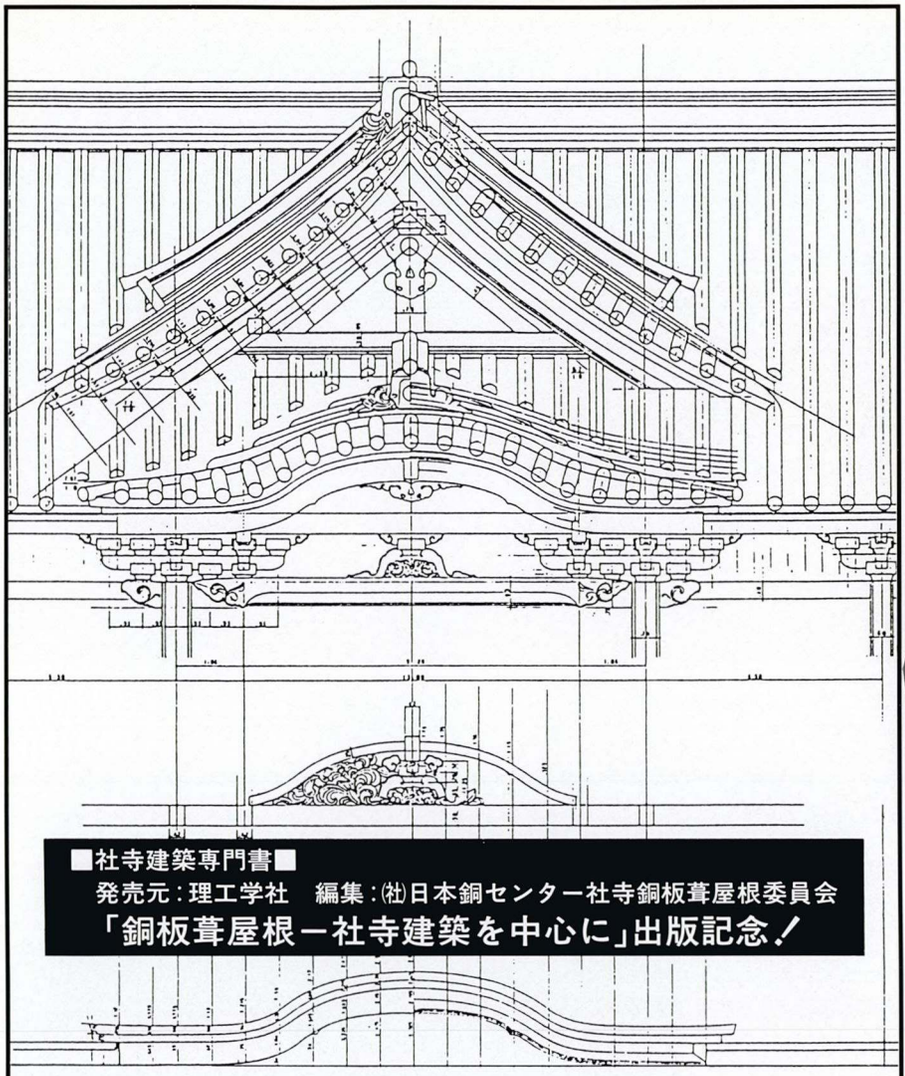


写真1　神戸芸術都市構想のアートカレッジ(東部新都心)の中心部を北より望んだもの
(模型写真)



写真2　神戸東部新都心(芸術都市)における住宅市街地を南より望んだもの
(模型写真)

社寺銅板葺屋根に関する
―シンポジウム―



■社寺建築専門書■
発売元：理工学社　編集：㈳日本銅センター社寺銅板葺屋根委員会
「銅板葺屋根ー社寺建築を中心に」出版記念！

■目　的：社寺建築に関する銅板葺屋根の設計知識並びに施工技術の向上をめざし、銅板葺による建築文化を広く普及・振興を計る目的から社寺建築設計の専門家を招きシンポジウムを開催するものである。

■主　催：社団法人日本銅センター・ICA（国際銅協会）

■後　援（予定）：建設省、通商産業省、文化庁
㈳日本建築学会、㈳日本建築美術工芸協会、㈳新日本建築家協会、㈳日本建築士会連合会、㈳日本建築板金協会、理工学社

■日　時：平成8年3月12日（火）仙台プラザ（13時～17時）
21日（木）京都私学会館（　〃　）
25日（月）東京銀座東武ホテル（〃）

■講　師：1）基調講演：鈴木嘉吉（前・奈良国立文化財研究所長）
演　題：「社寺建築の屋根と寿命」
2）解説とパネラー：山田水城（法政大学教授・工学博士）
大森健二（㈶建築研究協会・工学博士）
今里　隆（杉山隆建築設計事務所・所長）
井上説子（伊藤平左ェ門建築事務所）
望月義伸（　〃　）
斉木益栄（㈱小野工業所）

■参加申込み及び会費：希望する会場・会社名・住所・参加者（氏名）を記入し、下記のFAXにて日本銅センター宛お申込み下さい。受講票を送付します。尚、定員（各会場150名）になり次第〆切ります。
会費：1名に付き15,000円（新刊「銅板葺屋根ー社寺建築を中心に」を進呈）

ー問合せ先及び申込みは下記にー

JCDA 社団法人 **日本銅センター**
〒104 東京都中央区築地1-12-22（コンワビル）☎03-3542-6631 FAX 03-3542-6599

法令コーナー

300 京都府福祉のまちづくり条例

京都府では、昭和56年の国際障害者年を契機として、昭和57年に「京都府住みよい街づくり指針」を策定し、府立施設の整備を進めるとともに、「京都府住みよい街づくり推進事業」により、市町村における公共施設約200カ所の整備を進めてきた。府内市町村においても、昭和51年に京都市が要綱を制定したのをはじめ、いくつかの市町において、要綱および指針が制定された。

しかし、指針や要綱では実効性の確保に限界があり、内容的にも技術的な整備基準が主体で福祉の意識の高揚等が盛り込まれておらず、また、支援措置等がないため、新たな枠組みを検討する必要性がでてきた。

平成５年に「京都府21世紀の障害者福祉を考える懇談会」を設置。懇談会から、福祉のまちづくり条例の制定および建築基準法施行条例の改正を中心とする『福祉のまちづくり推進に関する提言』が出され、平成６年３月に福祉関係団体、事業者団体、建築関係団体等の幅広い参加による「京都府福祉のまちづくり推進協議会」が設置され、条例制定に向けて検討を開始した。

一方、国においても「ハートビル法」が公布、施行され、特定建築主の判断の基準として基礎的基準および誘導的基準が告示された。

「ハートビル法」の対象建築物および整備基準と整合を図りながら、平成７年２月府議会において全会一致で「京都府福祉のまちづくり条例」が制定され、その実効性を高めるために建築基準法施行条例の改正も併せて行われ、平成７年10月１日から施行されたところである。

条例の概要

１．前文

前文には本条例の目的が包括されており、各条文の解釈運用にあたっては、たえず前文に照らして行うこととされているため、全文を掲載する。

『私たちは、心身に障害があっても、高齢になっても、地域社会を構成する一員として、安心して生活を営むことができ、自らの意思で自由に移動でき、社会に参加し続けることのできるまちに暮らしたいと願っている。

そうしたまちの創出には、施設や交通機関の整備とともに、互いに理解し合い、日常的に交流しうる地域社会づくりという両面からの生活環境の整備が必要である。

超高齢社会の到来を間近に控えた今日、このような配慮が当然に組み込まれた生活環境の整備について、すべての府民が自らの課題として認識し、取り組むことが重要である。

また、こうした取り組みを通して、京都が有する歴史、文化、学術等の世界的な蓄積を、すべての人が共有し、享受できる環境づくりを進めることが大切である。

ここに私たち京都府民は、互いの基本的人権を尊重し、福祉のまちづくりの実現に向け、一体となって不断の努力を傾けることを決意して、この条例を制定する。』

２．定義

①まちづくり施設：不特定かつ多数の者が利用する建築物、道路、公園および駐車場

②事業者：まちづくり施設の設置者または管理者

３．各主体の責務

府、市町村、事業者および府民の責務を明記し、府民総参加でまちづくりを推進。

４．施策の推進

情報の提供、整備の促進および財政上の措置等、府の施策を明記。

５．まちづくり施設の整備

①施設の区分に応じて、整備基準に適合させる項目を列挙（建築物の出入口・便所・エレベーター・客席等、歩道、公園の園路・便所等、駐車場の区画等）

②規模の大小を問わず、すべての施設に対して、整備基準適合の努力および機能の維持保全の努力を明記

③整備基準に適合するまちづくり施設に適合証を交付

６．特定まちづくり施設の整備

一定規模以上のまちづくり施設について、事前協議等の手続きを義務化。

①新設については、計画の事前協議、工事完了届出、必要な報告等を義務化。手続き違反、協議内容と相違する工事を行った場合等は、勧告、氏名等を公表

②既存施設については、整備の努力。自主的に調査し、知事の要請で調査結果報告

③国、府、市町村等は事前協議に代えて計画通知

７．車両・住宅等の整備

移動手段である車両等および高齢化に対応できる住宅の整備の努力・心がけ。住宅供給者は整備された住宅供給に努力。

８．対象施設および整備基準

建築物については、ハートビル法の対象建築物と学校、共同住宅、寄宿舎、大規模工場・事務所、神社・寺院等を対象としている。

整備基準については、建築物および駐車場については、ハートビル法の基礎的基準と整合させている。また、設計マニュアルを策定し、望ましい基準を誘導することとしている。

事務処理手続き

１．設置工事協議

京都市および宇治市以外の新設については、建築確認申請に先だって、協議書を設置場所を所管する府地方振興局に提出する。

協議が成立すれば協議済書を添付して建築確認申請書を所管土木事務所に提出する。

２．設置工事完了届出

協議に係る工事が完了した場合は、速やかに工事完了届出書を地方振興局に提出する。

３．整備基準適合証の交付

適合証の交付を受けようとする場合は、適合証交付請求書に整備基準適合項目表等を添付して、所管地方振興局に提出する。

４．市への事務委任

特定行政庁である京都市および宇治市については、市域の新設に係る事前協議、完了届出の受理、適合証の交付事務を委任している。

５．既存施設の適合証の交付

府全域について、本庁保健福祉部保健福祉総務課福祉のまち推進室で交付請求書の受理、適合証交付を行っている。

支援措置

条例に基づく整備の促進を図るために、府として財政的支援を行う。

支援事業の主要なものは以下のとおり。

①鉄道駅舎エレベーター整備事業（市町村の補助も実施）――既存駅舎で、一定の乗降客があり、段差の大きいもののエレベーター設置工事に補助

②まちづくり施設整備促進事業――既存施設の整備改修のための借入資金の利子補給

③歴史的文化財共有のための環境づくり推進事業――広く一般に利用できる文化財施設について、条例に基づき行う整備に対し補助

④福祉のまちモデル地区整備促進事業――多数の人が利用する公共性の高い施設について、連続的な移動性を確保できる面的な整備を行う福祉のまちのモデル地区を指定し、整備計画策定等に補助

取り組みの現状

条例施行後、物品販売店、福祉施設、共同住宅、ホテル・旅館、駅舎、学校、病院等の設置工事協議が行われ、また、既存施設の適合証交付も２件行う等、条例に基づく整備が着実に進行している。

また、福祉のまちづくりシンポジウム、府民講座を実施し、啓発ビデオの作成、啓発ラジオスポット放送を行うなど様々な普及・啓発事業を推進しており、今後も一層多様な取り組みを府民総参加で進めていきたいと考えているところである。

乾　康雄　京都府土木建築部建築指導課係長

書評

難波を中心に日本史黎明期の都市と建築を復原

浅川滋男

日本古代の都城と建築

日本古代の都城と建築
澤村 仁 著
中央公論美術出版
1995年6月25日刊
B5判 318頁 18,540円

本書は、九州芸術工科大学を退官された澤村仁教授の代表的な論文を集成した大著である。この手の記念碑的論集は、まず「あとがき」から読みはじめるのがおもしろい。著者の研究経歴が知れるだけでなく、研究に対する眼差しやこだわりが、いろんなエピソードに映しだされているからだ。その「あとがき」によると、今では泣く子も黙る建築史学の大家として、尊敬の念を一身にあつめる澤村氏の歩んだ道も、けっして平坦なものではなかった。東大大学院で建築史を学んだものの、就職のあてもなく、定職にありついたのが昭和34年、31歳のときだった。浅野清氏の勧めもあり、大阪市難波宮址顕彰会の調査担当として、難波宮の発掘に従事することになったのである。その2年後、みごとに難波宮大極殿跡を掘りあてている。

昭和37年には職場を奈良国立文化財研究所（奈文研）に移し、九州芸工大に転出する昭和48年までの11年間、平城宮跡発掘調査部に所属した。じつは、わたしも30歳で奈文研に入所し、今にいたる9年間、平城宮跡発掘調査部でずっと仕事をしてきた。この1点において、澤村氏はわたしの大先輩にあたるわけだが、恥ずかしながら、わたしはこの大建築史家に会ったこともない。「雲の上の人」というのが、正直な印象である。

このような自分と重なる経歴をもつ澤村氏の大著を読んで、まず興味深く思ったのは、研究者個人としてのかれの眼差しが、10年以上の歳月を過ごした平城（なら）よりも、その前任の地である難波（おおさか）にむけられていることだ。

『日本古代の都城と建築』は、I「古代都市と宮殿」、II「寺院と寺院建築」、III「瓦と相輪」の3部からなっている。もちろん各部には、飛鳥・奈良の建築と都市、その源流となる中国の建築や都城に関する論考が幾篇も含まれ、瓦に関する叙述は奈良の古寺にほぼ限定されているから、分量だけみると、けっして大阪の話題が突出して多いわけではない。しかし、澤村氏がほんとうの意味で精魂をかたむけ、独創的な持論を展開しようとしたのは、まぎれもなく、難波宮および難波京の問題であったろう。少なくともわたしは、この本を読んで、そう感じた。

その独創性あふれる澤村氏の持論とは、①いわゆる「前期難波宮」が大化改新(645)直後に遷都された孝徳朝の長柄豊碕（ながらとよさき）宮にあたり、②その時期すでに中国の影響を直接的にうけた都城制が施行されていた、という2点に集約できる。しかし、率直にいって、この2つの澤村説は、必ずしも好意的な評価をうけてきたわけではない。とくに1960年代から、文献史学を中心にして「大化改新」否定論が展開され、孝徳朝による難波長柄豊碕宮遷都そのものを疑問視する意見があいついだ。いわゆる「前期難波宮」が朱鳥元年(686)に全焼した天武朝の宮室にあたることは問題ないとしても、それが長柄豊碕宮にまで遡るという考え方には異論が多く、また天武朝以前の都城建設についても、社会全体の発展段階からみて、基礎的な条件が整っていなかったとみる意見が優勢だったのである。

これに対して澤村氏は、文献研究者が「難波京、特に七世紀のものについての存在を疑い、あるいはその記録を軽視する」傾向を危惧し、果敢にも、古代史学者による史料批判そのものに逆批判を試みる。たとえば『日本書記』改新詔・京師条を、浄御原令もしくは大宝令の要約・引用とみる井上光貞・八木充両氏の見解に対し、改新詔と浄御原令・大宝令は唐令から等距離にあることを論証してみせるのである。このほか前期難波京の推定条坊と四天王寺伽藍配置の関係に対する狩野久氏の批判に対しても、むしろ批判の根拠の薄弱さを逐一指摘して反論している。

わたしは、なにも一方的に澤村氏の肩をもとうとしているわけではない。ただ、近年の若い日本建築史研究者たちに蔓延している、文献史学コンプレックスとでもいいたくなるような研究スタイルをみていると、日本史研究者と堂々とわたりあい、しかも建築史学の独自性を見失わない澤村氏の方法と態度に感服せざるをえない。

さて、話を難波にもどそう。澤村氏が本書に収録した多くの論文を執筆してから、すでに長い年月が経過し、その間にも発掘調査は不断に進展している。とくに出土土器の編年が精緻になり、前期難波宮の造営年代が7世紀中頃に遡る可能性がきわめて大きくなってきた。すなわち、澤村氏が早くから指摘してきた「前期難波宮＝長柄豊碕宮」説が、考古学的に実証されつつあり、あらためて澤村氏の先見性を裏づける結果となった。一方、難波京については、天武朝以前の「前期」、聖武朝以後の「後期」を通じて、明確な条坊遺構がいまだにみつかっていない。藤原京を日本都城の起源とみる通説に対して、澤村氏はそれに先行する前期難波京および倭京の存在の可能性をくりかえし指摘し、難波京については、遺存地割からその条坊復原を示しているが、それを実証する考古学的成果は得られていないのである。しかし、部分的ながらも条坊痕跡と思われる地割が存在し、また『日本書記』には、羅城築造や宅地班給の記載もみえるわけだから、今後、条坊遺構が発掘される可能性もけっしてなくはない。

いうまでもなく本書は、建築史・歴史考古学・古代史の研究者にとっては必読の論文集であるが、内容は必ずしも難解ではない。文体が平易で読みやすく、一般の方がたにも、是非とも一読をお薦めしたい著作である。この書を覗いてしばらくすれば、日本史黎明期の都市と建築の世界にタイム・スリップできるだろう。

（あさかわしげお/奈良国立文化財研究所）

BOOK STATION
ブック・ステーション

技術はコトバなり
建築語源考
飯塚五郎蔵 著

鹿島出版会
1995.4.28刊
B6判　152頁　2,163円



本書は日本の建築において大工さんや職人さんが使う建築用語を解りやすく解説したものである。今や「難しい建築コトバ」は識らない人も多く、教える人も少ない。著者は「建築は図面をもとに造られるから言葉はあまり要らないように思われるが、そうではなく設計の意図をよりよく伝える手段となる」そして大工や職人と、よく言葉が通じあえて、仲間意識がもてる「建築技術者」がより多く育ってくれるために、この本が役立つことを願うわけである」として多くの建築の専門用語を、挿し絵や写真に加えて興味深く紹介している。さらに、「本書は単なる回顧趣味や、伝統保存ばかりでなく、その意味を深く味わうことによって、或いは造形デザインの発想をもたらすかもしれないことを期待して」というように、この本は単なる用語集ではなく読むほどにイメージが膨らんでいく楽しい本である。　(I.I)

住まいづくりのタブー100
女性建築士が設計した住まいのプラン集
奥山陽子 著

経済調査会
1995.6.5刊
A5判　227頁　1,500円



住宅設計に数多く携わってきた建築家が、住まいづくりの経験の中から「これはまずいからやらないほうがいいですよ」という事項を100項あげて、これから家を建てようとしている一般の人向けに著した本である。住み方、敷地、外観、プラン、インテリア、設備、シルバー、事故、コスト、住宅にまつわるタブーの10編に別けて構成されている。プロにとっては目新しい項目でなくても、施主にとってはこういうことが気になるのだな、わかってないのかということが改めて知ることができる。また逆に、設計上見落としがちな点にもはたと気づかせられる。リビングを作っても結局ダイニングの利用が中心になってしまうとか、玄関の鍵穴が夜でもよく見えるように照明を考えるとか。施主の手のひらを知り、わが身の経験不足を補うには読みやすい本である。　(Y.I)

パースの超簡略技法
北村　稔 著

学芸出版社
1995.10.25刊
A4判　128頁　2,987円



近ごろ〝超〟の付く本が大はやりであるが、建築関係の本にもついに〝超簡略技法〟で書けるパースの本が登場した。その名の通り、従来のパースの本にありがちな小難しい図法や用語は一切ない。わかりやすくて、正確で、早く描ける作図法がうれしい。また、随所にうまく描ける〝ワザ〟や、初心者にもわかりやすいよう建築用語の解説や、各部の納まりがパースで示されていてとても親切な内容である。かつて、この手の教本にありがちな、やってくうちに線だらけになってわからなくなるか、図法を理解するのに精いっぱい応用が利かないということはない。全部理解して実行したら、本当に〝超〟パースが描けそうな気がする本である。　(Y.I)

持続可能な都市のあり方を求めて
サスティナブル・コミュニティ
川村健一・小門裕幸 著

学芸出版社
1995.11.25
A5判　208頁　2,575円



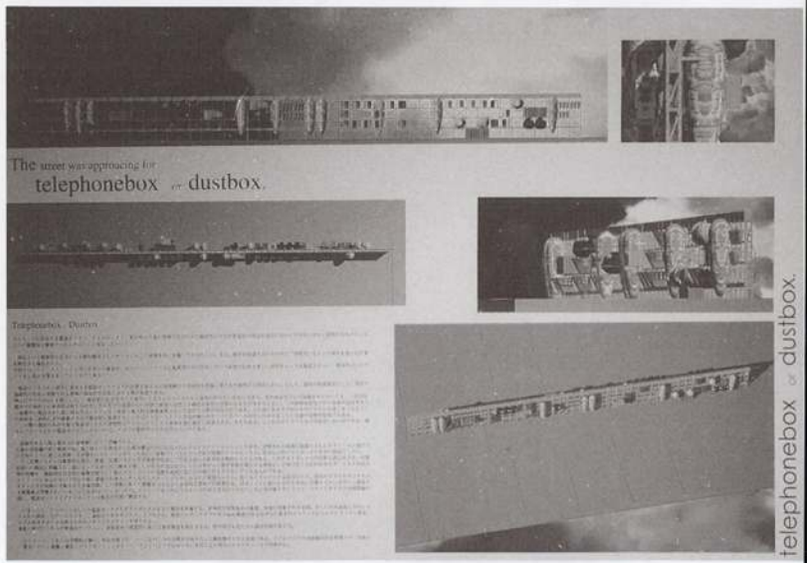
「サスティナブル」とは「持続性」であり、それは地球と人類が共生している仕組みを壊すことなく、未来に持続させていくことを意味する。それは、資源の有限性や地球環境の維持という観点から社会や経済のシステムを考え、そのコンセプトを生活全般の中で実践することである。この本では、価値観・宗教の異なる人種・民族が自由と民主主義を共通のアイデンティティとして作り上げてきたアメリカのコミュニティが、近年物質文明の進展により失われてきているという反省にたち、この考え方に基づく新しい町づくりを始めていることを紹介している。著者は、高度成長を遂げながら、いつまでもハード中心の町づくりから脱却できない日本の都市の新しい都市像・コミュニティ像に思いを巡らし、このコンセプトの有効性を確信する。阪神大震災復興の町づくりにも大いに参考にして欲しい。　(I.I)

担当：会員企画小委員会／伊藤郁郎・稲木裕子

dáスクール：コンペ「Street」を終えて…

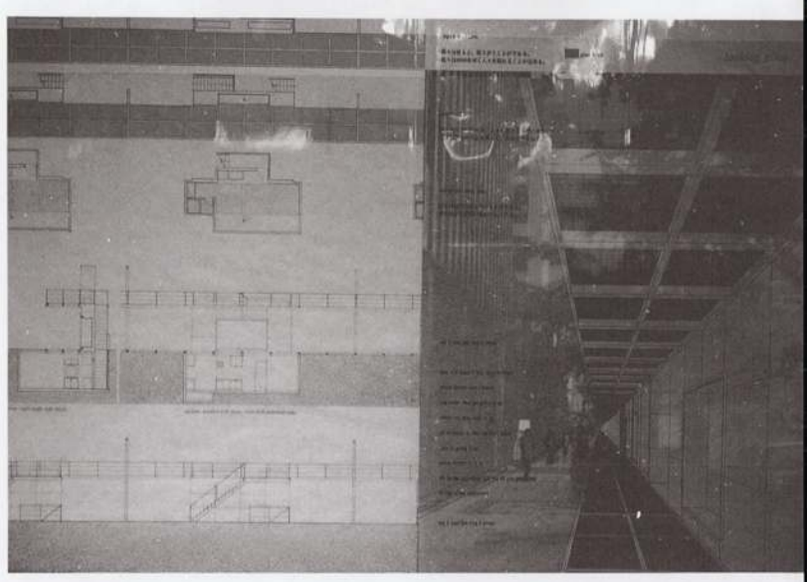
'95年11月26日、東成区にある大光電機のギャラリーが突如戦場と化した。DÁスクール：コンペ「Street」がいよいよ開催されたのである。参戦したのは８作品。予想より数が少なかったので正直言って残念だが、いずれも個性的な作品ばかり。始まる前から何かが起こりそうな予感を胸に、熱き戦いがスタートする。

先ずこのコンペの主旨を説明しておこう。今回で３回目を迎える〔dá〕の企画は、学生同志の燃えるような論議を目的としている。以前より、他大学との交流を行うために活動してきた我々スタッフが考えたのは、１対１のバトルによるトーナメント戦。日頃自分が思い描いていたことをストレートに表現し、対戦相手に思いきりぶつけてもらおうと思ったのである。そうすることによりお互いの言い分がわかり、自分の価値観が広がるのではないかと（まるで夫婦喧嘩をした２人が以前より仲が良くなるように）。そしてテーマは誰もが身近に感じられ、あまり固定概念のないものとして「Street」とされた。また誰もが参加しやすいように、応募作品はＡ２判１枚（当日模型を持参するのは可）とし、プレゼンの方法は自由とした。それが逆に応募者の心を迷わせたのか、思うように作品数は集まらなかったが、今となっては優れた作品だけが集まったので良かったと思っている。とにかく、こうして今回の企画が完成し、後は当日を待つのみとなった。



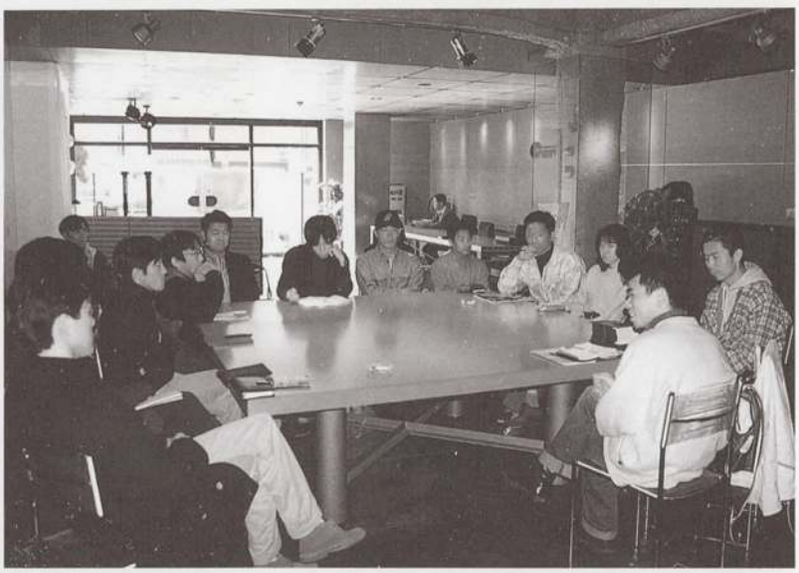


大会の日、私は午前10時30分頃会場に到着した。そして、ギャラリー内に入って驚いた。シーンと静まり返った空気の中、出品者達は何も言わず他の作品を見つめて立ち尽くしているではないか。緊張と興奮、不安と期待が入り混じった気持ちを抑え、すべての人が対戦の時を待っていた。本来ならここで予選が行われるはずであったが、作品数が８点。そのうち１人が棄権したので全員予選通過。後は対戦相手を決めるため、スパーリングとも言うべき議論が７人の間で行われた。しかし、話しは思わぬ方向に…。戦士の１人（正確に言えばタッグを組んだ２人）がプロレスで言えばレフリーに相当する司会者に挑みかかったのである。理由はコンペの目的の不明確さや、対戦型により相手を蹴落とすことへの批判であった。これに対し、司会者はこの企画の主旨を一様に説明はしたが、２人は「納得がいかない」といった表情で黙り込んでいる。そのまま10分ほど（私にはそう感じられた）怪しい雰囲気が続いた。結局あまり納得がいかないまま話しが進み、対戦相手が決定した。何か気まずさを残したまま終わってしまった午前のスパーリング。午後からの試合はどうなるのだあ？



午後１時、決戦を告げるゴングが打ち鳴らされた。１回戦は１作品が不戦勝、３試合が行われた。ルールは簡単。互いにプレゼン、弁論を行ってもらい、勝負はオーディエンスが決めるというもの。第１試合は＜Streetのストレス＞VS＜集合住宅のノスタルジー＞(作品の名前はこちらで勝手に付けさせて頂いた)。Streetのストレスは、Streetに対するストレスが膨らむ現代に、遊び心を加えることにより、それを解消しようとするものであった。図面も面白おかしく描かれており、爽やかに戦った感じがする。それに対し集合住宅のノスタルジーは、分断された集合住宅の間をStreetで繋ぐことにより、コミュニケーションを計ろうとするものであった。図面は暗いイメージの中に、哀愁を漂わす渋い攻めを見せた。勝負の方は集合住宅のノスタルジーが勝ち、二回戦へ駒を進める。第２試合は＜パフォーマンス＞VS＜Streetって道や通りとちゃうん？＞。先ずパフォーマンスはCGを使ったきれいな図面を取り出し「Streetでは立ち止まることにより、誰もがパフォーマンスを行ってるんや」と言った。一方Streetって道や通りとちゃうん？は音楽とスライドを使い、十分な演出効果。その場でパフォーマンスを行ってしまったのだ。しかし、結局「Streetってなん？」になってしまい、パフォーマンスに負けてしまった。第３試合は似た者同士の対戦。＜歩道の芸術＞VS＜







Streetの工房＞としておこう。歩道の芸術は単調に続く歩道を嘆き「何か装置を作ることにより芸術性を持たせよう」と訴える。それに対しStreetの工房は「それやったら誰でも使用できる工房を用意し、一般の人が何かを作れるようにした方がおもしろい」と反撃。お互い模型攻撃まで見せた対戦であったが、実力で勝るStreetの工房が勝ち進んだ。

2回戦は先程不戦勝であった1作品を含め、2試合が行われた。第1試合は＜ゴミ溜めと電話ボックス＞VS＜集合住宅のノスタルジー＞。先ずゴミ溜めと電話ボックスが巨大化したゴミ溜めを持ち出し、奇妙な攻撃。だがCGを使った図面は美しく、すばらしい出来栄えであった。対する集合住宅のノスタルジーはあくまでも郷愁で勝負。いわばテクノロジー対ノスタルジーの対決となった。結局弁論においても長けていたゴミ溜めと電話ボックスがオーディエンスをも煙に巻き、決勝に進出することとなる。第2試合は＜Streetの工房＞VS＜パフォーマンス＞。これがなかなかの好勝負で互いに一歩も退かず、判定でも決着が付かなかった。止むを得ず司会者2人が話し合い、パフォーマンスが辛くも決勝に進出した。その後集合住宅のノスタルジーとStreetの工房の間で3位決定戦が行われ、Streetの工房が勝利した。そして、舞台は遂にクライマックスを迎える。

決勝は順当に勝ち進んで来た＜ゴミ溜めと電話ボックス＞と苦戦しながらここまで昇り詰めて来た＜パフォーマンス＞との対戦。予想はしていたものの、やはりCG対戦となってしまった。ゴミ溜めと電話ボックスは相手の作品に対し「Streetでは見る・見られるの立場がすぐに逆転するんだよ。君が作っているものは見られる側のことしか考えていないじゃないか」と批判。対するパフォーマンスも相手の作品を見て「いったいこれは何なんや？未来的なイメージのあるこの都市を、あんたは肯定すんのか否定すんのかどっちなんや？」とやり返す。双方相手の作品を蹴落とす戦法に出たのだが、お互い詰めが甘く、決め手がなかった。おまけに乱入騒ぎまで起こり、勝負は泥沼化。そのまま時間切れとなり、勝負は全くわからなくなった。果たして、勝負の女神はどちらに微笑むのか？オーディエンスの判定は如何に…。

12月8日表彰式の日、そこには主役である優勝者の姿はなかった。優勝賞金を受け取ることを拒んだのか、最後まで我々の行った企画に対して反発したのか？理由は定かではないが、その日は主役なしの表彰式となってしまった。また、建築家・新田正樹さんは「このような学生の活動が、今後盛んになっていくことを望んでいる」というコメントを残してくれた。このことが今後の〔dá〕に、どのような影響を与えるのだろうか。我々スタッフは今後、どのような活動をすれば良いのだろうか？準優勝のパフォーマンスが賞金を受け取るのを見ながら、私はそんなことを考えていた。

以上が今回我々が行った企画のあらましである。企画内容としては多少不満の残るものとなったが、とにかく他大学の学生とあれだけ話し合えたことは良かったと思っている。最後になりましたが、今回のコンペの開催に関して、多大のご協力を賜わりました大光電機株式会社を初め、対戦に参加して頂いた方々、関係者の方々、本当にありがとうございました。誌面を借りて、御礼申し上げます。それと、出展して頂いた作品に対し、数々の無礼があったことをお詫びします。

執筆責任者　田村輝彦（近畿大学）

GBRC ニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391 FAX.06-872-0784
業務時間 9:00～17:15

パラペット笠木の風力係数について

1.はじめに

パラペット笠木は、パラペット頂部からの漏水防止を主な目的とした建築部品である。

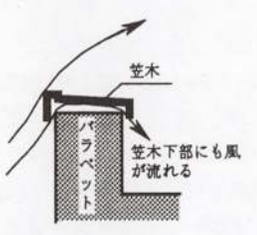
各種の建築部品の取付けは施工効率の向上が図られて久しいが、パラペット笠木も、施工効率の向上のために笠木の取付け方法が改良されている。笠木の取付けは、古くはボルトなどによってパラペットに緊結する方法によっていたが、近年は、パラペット上に取付けた金具にビスなどを使わずに嵌め込む方法が一般化している。パラペットは建物外郭を構成する面の稜線上に位置することが多く、強風時にはパラペット頂部に非常に強い風荷重が作用することがある。そのパラペットの上に取付けられる笠木をこのような方式で取付ける場合には、強風時に飛散しない強度をもつように、嵌め込み部を適切に設計する必要がある。このためには、笠木に作用する風荷重を知る必要があるが、耐風設計の基準などにはその風力係数などの数値が見当たらず、またそれに関する実験データも発表されていない。

このような状況から、当試験所ではパラペット笠木に作用する風荷重の測定を行った。ここでは、その結果を紹介する。

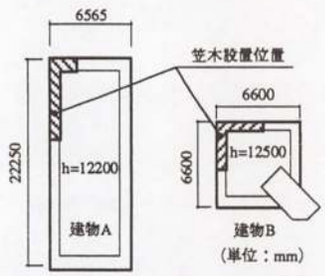
2.測定方法と測定結果

建築物に作用する風荷重は、その建築物の模型を用いた風洞実験によって推測することができる。しかし、笠木のような建築物の一部を構成する小部品の風荷重を求める場合、風洞実験では一般に正確な値を得ることができない。これは、小部品周りの風の流れ場を正確に再現するためには、建築物全体の周りの流れ場を再現する必要があり、そうすると模型は建物全体を再現した数百分の一の縮小模型となって小部品の詳細まで再現できなくなるからである。特に、パラペット笠木のように、パラペットと笠木の間に風が流れるわずかな隙間がある場合はなおさらである。(図－1参照)。

このことを考慮すると、パラペット笠木のような部品の風荷重は、実測調査を行って求める方法が最良であると思われる。そこで、筆者らは、実際の建物にパラペット笠木を取付け、笠木に作用する風荷重の実測調査を行った。



図－1 パラペットと笠木の隙間



図－2 パラペット笠木設置建物および設置位置

本実測調査では、図－2に示す２つの建物を対象とした。風荷重の測定は測定器の精度上、強風時のみについて行った。実測調査では、風洞実験のように風向と風速を自由に設定できないので、強風が吹くのをひたすら待つことになる。そのため全観測期間は約３年の長期に亘った。

パラペット笠木に作用する風荷重は、笠木の表面と裏面のそれぞれの風圧をビニールチューブを介して圧力計に導き、その差圧の１分間の平均値を求めることにより測定した。

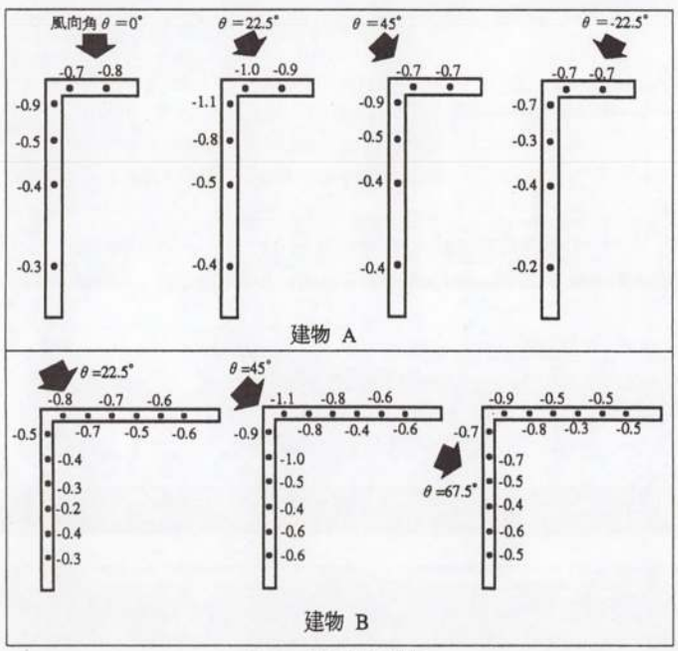
測定された風荷重は、下式の風力係数Cとして表した。

$$C=P/q$$

ここで、Pは笠木に作用する風荷重(kgf/m²)、qは接近風の速度圧(kgf/m²)である。

２つの建物についての風力係数の分布図を図－3に示す。この図に示した風力係数は、強風時における各測定点での最大値である。

この結果を見ると、笠木に作用する風荷重は、屋根面に作用する風荷重と同様、上方に吸い上げられる方向に作用し、風上側のコーナー部付近が最も強くなることが分かる。笠木の風力係数は、最大でC＝-1.1であった。



図－3 風力係数の分布

3.おわりに

今回の実測により、これまでデータがなかった笠木の風力係数を得ることができた。その結果、笠木の風力係数は、建築基準法建設省告示第109号に示された屋根葺き材の風力係数(C＝-1.5)より小さい値を示し、笠木の設計に告示第109号の風力係数を用いても支障がないことが分かった。ただし、コーナー部以外では、大きすぎるかも知れない。

ここで示した風力係数の測定結果を参考にして、より合理的な設計も可能であるが、その場合には、設計者が建物形状、隣接建物、地形など、今回の実測に供した建物との設置条件の違いによる影響を考慮して風荷重の適切な割り増しを行うことが必要であろう。

(耐風試験室：高森 浩治)

伊丹での目まぐるしいひとときを楽しむ

出版委員長・山田　修

出版委員会は、活力ある会をめざし、次の三点をモットーに歩んできました。

すなわち、①出版の企画を通し協会のボランティア活動に徹する、②お互いの情報交換の場とする、③当会に出ると少しでも勉強できる、です。

具体的には、毎月の議長は会員の回りもちとし、会終了後は一ぱい会（自由参加）を催し、より親睦を深め気安く語れる場を設定しています。一ぱい会は、思わぬ情報入手の場所になります。

みんなが委員長であり、みんなが支えあって運営している会です。さらに楽しい雰囲気をもつ会にしたい、という願いを持っています。仕事は、秩序の組み立ての中に楽しさがないと成立しません。建築という仕事は、すべてそうです。一人の力なんて、たかが知れています。

'95年最後の当委員会は、12月22日㈮、見学会・委員会・忘年会の三つを一緒にして、大阪を離れた伊丹の地で行いました。とても忙しかったのですが、内容はうーんと充実していました。

1　建物見学会を試みる

15時30分、伊丹第一ホテルロビーに集合。そこから、伊丹中央ビル（設計施工：竹中工務店）→小西酒造白雪本社ビル（設計施工：竹中工務店→白雪長寿蔵（酒蔵をレストランに改造）→旧岡田家（重文クラス）解体現場→伊丹市美術館・柿衛文庫館・工芸センター（設計：坂倉建築研究所、施工：竹中工務店）→アイフォニックホール（設計：都市環境研究所、施工：竹中工務店）→法巌寺(別名楠寺、樹齢500年のクスノキ：県指定文化財）と、息つく間もない忙しい見学会だった。

伊丹第一ホテル周辺には、見学用のビルが寄り集まり、便利この上なし、といえる。

上原正行さんの用意された各建物のパンフレットが、とても有効に働いた。



写真１　白雪本社正門を背景にして
白壁と黒瓦のむくりつき薬医門は、堂どうとしていた。大名屋敷を思いだす。
事務所ビルを取り囲んだ吹きぬけ回廊つきの敷地は、どこか禅宗様式が漂う。環境にとけこんだ建物は、老舗の酒造り屋の風格がにじみ出ていた。

2　委員会・忘年会はホテルで行う

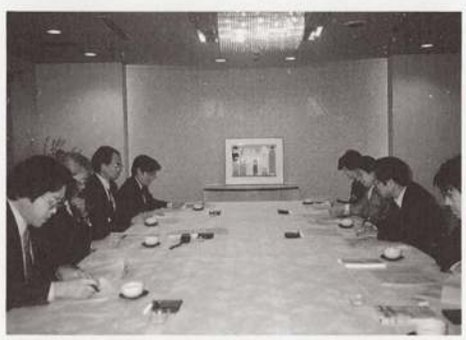


写真２　ホテルでの出版委員会
まっしろなテーブルクロスを前にした会議は、さながら国際会議のようだ。静寂さと豪華さが同居する。机上に並んだ本は、荒川治徳著「鉄筋工事・本音の現場学」のできたての新著だ。この本のできたときの嬉しさは、格別のもの。荒川さんの顔が輝いていた。

伊丹第一ホテル２Ｆ桂の間で17時10分より50分間、会議を行う。

ゴージャスな空間と荒川治徳さんの巧みな進行により、一同から議論が湧出する。

18時10分より待望の食事。ホテル推奨のおいしい和食が次つぎと運ばれ、飲みながら食べながらの楽しい意見交換が行われた。目まぐるしく歩き回ったものだから、その食事のうまかったこと。幸せと満足感を味わう。それだけ、委員会に活力がかけめぐった、といえる。一年に一度のぜいたくも良いものだ。



写真３　スナックで語る
スナック「ユキエ」で語り歌う。サンタクロースも嬉しそう。みんなの顔も嬉しそう。
ひと仕事したあとのホッとしたひとときは、次のステップのためにも必要な息ぬき時間だ。息ぬきは「少しだけ息をぬき」次の大きな息いれの準備体操となる。

3　２次会はスナックで歌う

19時30分より近くのスナック「ユキエ」に出かけ、２次会を行う。初めてのテストケースなり。

一人一曲の歌をお願いする。「教養と知性を捨てて飲み・歌いましょう」と、大いに盛り上がる。ほんとうは、遊ぶのにも教養がいるのだが……。女性委員（井上まるみさん・前田邦江さん）の斉唱が柔らかく響いた。

20時40分に現地解散。ＪＲ伊丹駅へ３分・阪急伊丹駅へ９分の徒歩で行ける場所だから、帰りのタクシーを心配せずにお開きとなった。

*

出版委員会は、昭和52年、協会創立60周年記念事業として、初めて単行本の出版にのり出します。学芸出版社が全面的にバックアップして今日に至りました。初代委員長は小林清さん（新住宅社）です。

今までに建築技術選書38点、プロのノウハウ25点・同特装版11点を世に送り出しました。なかには「茶室の話：岡田孝男著」のように７刷１万５千冊を売り上げた本も存在します。その反対もあります。

それにしても「74冊の本を出し続けたなァー」という思いがします。〝継続は力なり〟とはいえ、これはすごい成果です。というのは、わたし自身が当初からの委員であり、著者ともなり「著者を見つける苦労・書く苦悩・出版するむずかしさ」をよく知っているからです。あらためて関係各位のご努力に感謝しなければなりません。ほんとうに、ありがとうございました。

ここで、会員の皆様方にお願いがあります。建築技術の発展のため「こんな本を出したい、または出して欲しい、あんな著者がいるので検討して欲しい、これだけは記録にとどめて欲しい」という要望をお持ちの方は、ご遠慮なく身近にいる出版委員にお知らせください。皆様の英知をお貸しください。ご一報をお待ちしております。

さいごに出版委員名を記し「出版委員会だより」を終えます。

青柳英之（青柳構造設計）、安達英俊（安達英俊建築研究所）、荒川治徳（シミズ・ビルライフケア）、井上まるみ（住まいの研究室）、上原正行（竹中工務店）、川崎公雄（鹿島建設）、岸田仁（大阪府建築部）、楠本照男（昭和設計）、桑田和明（松村組）、志賀咲穂（姫路短期大学）、下田英雄（大林組）、谷川康信（大阪工業技術専門学校）、前田邦江（住まいの実技講座）、松本克暉（大成建設）、森山正和（神戸大学）、安田孝（摂南大学）、山田修（修建築事務所）、吉田隆（学芸出版社）。以上18名。

*

委員会の活動の場を、このような形でときどき知らせあえばいかがでしょうか。一般の会員の方がたからは「委員会の活動の姿が見えない」という声を聞きます。

編集委員会・事業委員会・教育委員会・建材委員会の各たよりをお待ちしております。

フィレンツェにて－2

鈴木　良介

フェイレンツェのドゥオモを、そのつきあたりに見る街路でスケッチをしていた時のこと。通りかかった男性が、しばらく眺めたのち、〝Are you an artist or an architect ?〟と問いかけてきた。一瞬のことで〝I am an architect.〟と答えてしまったのだが、本当は、artistと答えたい気持が強かった。連れの母親らしい老婦人とやっぱりねというようにうなづき合っていたが、そういわれてみれば、私の絵はやはり透視図法に添ったパースペクティブがとれていて、artistのような自由な表現ができていないのかも知れない。もっと自由に描けるようになれればと思ったのだが、それにしても、スケッチをしている私に、artistかarchitectかと問いかけてくれたことに、何とも言えぬうれしさがこみあげてきた。

つねづね設計にかかわる者は、絵が描けねばならないと考え、学生諸君にもそのように話していることでもある。何もないところから具体的な形をつくりだしていくためには、その形を想像し、適確に表現できる能力は不可欠である。現実にあるものの表現もできなくて、どうしてそれが可能なのか。architectの資質をartistと同列に考える欧米の伝統的な見方を、改めて確認する出来事であった。

福井工業大学教授

既存不適格

垂水　英司

震災後、一般市民のあいだで建築基準法がにわかに大きな関心を呼んだ。被災したマンションを元どおり再建しようとしても容積率の壁がある。密集市街地で住宅を再建しようとしても建ぺい率や接道条件が現行法規にあわない。なぜ元どおり建てられないのかという市民の問い合わせや苦情が殺到し、マスコミも「再建に建築規制の壁」と書き立てた。いわゆる既存不適格問題で、この「既存不適格」という言わば業界用語も、ここ被災地では一般用語として通用しつつあるほどである。

既存不適格は、法規制以前からあるものは当面仕方ないといった、法の建て前と適応の難しさとの間の折り合いをつけた一種のモラトリアムだ。マンション建て替えにしろ密集地再開発にしろ生半可なことでは実現は難しく、ふだんはそっとしておくのが一つの解決とも言えた。しかし、今回の震災は、既存不適格が都市の中に広範に存在することを明らかにしたばかりか、モラトリアムにいきなり期限を突きつけた格好となった。この回答を見出すには、市民も行政も専門家も共に相当な知恵と汗をだしあわなくてはならない。「既存不適格」は業界の問題にとどまらない、市民的論議をすべき、裾野が広くかつ奥深いテーマなのだ。

神戸市住宅局参与

花と祈り

瀬戸本　淳

震災がらみでいろんなアンケートが舞い込んでくる。頑張って書かねばと思うが、提言タイプのものになると奥が深くてつらい。生命の連続性を保証するものとして定義していた家が、たった10数秒で多くの死をもたらしてしまったわけだから、目前の膨大な喪失感を自分で埋め合わせてゆくにはまだまだ時間がかかりそうだ。

今、必死で家とは何かと考えている。8000年前のチャタルフュックの家々について前回述べた。精神的な、宗教的な、呪術的なものが素朴な家になっていた例である。建築空間が神に従っていることは、感情が希薄になっている我々には体感しにくいが、日々の生活を営むために必須の吉祥を求める強い願いが込められていたことはわかる。土器の模様などもその願いや祈りから描かれたものに違いない。

阪神間のあちこちのガレキに花が一面に咲いた。花でいっぱいになったのは人々の願いからでた素朴な行為からだった。これからの街づくりも、恣意的に構想、発案されるものでなくても、意識せずして美しいものになるのではないかと考えてしまうことがある。もしそれがみんなの幸せを願う深い＜祈り＞から出発しているのならば……。

建築家・瀬戸本淳建築研究室代表

責任追求型と原因追求型の思考

田中　正司

建物が竣工し、実際に使用される供用段階で、設計・施工段階で予測できなかった故障を発見することがある。

これらの故障は、竣工後の定期点検や、実際に不具合が発生して、客先よりクレームとして知る場合がある。故障発見後は、緊急性を判断し、応急対策の要否を決め最終的には再発防止策をとることになる。そのためには故障の真の原因を追求し、その原因を除去できる対策をとる必要があるが、原因を追求する過程でともすると責任追求型の思考が働くことがある。即ち、設計、施工、保守管理に原因があるとの議論が先行し、原因追求が中断して対策が遅れたり、真の原因が追求されずに対策が実施されると同じ故障を再発させる危険がある。

一方原因追求型の思考では、故障の現状を十分把握して、健全部との比較や、類似故障例をもとに原因を推定し、現状と照らし、場合によっては再現実験により検証して真の原因を追求する。あるいは発生確率の高いものを絞り込んで、一つあるいは複数の原因のいずれも除去できる対策をとることにより再発防止ができる。しかし今尚、現象に手を打ち、原因に手を打てていないことがあること、また真の原因を追求し再発防止をフィードバックしないと、設計、施工、保守管理技術の向上につながらないと反省している。

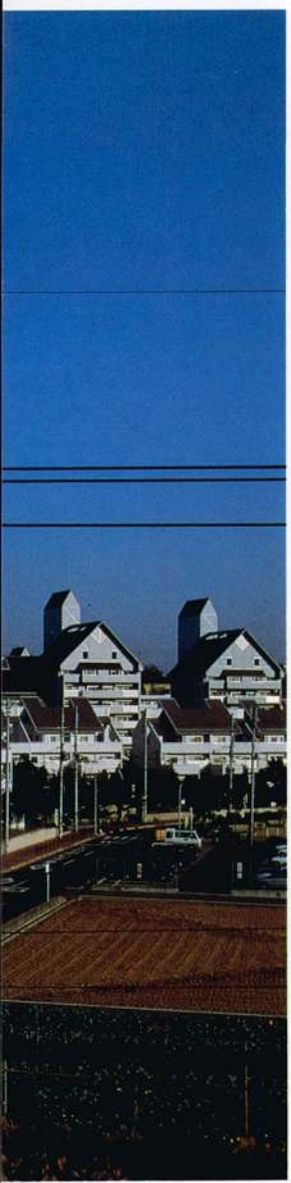
鹿島建設関西支店建築部専門部長

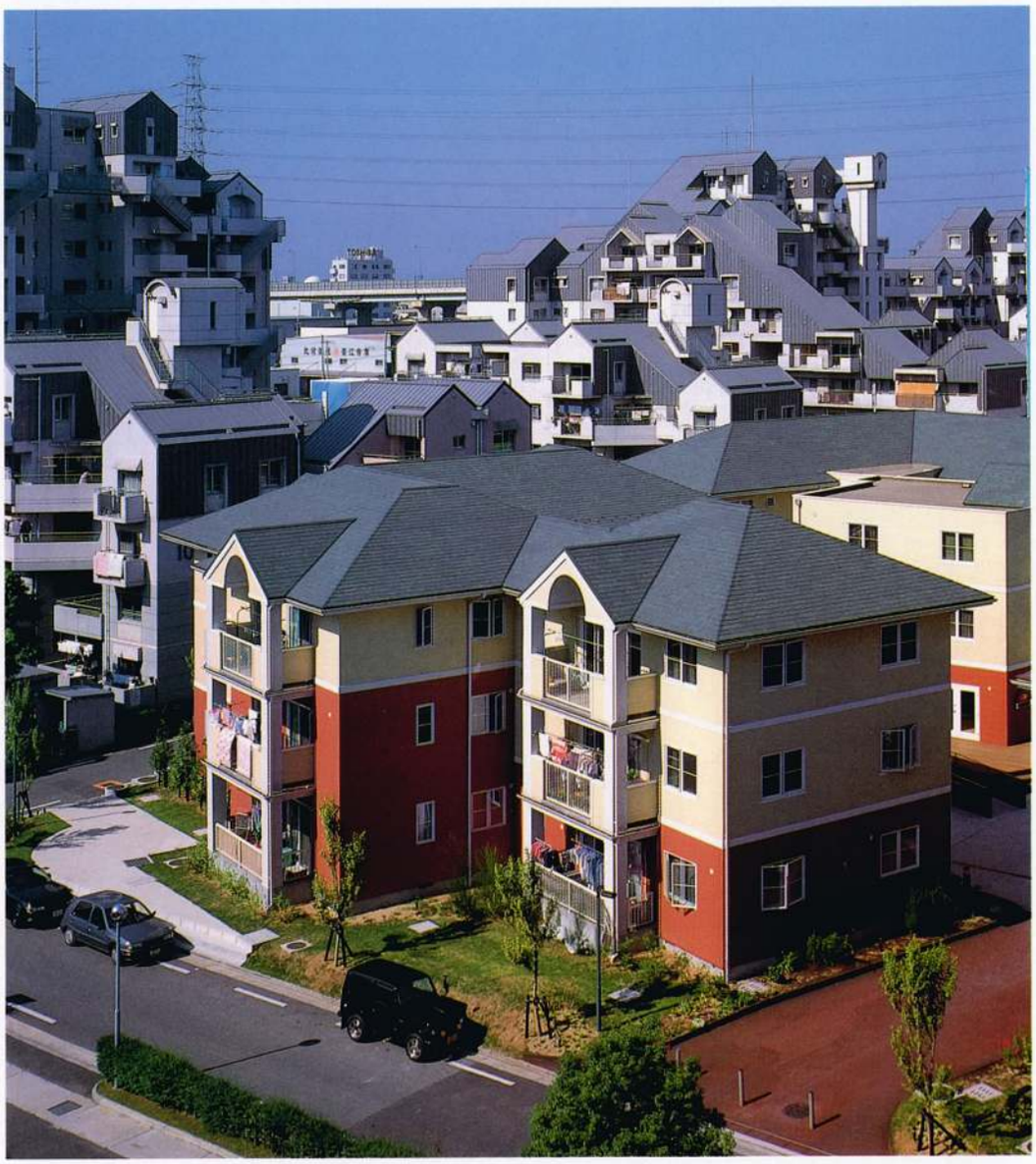

大阪府住宅供給公社
創立30周年記念



アメニティー長野

扉 メロード吹田

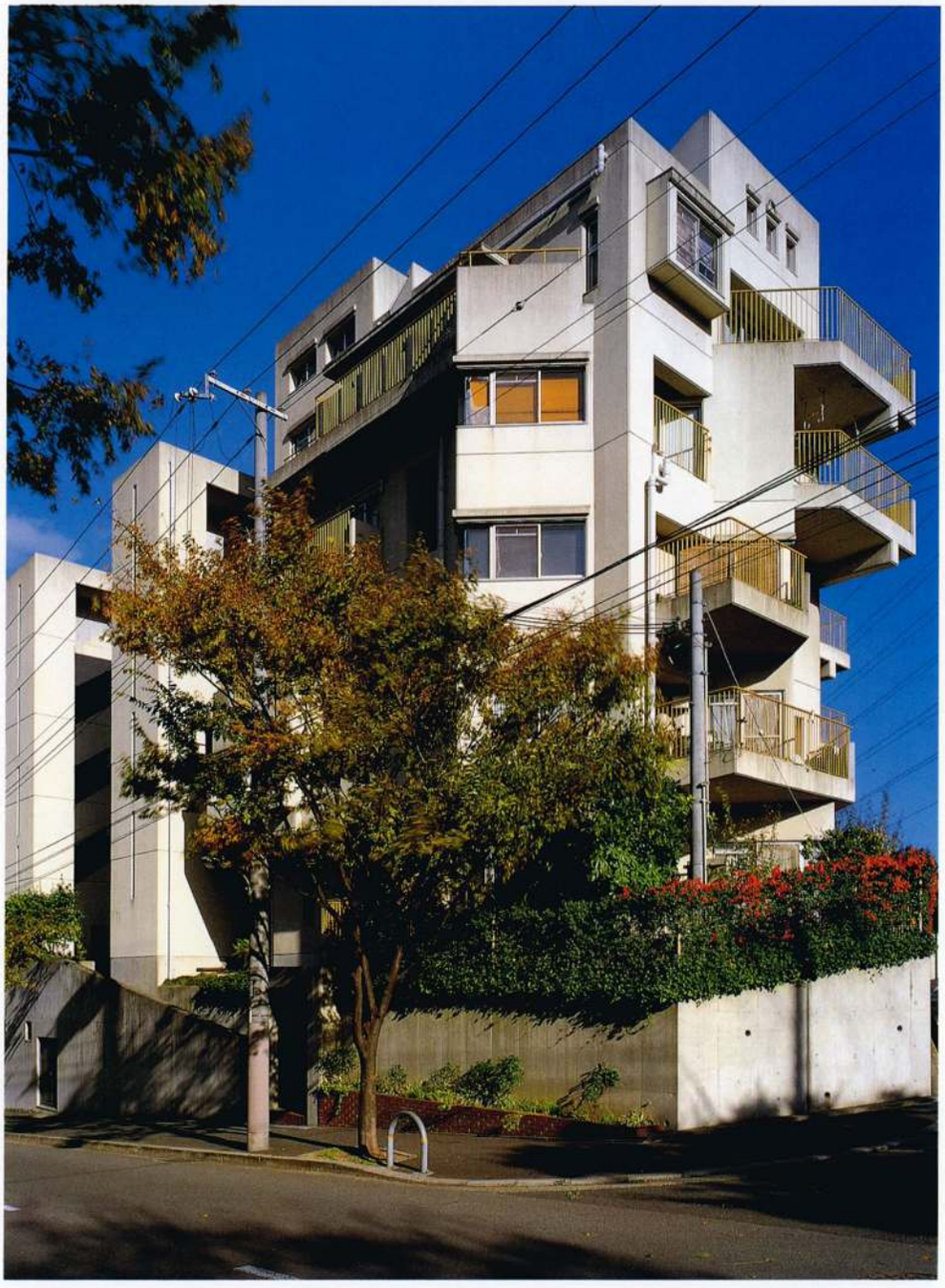




メープルコート



コーポラティブハウス〝デネブ〟



コーポラティブハウス〝クレセント〟



コピアス八尾



エルベコート二色の浜



山田西-A



エステ南千里



しんかなシティ



コモンシティ星田 アステージ



コモンシティ星田西-A・B



フロンテージ長野

撮影 絹巻　豊

座談会

都市づくりにおける、公社のかかわり、建築家の役割



安原　秀（ヘキサ）

1961年　大阪大学工学部卒
同　年　竹中工務店設計部
1970年　安原中筋建築研究所を経て
1981年　改組により現職
主な作品
コーポラティブハウス デネブ
Roji コート
都住創 清水谷



遠藤剛生（遠藤剛生建築設計事務所）

1964年　大阪工業大学建築学科卒
1969年　株式会社遠藤剛生建築設計事務所開設
1984年より 神戸大学建設学科非常勤講師も兼務
主な作品
熊本県農業公園
名塩ニュータウン斜行エレベーター・集合住宅
屋外劇場・回廊
EXPO'90 国際花と緑の博覧会西口ゲート
六甲アイランド CITY イーストコート5番街
長野オリンピック選手村



川上昌男（大阪府住宅供給公社常務理事）

1962年　京都大学工学部建築学科卒
同　年　大阪府へ入庁
1988年　大阪府建築部参事兼住宅政策課長
1992年　㈱大阪府まちづくり推進機構専務理事
1995年　現職

司会　芥田　暁（大阪府住宅供給公社経営管理室副参事）

司会　本日は大阪府住宅供給公社創立30周年の特集企画による座談会にご出席を賜りありがとうございます。

では、テーマ「都市住宅づくりにおける、公社のかかわり、建築家の役割」ということでお話を進めさせていただきます。

まず、安原氏、遠藤氏に、これまで都市住宅や集合住宅を多数手がけられた経験を踏まえ公社住宅の評価からお話し下さい。

安原　戦後の住宅の流れをふり返った時に、公社住宅は公団住宅と同様に我々の住宅のイメージを決定づけるだけの影響力をもつ存在です。

役割という面でもその時代、時代の要請に応じたものだったと評価せねばならないと思います。

また、性能面だけを取り上げても一定のレベルで戦後の住宅建築をリードしてきた。

ただ、時代の変化とともに、いわゆる nLDK 型すなわち核家族型という画一的常識ができあがってしまってから、供給に際しての組織的な取組に少し飽きたらない部分を感じます。

印象に残る公社住宅

安原　私が特に興味を持った公社住宅のいくつかを挙げてみます。

上田　篤さんが泉北ニュータウンで計画された町家型のタウンハウス、アレイハウスと言いましたか、これは低密度型ですが明



アレイハウス



ヤングタウン

快な都市住宅の型の提案として価値があったと思います。

また、妙に印象に残っているんですが、これも泉北ニュータウンですが単身者用住宅のヤングタウン、あれは凄くカラッとした開放的な印象でして、当時の時代の雰囲気をよく表わしていたと記憶しています。

それから星田のコンペ、あれも公社の事業として取り組まれ、特徴のある町並みができたということで成功されたと思います。もう一つつけ加えると、私自身が多少関係したデネブ[※1]。(笑い)

公社のコーポラティブハウスの第1号で、もう13年位経ちます。集団での住まいを維持しながら、外装の補修等メンテナンスもしっかりやられて、住人主催の夏のイベントの案内をいまでも頂いています、これは公社の企画の成果だと感謝しています。

遠藤　安原さんが私の興味を持っている部分について触れられたので、視点を変えてお話をしたほうがいいかなと思います。

「住宅は関西から」と以前から言われ続けていますが、そんな言葉に裏付けされるような風土が関西には息ずいています。ご承知のように、一番先進的かつ古い団地として、大阪市営住宅の古市中団地がありますが、あれは昭和28年位に計画され、その後の公営住宅の教科書的存在になった事例であり、その後公団の香里団地、それから千里、泉北と続いてきました、関西全体の住宅づくりの中で、公社の仕事もそうした流れに合わせながら一緒にやってこられました。他の自治体とか地方の公社には見られない、非常に活力に満ちた公社として評価できると思います。

例えば、千里ニュータウンの新千里南町、すなわち新御堂筋線の西側のB団地と言われているところ、最近になって街並み形成型の住宅は囲みだということを言われていますが、あの計画等はそれを30年前にやっています、公営ではどうしても踏み込めない部分を一歩先んじて手掛けてこられました。それから、先ほど安原さんも触れられたヤングタウン、時代の変化に耐えられず昨今ではリニューアルしようとか言われていますが、高度成長期時代に若者の生活のある部分を支えたということや、少なくとも一つの住宅の型を提案したということで、一歩進んでいたと言えます。

最近の例としては、星田[※2]、二色の浜[※3]、コスト低減型の提案とか時代の要求に合わせてやっておられる。特に星田の例を見ると、戸建て住宅の集合する一つのスタイルとして、新しいパラダイムを切り開いたとして評価されています。従来の団地の配置計画とは根本的なところで考え方を異にしている、池からの遊水を団地の中へ引き込み小川をつくり、だらだらと下る斜面を生かしながら、機能はきっちり充足させて、尚その上に自由な配置計画によって、変化に富んだ環境形成型の住宅づくりをされています。

設計者のセンスも当然ありますが、仕掛けられた公社の先見性というか、常に一歩進んだ考えの姿勢の現れだと思うんです。

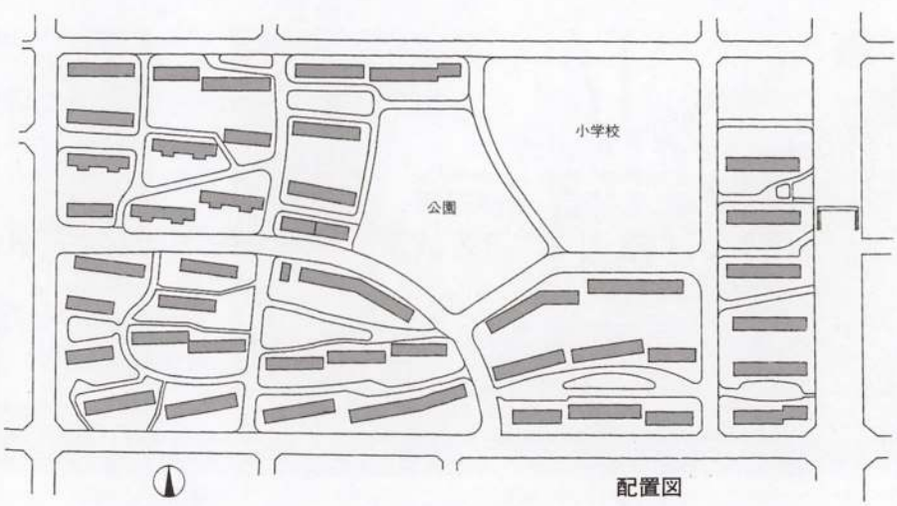
川上　お二人から、時代背景も踏まえた上で、わりに肯定的な評価をいただいて（笑い）、ちょっと面映ゆいところもありますが、公社は住宅政策の実行部隊ということもあって、時代の要請に応じた仕事になるわけで、設立当初の昭和40年代は大量供給ということで質より量の時代でしたが、昭和50年代に入ってからは量より質が要求されるようになり、アレイハウスやタウンハウス、単身者用のヤングタウン、千里のメゾネットタイプの集合住宅、北助松のソーラーシステムを設置した住宅など、また、供給の仕方としてはコーポラティブ方式、二段階供給方式やプランメニュー方式、それと府営住宅と公社住宅を一つの棟に併設するなどいろいろチャレンジしてまいりました。

また、最近では、公共住宅として全国に先がけて木造三階建共同住宅を建設しました。

他方、反省点もありまして、どれもあまり継続性を持って取り組ん



古市中団地



配置図

でいないんですね。(笑い)

集合住宅に求められるもの

司会　つぎに、大都市大阪の今後の住宅づくりわけても集合住宅になにを求め、どう取り組むべきかお話ください。

遠藤　標準化ということから話を広げたいんですが。

イギリスで生まれた小学校区を一つの住区単位とした町づくりの手法、いわゆる近隣住区論が中心になって千里・泉北がつくられましたが、それ以前の街は端的にいうと道と建物との関係で住宅地や商店街などがつくられてきた。

それが、近隣住区論では、住宅は道路に関係なく緑と太陽に向かって南面し、道から解放されたことを評価した。そういう計画の中でも、例えばタピオラニュータウン（フィンランド）のように教科書通り計画しながら、周囲にヘルシンキ湾があり、鬱蒼とした森や林の緑があり環境的資源が存分にある。敷地内には非常に岩が多くどこにでも建築すればよいというわけにはいかない。プロトタイプを下敷きにしながら海の見えるところ、岩場、森や林等残したい自然が限りなくあり、建てられそうなところを選んで住宅が建つ、その結果、身近なところにディテールの豊かな自然が手つかずで残り、感動的なシーンが連続する風景が生まれている。

ところが、千里にしろ、泉北にしろ頑張って造成してしまった。千里・泉北もいい街ですが、あまりにも計画的に事が進められ、生きた風景が無くなってしまい新しい風景が我々の心を捉えてくれない、プロトタイプや集合の方式も重要ですが、自然が長い時間をかけて育んできた生命体としての有機的な風景と、新しい環境との関係で街をつくることが重要になってくるだろうと思っています。

次に標準化についてですが、例えば、車が標準化されているから嫌だとは誰も言わない。車は移動することによって場所を選び、時々刻々環境を変化させることができるからです。

建築は悲しいかな地に張りついている、標準化され抽象化された空間に均質化されたモノを並べて生活する、だから堪えられません。

最近公団の関目第２団地の建て替えの一部に関わったのですが、建て替えにあたっては、30～40年に及ぶ居住者の生活の痕跡・環境を継続し活用することによって、生活や環境の連続性を計り、住宅だけを建て替えようと考えたんです。

その結果、標準化タイプの住宅の配置でも残された古くからの環境形成遺産によって、優しさのある生活空間が生まれました。一方で個別化を提唱しながら他方で住宅の画一化が進む中で、せめて周辺環境だけでも地域ごとの個性を生かしたつくり方をすることにより、標準化の流れに歯止めを掛けたいと考えたわけです。

川上　いまのお話のなかの、標準化というのは住戸の標準化ではなく建物の形態のようなものをおっしゃってるのでしょうか。

遠藤　標準化というよりマニュアル化といったほうが良いかも知れませんが、住戸、住棟、団地の各レベルにある考え方を言っています。その上自然的要素までマニュアル化し、コントロールし命を持たない環境が生まれてくるのが恐ろしいのです。

安原　いまの連続性の話ですが、都市における生活空間を、やっと「連続」という捉え方で考えられる時代になったのではないでしょうか。

都市に住むということは、それぞれ異なる目的をもって集まった人達の生活空間の確保にほかなりません。

もともと一緒に住む必然性のない人たちの集まりのはずです。

そんな過程で供給されたのが大量供給型の住宅であり、つくられた環境だったわけで、量的解決のために、標準化を必要として、今日に続いている。



新千里南町団地



タピオラニュータウン（提供 遠藤剛生建築設計事務所）

しかし、集住した目的が違うように、個々の思いにも当然違いがあり、同じようなハコを確保しても違った住み方をしているはずです。だから、つくる側で住み方まで決めてしまうような供給の仕方では住み手の心情との軋轢が生じてきて当然です。
都市での住み方を少しづつ体得しながら、都市二世、三世へと受け継いでいく、このことが連続性の意義ではないでしょうか。
友人のコピーライターがある議論の中で「都市はもはや建設するものではなく、いまや編集するものである」という言い方でこれからの都市を表現しましたが、多くのの可能性を想定しておいて、それらの中から個人や集団に必要なものだけを取出して組合わせ、空間的解決をはかって集合体を形成していく、「自由」の表現として、すごく面白い言い方だと思いました。
つぎに、事業の継続性に乏しいということについてですが、デネブでの経験で言うと、このプロジェクトは庄内地区の住環境整備の一つのキーとしてつくられたんですが、その時の議論の中で、近い将来同じような計画が2～3カ所できたら、町もだんだん変わっていくというようなことを夢見ていたことを覚えています。
住み手の人々もそう信じていました。
一つの事業手法が定着しないうちに手法そのものがリニューアルされると単なる思いつきになってしまう。

多様化・個性化への対応

川上　標準化についてですが、住宅が絶対的に不足していた時代には、需要者の方でも自分のライフスタイルのことなど考える余裕もなく、とにかく住宅を求めてきた、その膨大な需要に対して、供給側も個々の住まい方の違いなど全く考えずに供給していたわけです。
その後、住宅不足も解消し数の上でも充足してくるとともに、選択の余地もでてきたわけですね。
そんな中でも、需要者側にも自分達が住みたい家とはどんなものかという意識をはっきり持っていない人々もいる、そんな人達のために新婚夫婦、核家族、中年夫婦、老人世帯など家族構成を想定したある程度標準化されたタイプの住宅を供給する必要もあると思います。
一方、住み方にある程度の考えをもつた人達に対しては需要者参加型も必要になってくる、ただ、この需要者参加型も、いきなりコーポラティブではなく、一定のスペースをスケルトンで用意して、中はご自由にという方法もあるのではないか。
いわゆるコーポラティブにも、モノによっては、出窓の形がまちまちだったり、一部住戸に半地下のガレージがあったりで、外観が全く見苦しくて都市を構成する一つの要素としては如何かと思うものがある。
そういう意味でもスケルトンはきちっとした方が良いのでは。
それと、これからの住宅は耐久性のあるもでないといけない、ストックとして有効なものでないといけないとも考えています。
内部も居住者のライフスタイルの変化に合わせて居住空間の変更が可能な形にしておく必要があると考えています。
このことは、単に住戸に限らず、団地計画においても時代の変化、都市の要求に応えられるフレキシブル性が必要であると思ってます。
例えば、これは住宅ではありませんが千里ニュータウンの中央地区センターは時代の変化に対応できるように当初から計画した結果、現在も発展しつづけています。

安原　マスタープランそのものに柔軟性がないといけませんね。
例えば、基本法86条の一団地計画、一度決定したものを変えようとすると大変な手続きが必要になる。
野放し状態ではよくありませんが、相応の規制緩和はして運用の仕方を考えないと町は魅力的に変わっていかないですよね。
ちょっと特殊な例ですが、今度の震災による被災者用仮設住宅を見て感じたのですが、短期間に多くの戸数が必要だった事情は理解しつつも現状は無残な状態になっている。
2年間という限定をしているが、それで終わるとはとても思えない、今日を生きるために、目の前の空間を現実に即した改造をすすめる考え方が必要だと思います。
どうせ仮住まいなんだからではなく、仮住まいには仮住まいなりの快適さをもった空間があってしかるべきだと思う。
居住空間には、人と空間とが時とともに変化していく中で、常に心が満たされていることが不可欠なのではないでしょうか。
都市と住宅の関係においても同じような発想のメカニズムが要求さるのではと考えています。

司会　安原さんのおっしゃっているのは、要は個人個人が空間に対する希望というものをもっていないから、具体的にどう改造したらいいのか道が見えず要求が高まらない、と。

安原　二つだと思います、具体的発想がなかなかできにくい人、逆に発想が豊かで行動にも結びつきやすい人。一般的には、前者が多いと思います、そういう人達には建築家が現状から一歩なり半歩なり進んだ提案をしておいて、イメージが広がるように手伝いをしながらモノをつくっていく。

遠藤　お二人の話の続きを別の視点で捉えますと、画一的で何の不足もなかった時代から、一人一人の要求を受け入れる時代の

住宅づくり街づくりのあり方についてだと思います。今までつくってきた住宅、特に集合住宅についてですが、基本的な考え方が、非常に閉鎖的だったと思います。個室は必ず壁に囲まれておまけに鍵までかかるとか、玄関の扉を施錠することで独立した空間が生まれるとか、団地自身も外部の地域とはバッファゾーンを設けて隔離してしまうとか、いわば自己完結型の住宅や街をつくってきました。ところが、一番新しい1960年代のイギリスのニュータウンの例で見るように、牧歌的田園地帯と新しい街が共存する考え方で計画を進めていく、ちょっと見ただけではどこがニュータウンなのかわからない、もとからあった環境の中に新しい住宅を嵌め込んでいく。人為的につくられた新しい環境だけでは豊かさに限界がある。そのことに着目して、豊かな自然や人々の手によって育まれてきた環境との共生が、より価値が高いことを理解され始めた良い例だと思います。これらの計画の根底には、外に向かって開いていく考え方があると思います。すなわち個室は公室に向かって開き、住戸は共用に向かって開いていく、団地自身も周辺に溶け込みながら、街づくりのエレメントとして役割を担う、そんな開かれた仕掛けづくりを行うことは、すなわち古い環境との関係が生まれ豊かになる。従来のつくり方の延長で、次の時代を夢みても限界がある。また、今日あまりにも多様な要素を住宅に求めすぎている。例えば高規格住宅等も、逆に低規格住宅をつくって「これも住宅だ」と胸を張って主張し、理解を得られる方向へエネルギーを向けて目のうろこを落とす。本質的に豊かな住宅とは何かを、もうぼつぼつ一般化してもよい時代になったと思います。例えば板など少々粗削りでもかまわない、壁もブロック積みでもいいんだ、そんな発想で積極的にやっていかないとね。

但し、環境全体は住めば住むほどに豊かに育つものだということも合わせて、理解が得られるよう手本を示していくべきだと思います。

住まいの原点に戻って低規格住宅

川上　いまの、まあ低規格住宅というかどうかわかりませんが、つまり必要最小限の性能にしておいて、あとは住み手が自由に展開しやすい仕掛けにしておく、これからはそういう方向に向いていくべきかと思いますが、現実には設備ひとつにしてもあまり使用頻度のないものでも完備していないと満足しませんね。

遠藤　いや、急に変えようとしても無理でしょうが、二つの選択肢があって良いと思います。例えば、新規の住宅には無理でも、建て替えの戻り住戸などには、事前の対応次第で活路は見出せると思いますね。

安原　公営・公社だから出来る、自信をもって説得し供給することで普及していけるはずです。

最近、新聞に「すっぴんの家」という広告が出ていましたが、公社こそ、こういうキャンペーンをすればよい。

必要最小限の性能と豊かな空間性をきちんと確保してあります！安心してどうぞ思う存分お好きなように暮らしてください——と。

司会　その「すっぴんの家」ですが、最低限必要な性能というか、生活空間とはどんなものでしょうか。

遠藤　極端に言えば、雨露がしのげて、水が使え、火があればいいんですが。

但し、住宅だけで議論していると、そんなものは住宅ではないという話になってしまう、しかし、豊かな生活環境とは何も住宅だけではなく、町に住み、環境に暮らすということだから、全体のバランスが重要です。以前、安原さんと蒙古の草原に行ってパオに泊まったことがありましたが、住居は粗末でもあそこには広大な自然がある、まさに感動の日々でしたね。

安原　パオだって、決してそんなに貧弱な空間ではありませんが、外にはもっと大きな空間がゆったりと広がっていた。

話が変わりますが、意識改革という意味で、いわゆる持家に対する熱望、いや呪縛から解放されて、のびのびと生活したい。

バブルもはじけて低迷する経済情勢だから、社会的にも持家に対する願望がすこしづつ解けかけてきてはいますが、まだ根強い持家願望が残っている。

持家願望は戦後50年の政策によって形成されたものです。

こんな時にこそ、公営・公社が先頭に立って持家に対する意識を根底から覆すような居住空間の供給を推進していくべきでしょう。

川上　そうですね、いまは持家と賃貸の中間としての定借分譲もありますが、戸建分譲の場合はやはり土地という資産が残るということで相変わらず人気があります。

集合住宅の分譲にはもうキャピタルゲインが望めない。

まとまった金額を投資するのが嫌な人は賃貸なり定借分譲に入ってあとはその分、生活を豊かにする方にまわすとか、持家に対する意識も変わりつつあるとは思いますが。

空間には連続性が欲しい

司会　お二人の建築空間作法を拝見していると、安原さんはどちらかというと内部空間から、遠藤さんは外部空間からのそれぞれ発想があるようにお見受けするんですがこれについては。

安原　家を発想するときに、家の中から発想する癖がついていると

いうか、遠藤さんみたいにデカイ仕事をしていないから(笑)。

司会　「建築家の自邸」という本の中の、遠藤さんの自宅を拝見しましたが、あの凄い空間の発想といままでのお話との関係にについては。つながりがあるんでしょうか。

遠藤　まず自邸について、設計者の立場から住宅という空間を突き詰めていくと、居間や食堂等、各々の空間がこうでなければいけないという必然性等は何もなく、最後に残るのは空間の連続性と、その連続性の中での空間の変化だけだなということに気づきました。

一方住み手の立場から考えると、空間の連続性と変化の中で、日常生活を営むわけですが、その空間に関わる光や風等、自然的な要素と重ねられた生活によって、いろいろな思いが空間に刻印され、それらの総体によってどんな精神的な豊かさを感じながら生活するかということに尽きると思っています。

それが集合住宅における住戸計画では、特定の人の顔や姿や個人の生活や考え方が見えないことが一番問題です、その見えない生活を押しつけがましく計画することが、システム的に問題であります。すなわち全く個人的で具体的な生活を、普遍的で抽象的な生活に置き換えて一般論として語り、それを住宅の形に表さなければならないわけです。次に何戸かの住宅が集合して建築がつくられるわけですが、その集合住宅の共用空間を構成するエレメントは廊下であったり、階段、エレベーターホールや外部の庭や広場等ですが、これらの要素の関係の計り方と自邸の空間の連続性や変化の多様さを重要視した空間構成の原理が、根底のところで深く関わっていると考えています。言い換えれば、集合住宅の群れ的な空間の有り様、都市景観的な側面に引かれていく一番の理由が、この両者の空間構成の楽しさにあると思います。

安原　少数の建築家を除いて、一般に建築家は個人住宅には執念を燃やすが、集合住宅になつた途端、規格品の図面を並べてハイ終わり。という傾向が強かった。

これからは集合住宅にも建築家はもっと真剣に取り組むべきです。パブリックハウジングに真正面から取組んでいないのは日本の建築だけではないですか。

我々のコーポラティブへの取り組みもその辺の理由からでした。

何も特別変わった住戸をつくるつもりはないんで、例えば、以前からあった行燈部屋のあるプラン、これを外気と直結させようと工夫するだけでプランはコロッと変わるはずです。これをするにはフロンテージの小さいヨウカン型のプランでは出きない、当然、住棟配置とかユニットの配列の仕方、集合の方法にまでおよぶ、必然的に住棟の形も変わってくるでしょう。

遠藤　安原さんのいまの話、私も全く同感です。

私も20年ほど前に忍ケ丘で計画した例では、住戸の本来持つべき条件・性能を突き詰めてみた結果、従来の集合住宅の空間や形態とはずいぶん異なったものになったことがありましたが、内容を突き詰めると形態が変化する代表的な例だったように思います。

安原さんは、もっと奥が深いというか、集合住宅の中で住み手と対話しながら計画を進め、その中から手掛かりをつかみ出してくる凄さがある。

安原　シビルミニマムと言う言葉がありますが、居住環境の質に関する最低限のレベルとしてハウジングミニマムという考えが市民意識として一般化できないでしょうか。

川上　そういう意識を育てていくために、公社などの公共住宅がよい計画を行い、先導的な役割を担っていく必要がありますね。

都市型住宅の目指すもの

司会　一つお伺いしたいんですが、都市論とか都市住宅論をしたとき、常にその定義があいまいなんですね。

町屋にしても近代化以前は集合型の住宅で、近代化とともに都市化されてきているわけですね。

モダニズム社会における都市住宅とは何なのかについてですが。

遠藤　これからの環境問題や、高齢者問題を解く鍵は、生活者一人一人のエネルギーをどう引出し、活用できるかにかかっており、具体的には、住戸も団地も外に向かって開き、関係性を深めネットワーク化することだと思っています。

安原　近代社会では家族だとか、労働の場だとかの人と人との係わり合いが変わってきた。

これは情報量の多さと切っても切れない関係だといえます。

情報を介して人間が係わり合う現代を、建築の側からみると空間を介して一緒に存在するということだと思う、そして空間とは無関係の行為を相互に結びつけ共有する場の提供でして、それが家であり、パブリックな場所であり、それがまさに都市であるはずで、至福を感じる空間の存在が大切な所以です。

川上　そこでいわゆるコミュニティーとか、住民参加ということに繋がっていくんですが、皆さんがそういうことを指向しているともいえないんですね(笑)。あまり係わりたくない人達もいる。そんな人たちにも参加してみようという意識を育てていけるような空間づくりができたらなという気がします。

安原　仕掛けはわざとらしくないものでいいんです。

中庭に一本の木を植えて木陰にベンチを置くだけでもいいん

です、これで快適な環境は出来上がりです。

遠藤　私も吉田住宅では、画一的なユニットを配置しながらも場所ごとの個性や多様さのある共用空間との関係で、生活者一人一人が個別性のある快適さを感じながら生活できる空間づくりを目指し計画を進めたわけです。

川上　どんな生きざまの人でも、ライフスタイルそのままに疲れなく住めるといいますかね。

遠藤　そうなんです。高齢者問題にしても役所で全てケアするのではなく、住民同士の交流などから生まれるほうが、本当は至福感も得られるし、これらは開かれた関係から自然に生まれてくるものです。

司会　至福の瞬間はだれでも求めますよね。コミュニティーへの参加には消極的な人でもやすらぎの時は欲しいはずです。

遠藤　昭和30年代の初め頃に、それまでの平均的住宅から新らしい近代住宅に移り住んだ時には、皆その至福感に浸ったと思う。そんな夢をもう一度と考えても、時代も状況も異なり、今の考え方の延長では無理な話でして、先ほどの低規格住宅の話のように根本的な問題を問いなおし、価値観の再構築をしなければならない状況になっている。

安原　価値観の選択肢を多くしておいてね。

川上　そうでしょうね、住戸の中は簡潔に……

遠藤　まあ美意識とは多分一緒なんでしょうが、公共建築も商業建築も住宅も、みんな同じ手法でつくられている。各々の空間とその空間の中での行為や気持ちの違いを認識してやらないと、皆一緒なんて私は個人的にはおかしと思っています。

安原　そうそう、どこにいっても同じ手法でつくられながら、「これが住宅らしさだ」ときめつけ、しかも、親切に細部まで押しつけがましく決めてしまう不親切なシステムができ上がってしまった。

遠藤　例えば都市の建築と自然の中の建築とでは周辺の環境が違う。その環境の違いから個性も生まれるし、両者の価値がより高まる空間を生み出すことが建築家の仕事だと思ってます。

川上　一般的には立地のことはあまり考えずに、形だけで評価してしまいますね。

遠藤　うん。だから最初に言ったように、プロトタイプはもう拙い。場所を否定して消してしまう、ひいては文化・歴史、生活までも否定する結果にもなりかねないということです。

川上　形だけで評価するものだから、だんだん奇をてらったデザインに評価があつまる。

遠藤　そうですね、建築の形態だけにね。

心地よい住空間の演出

司会　さっきからの、心地よさの話ですが、人それぞれという議論と、抽象化による幾つかのレベルに分かれるとかありましょうが、お二人はどういうイメージで心地よさを規定されますか。

遠藤　どんな空間も好きですが、個性ある瞬間の連続というか、静止画像でない時間的変化の中で空間をたどっていくことから生まれる快適さが好きです。

司会　ダイナミックな感じですね、適度な緊張感をともなった。

安原　それ、同感です。枝雀さんの「緊張と緩和」ではないですが、ボクは「瞬時の緊張」という言葉が好きです。
変化の中に緊張が適当なタイミングで繰り返す、こんな空間体験が心地よさにつながるのではと思います。

司会　そこで「いい住宅とは何か」の議論につなげると、結局いい住宅とは人（自分）を介して評価するもので、自分にとって好感のもてる空間のつくり手こそがレベルの高い建築家だと私は思っているんですが、どうなんですか。

遠藤　いやー、だんだん話がややこしくなりましたね（笑）。
時間の中で変化する空間と言いましたけど、これには常に自然との関係で考えていまして、四季の変化や、また一日の中での変化、瞬間ごとの変化に心地よさを感じることができる。
ところが人為的に造られた環境は自然の魅力を消してしまうことが往々にしてある。
例えばパリの郊外マヌル・ラヴァレにルシアンクロールの計画した戸建ての団地がありますが、人間一人一人を自然の一部分と考え、みんなの意見を聞いた結果、屋根にしても三角形とか尖ったのとか、壁の色も黒やアイボリーなど多種多様な色や形態が生まれた。



マヌル・ラヴァレ（提供 遠藤剛生建築設計事務所）

まあ、ルシアンクロールが最終的にまとめていますから、ある秩序感をもってできてはいますが、全体的に肩肘張らない自然と同質の心地よさがある。この例などは、人為的に計画しながら結果的に心地よい自然の魅力をつくりだした。

安原　上手につくってあるモノはやっぱり心地がよいということか。

司会　この機会にその辺の秘訣を伺えたらなと思いますが（笑）。

住宅をつくり供給する立場の公社としても手法なり秘訣を心得ておきたい、事業を展開する際の建築家とのネットワークづくりにも役立てたいので。

安原　モノをつくるときのイメージの総体をまず共有して事業に取りかかる。

企画書や既成事実の積み重ねで事業が固まってしまうようなことにならないようにするためにも、公社はプロデューサーの立場で建築家には建築を語らせ、多数の人から複数の意見を語らせた上でそれらをひとつのイメージとして表現できるようにすることが役目だと思います。

遠藤　私も安原さんの意見とほとんど変わりませんが、我々建築家をうまく活用してもらうことだと思います。

次の時代の住宅の有り様はどうなんだという問題にしてもいろいろ解き方があって、公社だからできること、民間では手を出せないこと、役所でもやり辛い、こんな部分を開発していくとか、役割があると思う。そんな計画の中で我々の力を引出してもらう。

例えば、ヘキサで手掛けられた門真のカルチェ・ダムールね。

ああいう住宅は民間ではなかなか困難だし、役所でもむずかしい、そんな場所で独自路線を継続して押し進めていく、その中にあんな感動的な生活空間がドラスティックに生まれてくる、そして街が生き生きと蘇ってくる。



カルチェ・ダムール

安原　先ほど言ったように、都市は編集の時代になった。

編集のためのストーリーを組み立てていくのがプロデューサーの役割だと思う、それも目先の受けにとらわれることなく、将来を見据えた持続性のあるストーリーでないとね。

関係者は一人一人そのストーリーを実感し、納得しながら仕事を進めていく、きっといいものができると思いいますね。

川上　要は住宅づくりにあたっての公社と建築家との係わり方ですね。いきなり何戸頼みますではなく、具現化するにあたっては、政策的な部分を踏まえた上で公社なりの企画意図を示し、イメージを明確にしてはじめて建築家との話し合いに入る。

司会　では、最後にいままでのお話のなかでも度々出てきましたが、あらためて公社住宅への提言、助言を補足的にでも。

遠藤　官・民の中間的な立場を生かしての住宅づくりがある筈です、公営や民営と競合しない面をしっかりと見据えて、そこに役割を見出すことかと思います。

安原　新たな開発だけでなく都市の再整備に主眼をおくべきではないでしょうか。

住宅を供給するという単純な目的を超えて、都市が本来内包している複合的な要素を積極的に組合わせて、都市の住み方に新しいい魅力が生まれるような柔軟なプロデュースに期待します。

川上　住宅とは何かにはじまり需要者への問題提起など、多様な形でお話を展開していただきましたが、大変参考になるお話ばかりで、本当にありがとうございました。

公的な立場で、それぞれのプロジェクトをそれなりの政策意図をもって、単なる住宅づくりだけでなしに、まちづくりにも寄与するというか、地域の活性化に役立つようなモノづくりをしていきたいと思っております。

お二人にはもちろん、広く建築家のお力と協力を期待した上でですが、今後ともよろしくお願いいたします。

司会　時間がまいりましたのでこの辺で、ありがとうございました。

と　き　平成7年10月26日

ところ　大阪府住宅供給公社会議室

＊1、2、3　カラーグラビアページ参照

特集

大阪府住宅供給公社 創立30周年記念

協賛

建築事務所

株式会社アール・アイ・エー大阪支社　大阪市北区堂山町1-5大阪合同ビル601　TEL06-312-9154

株式会社市浦都市開発建築コンサルタンツ　大阪市北区西天満1-7-20JIN・ORIXビルディング　TEL06-361-8480

株式会社坂倉建築研究所大阪事務所　大阪市西区京町堀1-15-7　TEL06-443-0021

株式会社昭和設計　大阪市西区新町1-5-7四ツ橋ビル　TEL06-532-3421

株式会社大建設計　大阪市西区京町堀1-13-20大建設計大阪ビル　TEL06-449-6800

株式会社東畑建築事務所　大阪市中央区伏見町4-4-10　TEL06-202-0391

株式会社安井建築設計事務所　大阪市中央区島町2-4-7　TEL06-943-1371

建設業ほか

株式会社淺沼組　大阪市天王寺区東高津町12-6　TEL06-768-5222

株式会社今西組　大阪市天王寺区上本町6-6-23-309　TEL06-779-3361

株式会社大阪住宅公社サービス　大阪市中央区今橋2-3-21　TEL06-223-1266

株式会社オオバ大阪支店　大阪市中央区釣鐘町2-3-11　TEL06-943-5161

大木建設株式会社大阪支店　大阪市西区南堀江2-12-10　TEL06-538-3071

株式会社大林組　大阪市中央区北浜東4-33　TEL06-946-4578

株式会社奥村組　大阪市阿倍野区松崎町2-2-2　TEL06-621-1101

関西電力株式会社　大阪市北区堂島浜1-4-4アクア堂島東館18F　TEL06-441-8821

株式会社熊谷組　大阪市都島区片町2-10-5　TEL06-352-1151

清水建設株式会社　大阪市中央区本町3-5-7　TEL06-263-2800

積水ハウス株式会社　大阪市北区大淀中1-1-88梅田スカイビルタワーイースト　TEL06-440-3111

株式会社錢高組　大阪市西区西本町2-2-11なにわ筋ツインズウエスト　TEL06-531-6431

大成プレハブ株式会社関西支社　大阪市中央区本町4-1-7　TEL06-271-3654

株式会社竹中工務店　大阪市中央区本町4-1-13　TEL06-252-1201

大末建設株式会社　大阪市福島区福島6-8-10　TEL06-456-3737

戸田建設株式会社　大阪市西区西本町1-13-47新信濃橋ビル　TEL06-531-6095

東急建設株式会社　大阪市北区西天満5-14-10梅田UNビル　TEL06-313-1371

株式会社フジタ　大阪市北区堂島2-1-16フジタ東洋紡ビル　TEL06-348-4510

不動建設株式会社　大阪市中央区平野町4-2-16　TEL06-201-1121

松下電工株式会社　大阪市中央区城見2-1-3　TEL06-941-3595

真柄建設株式会社大阪支店　大阪市淀川区宮原4-4-50　TEL06-393-1171

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

代表取締役社長 岡 本 行 善

本 社 〒550 大阪市西区新町1-5-7 四ツ橋ビル
Phone 06—532—3421 FAX 06—536—4624
事務所 東京・神戸・広島・九州

DAIKEN

株式会社 大建設計

代表取締役会長 吉 田 周
代表取締役社長 笠 嶋 幹 男

大阪市西区京町堀1丁目13—20 電話(06)449-6800(代)
東京・名古屋・福岡・札幌・仙台・横浜・長野・京都・広島・北九州

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　東畑謙三
取締役社長　市川宏

本社大阪事務所　大阪市中央区伏見町4丁目4番10号 電話（06）202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号(永田町ビル) 電話（03）3581-1251
名古屋事務所　名古屋市中区錦1丁目13番26号(三井生命伏見ビル) 電話（052）223-3931
九州事務所　福岡市博多区博多駅前2-2-1(福岡センタービル) 電話（092）472-8737



あなたの、
いちばん心地良い場所はどこですか。
きっと、多くの方が、
大自然の中をイメージされることでしょう。
私たちは、そんな快適さを
あらゆる建物の内に
創造していきたいと考えています。
もっとナチュラルに、
いつもあなたのそばに、ダイダンです。

Always With You.

—光と空気と水を生かす—
ダイダン

構造の頁　248

ドームの構造設計と施工―大阪府立門真スポーツセンター（仮称）―

田中三郎　たなか　さぶろう
㈱昭和設計構造設計部主管

「なみはやドーム」という愛称が付けられたこの建物は、平成９年に開催予定の国体夏季大会のメイン会場として利用するため現在建設中である。

当施設は、夏はプール、冬はアイスアリーナ、春・秋は多彩なイベントの開催や屋内スポーツが可能な床に転用できるようなシステムを採用している。このシステムは、耐荷重700kgの床を水圧シリンダーで可動させるもので、プール使用時には水深調整が可能である。また、アリーナとして使用する場合には、可動床をプールサイドレベルまで押し上げ、付属の支持支柱を固定することにより大きな積載荷重を支持することができるようになっている。

この多目的対応の床を持つメインアリーナは、最大径が長辺方向約130m、短辺方向約110m、ライズ約28mの5°傾斜した卵形のドームで覆われている（**図1**、**2**）。

ドームの構造設計

当ドームは多目的利用に対応するため、外装材には遮音性能のあるものということで、ＰＣ版が採用されている。ＰＣ版の材料には炭素繊維補強コンクリート（CFRC）を用い軽量化を計った。CFRC板の厚さは、薄い所では仕上げのタイルを含めても50㎜程度であるが、周囲にリブが付いており平均荷重に直すと160kg/㎡となる。

大スパン構造物としてはかなり重い仕上げ材で覆われたドームの架構は、４角錐を基本ユニットとするダブルレイヤーの立体トラスを採用している。グリッドの寸法はドームの赤道付近で4.0m×3.5m、デプス2.6mである。

図3に示すように、ドームの赤道より上部は規則正しく立体トラスを組むことができたので、応力の流れもスムーズでほとんどがϕ216.3㎜以下の部材で収まった。しかし、赤道より下部については、5°傾斜したことによりトラスの組み方が変則的になったことや、東西南北に設けられた４箇所の開口のためにトラスの支持点が減ったことなどのため、上部に比べ部材の応力がかなり大きくなり、トラス部材の断面設計はきびしいものとなった。その結果、赤道以下の部分ではϕ216.3～ϕ318.5㎜の部材が中心となっている。

大空間構造物の設計では固定荷重の軽量化を第一条件に考えるため、通常、風荷重が支配的になることが多い。しかし、今回は多目的利用に対応するということでコンクリート系の仕上げ材料を用いたため、CFRC板を採用し軽量化を計ったが、立体トラスを含めた固定荷重が270kg/㎡とかなり重くなった。その結果、水平力だけの比較で一概に言えないが、風荷重時の水平力は地震時の半分以下であり、部材のほとんどは地震荷重により断面が決定された。

ドームの施工

ドームの施工には、法政大学・川口衞教授が考案された「パンタドーム構法」が用いられた。この構法は、**図4**に示すようにドームにヒンジを設け、地面に近いところまでたたみ込んだ状態で大半の部分を組み立て、リフトアップにより最終形状を作り出すというものである。

パンタドーム構法の採用により、高さ42.65mのドームは、外装材を除く大半の部分を地上高さ15.0m以内で組み立てることができた。その結果、通常必要な膨大な量の仮設足場が不要となり、高所作業もヒンジ部の定着等最小限の作業で済んだ。構法の目標である「安全性、工期短縮、経済性」は、十分に達せられたと思う。

パンタドーム構法は、過去４例あるが、今回のように5°傾いたドームをプッシュアップするのは初めての試みであった。パンタドームは、ドームの赤道面に対して垂直方向にのみ運動可能であり、横方向にはドーム自身が抵抗し変形しないという特徴をもっている。当ドームに当てはめれば、鉛直に対して5°傾いた方向には自由に動くが、傾いたことにより生ずる横力に対してはドーム自身が抵抗してくれるということである。この特徴を素直に利用するため、プッシュアップは鉛直に対して5°傾いた方向に行った。

また、プッシュアップ支柱についても新しい方式を採用した。従来、分割した支柱を継ぎ足していく方法がよく用いられていたが、当ドームでは必要な長さ分の支柱を地中の場所打ち杭内部に格納しておき、一気にプッシュアップしようとするものである。この結果、通常１～２週間かかるプッシュアップ工事が１日で完了した。

外装材（CFRC板）の取り付け

CFRC板の取り付け方法についても、全く新しい方式が採用されている。「パンタドーム構法」のご指導をいただいた川口衞教授が考案された方式で、CFRC板の内側に設置したワイヤーに張力を与えることにより、CFRC板を立体トラスに引っぱり込んで固定しようとするものである。この方式の採用により、ブラケット形状が簡略化され、固定荷重の軽減と工期短縮を計ることができた。

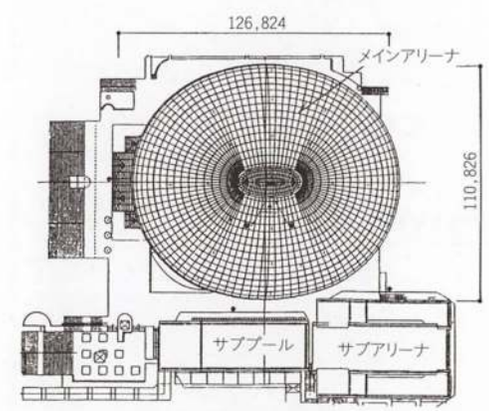


図1　平面

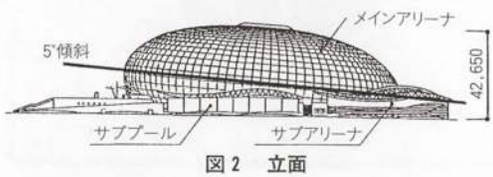


図2　立面

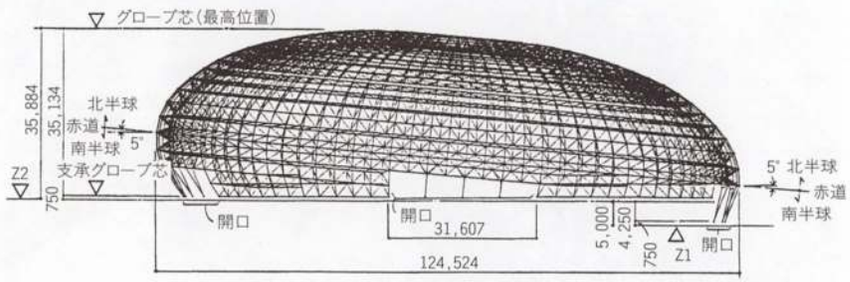


図3　立体トラス立面

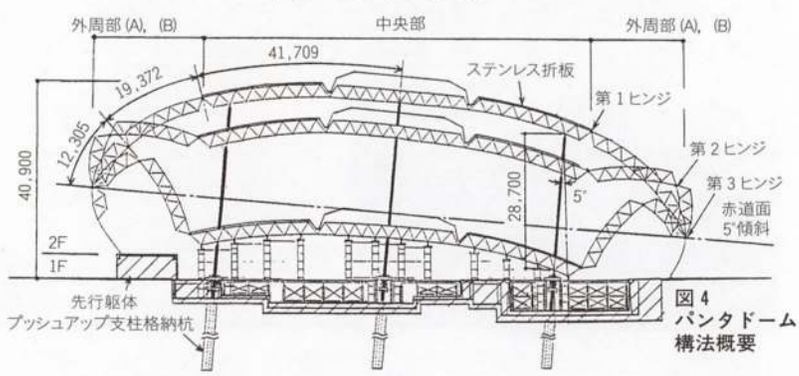


図4　パンタドーム構法概要

設備の頁　249

オゾン脱臭トータルシステム

田端伸行　たばた　のぶゆき
日本ディプラント㈱常務取締役

近年、老人福祉施設の増加に伴い、入居者が快適な生活をおくれるよう最先端技術を駆使した設備が施されているが、不可欠ともいえる脱臭に関してはまだまだ立ち遅れている。脱臭については今日までに様々な機器や方法によって試行錯誤されてきたのが現状であり、現実的には介護者や職員による掃除や換気等人力によるものがほとんどと言っても過言ではなかった。しかし現在では、建物の部分的な脱臭のみならず建物全体を脱臭するすぐれたトータルシステムも開発された。

悪臭物質と悪臭が及ぼす影響

臭気をつくる物質や原因としては、
①アンモニア、アミン類などの含窒素化合物
②硫化水素、メチルメルカプタン類などの含硫黄化合物
③アルデヒド類、ケトン類、脂肪酸類、炭化水素類
などがある。

悪臭が与える生理的影響として、食欲減退、吐き気、不眠、アレルギーが現れることがある。また、心理的影響としては怒りっぽくなったり、ひどい場合にはノイローゼになったりする危険もある。

においは、入居者本人はもちろんのこと介護者や来訪者の衣服や毛髪にも付着し、不快感を与えるので、その対策が嘱望されている。

脱臭方法

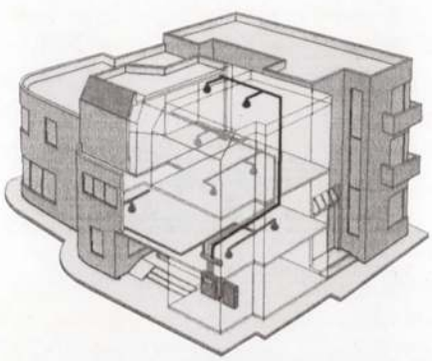
脱臭方法にはいろいろあるが、主なものは以下のとおりである。
①水洗浄法
比較的大きな装置または洗濯機が必要で、かなりの効果はあると思われるが、直接洗うことのできる衣類の脱臭のみに限定されるので、施設そのものの脱臭は見込めない。
②薬液吸収法
処理方法に特殊性が要求されるので、施設脱臭には不適である。
③吸着法
前処理、後処理には向いているが、空気中の粒子の吸着に限られるので効果がうすく、また、吸着材の交換によるランニングコストが大きく、手間もかかる。しかし、現実的には最も多く採用されている方法でもある。
④マスキング法
本質的な脱臭ではなく、他のにおいでごまかす方法である。この方法も芳香剤という形で数多く採用されているが、香りが原臭とまざり合い他の刺激臭をつくり出すこともあり、また、芳香液等の補充費用も高額となるため、あまり期待できる方法とは言えない。
⑤オゾン脱臭法
オゾンの酸化力を利用した脱臭方法で、本質的に悪臭物質を酸化分解する、かなり効果的な脱臭方法であると言える。

以上のほかにも、多種多様な脱臭方法があるが、いずれも五十歩百歩のレベルで、これといった画期的な方法は見当たらない。

これらの脱臭方法のうち比較的効果の高いものがオゾン脱臭と言えるが、オゾン脱臭における安全性、効果についても数々の問題が掲げられている。

ディプラント脱臭トータルシステム

オゾンを利用した脱臭システムの中でも、特にそのソフト部分にノウハウを蓄積した脱臭システムが「ディプラント脱臭システム」である。このシステムは機械室にオゾン発生機、コンプレッサー等を設置し、施設全館に天井内配管を通し、吹出口よりオゾンを吹き出して悪臭を酸化分解するもので、各スペースの目的に合わせたオゾン発生濃度を設定、コントロールすることで施設全体をくまなく効果的に脱臭するシステムである。



オゾナイザーの全館配管



ディプラント脱臭システム制御室

ディプラント脱臭トータルシステムの安全性および効果

オゾンは高濃度では人体に有害な物質でもあり、産業衛生学会ではオゾン許容濃度を0.1ppm以下に規制している。空気中のオゾンは、自然環境中で約0.005ppmくらいで存在し、海や山などの酸素量の多い場所では0.05ppm程度が含有されていると言われている。

オゾンは適正濃度コントロールが難しい物質でもあるために、多くの問題が指摘されてきた。その中にあって、独自の発生体とシステム制御技術でオゾンの発生量を自由にコントロールすることができた。機械室のオゾナイザーでつくられたオゾンは、配管を通り天井に設けられた吹出口から放出される。このときの放出スペース内の雰囲気濃度を0.025～0.035ppm（最大値0.05ppm）に設定することにより、自然界レベルでの安全性を保つことができる。

施設特有の刺激臭は、老人臭や排泄物のにおい、さらに薬品等のいろいろなにおいの分子が天井、床、壁等に付着し、蓄積されていくために発生する。したがって換気や掃除だけでは除去しきれないことが多い。このシステムでは空気中に浮遊しているにおいはもとより吸着方式ではとれないこうした付着、蓄積したにおいの分子まで分解、脱臭していくことができる。したがって新設のほか、既設の建物への設置も有効である。

原料としては空気中の酸素を取り込みオゾン化していくため、空気清浄機等のようなフィルターや活性炭などの消耗品の交換・補充が不要になり、ランニングコストが極めて安価なのも特徴のひとつである。

採用例

これまでの実績が評価され、ディプラント脱臭システムは特別養護老人ホームや老人保健施設のほか、病院、飲食店、公衆トイレなどでも使われ始めており、現在までに約200施設で採用されている。

「身体と表現1920—1980〜ポンピドゥーセンター所蔵作品から〜」

フランスの国立ジョルジュ・ポンピドゥー芸術文化センター（ポンピドゥーセンター）の一部門、国立近代美術館が所蔵する美術コレクション35000点の中から、20世紀の主要作家66人の絵画、彫刻、写真、映像など120点が選りすぐられ、東京、京都で展示される。

主催はNHK、NHKプロモーション、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、ポンピドゥーセンター。

会　期　1996年3月5日(火)〜5月19日(日)
10：00〜17：00　毎週金曜日は20時まで
毎週月曜日休館（4月29日、5月6日は開館、4月30日、5月7日は休館）

会　場　東京国立近代美術館（地下鉄東西線竹橋駅）
東京都千代田区北の丸公園3

入館料　一般（当日）1250円、高・大生900円

出　品　マティス、ルオー、レジェ、ピカソら、またシュルレアリスム、アンフォルメル、ヌーヴォーレアリスムそして今日の美術運動の中で追求された人間存在を、「身体」をめぐる表現の諸相を通して見直そうとするもの。

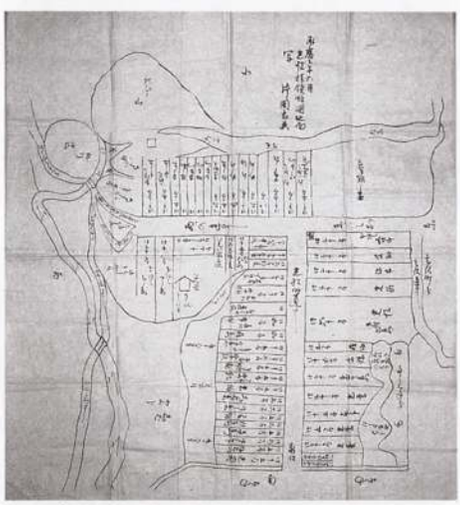
後　援　外務省、文化庁、フランス大使館ほか



女の頭部　1921年　パブロ・ピカソ
© Succession Pablo Picasso, Paris & SPDA. Tokyo. 1995

なお、京都国立近代美術館での本展の開催は、6月4日(火)〜8月18日(日)。

一琳派の萌芽一光悦村再現展　INAXギャラリー大阪企画展



「光悦拝領略図地面写」江戸時代／個人蔵

本阿弥光悦が晩年の30年を過ごしたといわれる京都・鷹ケ峰一帯の光悦村に焦点を当て、光悦が記したとされる古い地面図をもとに1/3000模型で光悦村を再現。本阿弥一族や彼らをとりまく人々（尾形宗伯、茶屋四郎次郎、紙屋宗仁、筆屋妙喜、大工、工人ら）が営んでいた暮らしの形から、桃山後期から江戸初期にかけて「琳派」が担った装飾芸術の流れを探る。入場無料。

また、4月19日(金)18：00〜19：30には、「近代京都に花開く琳派」と題して佐藤敬二氏（京都市工業試験所・産業工芸部）の講演がINAX大阪ショールーム8階会議室で行われる。先着順100名・入場無料。

テーマ　一琳派の萌芽一光悦村再現展

会　期　1996年3月8日(金)〜5月26日(日)
10：00〜18：00　水曜日定休・3月20日は開館

会　場　INAX大阪ショールーム2階
大阪市西区新町1-7-1　TEL06-539-3518

筑波大卒業制作有志展96'

この3月に筑波大学芸術専門学群デザインコース（環境・建築・生産）を卒業する学生有志の卒業制作展が、東京デザインセンターで開催される。入場無料。

環境・建築・生産という3分野のデザイン「3D」のLINKの中にそれぞれの作品を置き、デザインへの提案を試みようとするものである。

日　時　1996年3月9日(土)、10日(日)　9：00〜20：00

会　場　東京デザインセンター　TEL03-3445-1121
東京都品川区東五反田5-25-19

許可等の事務を堺市へ移譲

大阪府堺市は本年4月1日から中核市に移行する。この移行に伴い、都市計画法や宅地造成等規制法による許可等の事務が大阪府から堺市へ移譲される。

■都市計画法第29条、43条による開発・建築許可およびこれに関連する手続き→堺市開発調整部開発指導課

■都市計画法第53条による建築許可およびこれに関連する手続き　→堺市都市局都市整備部都市計画課

■宅地造成等規制法第8条による宅地造成許可およびこれに関連する手続き　→堺市開発調整部開発指導課

被災者向け融資を創設

大阪府は、阪神・淡路大震災で住宅を失った人々への低利な融資匠分「被災者向け分」を大阪府特賃制度の中に創設し、3月29日までその募集をしている。

申込資格　土地に対する所有権、賃借権等を有する個人または法人で、住民税・事業税を滞納していないもの。

敷地条件　原則として265㎡以上、建替は200㎡以上

建物条件　3階建以上かつ6戸以上。住居専用面積は50㎡〜125㎡（単身者用25㎡〜50㎡未満）。大阪府の「計画基準」等に適合すること。

問い合わせ・申込みは大阪府建築部住宅政策課助成班（06-941-0351）へ。

ひろしま2045事業設計者選定

「ひろしま2045ピース＆クリエイト」は被爆50周年の平成7年度に開始した、個性的で魅力ある都市景観の創造を図る広島市の事業で、平成7年度6プロジェクトの設計者を選定し設計者との協議が完了したので、広島市都市整備局は設計者を公表した。

(1)安佐南区役所分館
設計者／村上　徹（村上徹建築設計事務所）
(2)基町高等学校改築
設計者／原　広司（アトリエ・ファイ建築研究所）
(3)矢野西第二小学校
設計者／富田玲子（象設計集団＋フクダ・グローバル）
(4)平和橋
設計者／岸　和郎（ケイ・アソシエイツ）
(5)東千田公園（広島大学跡地）
設計者／山本紀久（愛植物設計事務所）
(6)水の都モデル整備事業
①広島駅南口ゾーン＋京橋・猿猴分岐部ゾーン；設計者／エリアス・トレース（ホセ・アントニオ・マルチネス・ラペーニャ＆エリアス・トレース・トゥール）＋宮崎　浩（プランツアソシエイツ）
②東部河岸緑地（猿猴橋一平和橋）；設計者／佐々木葉二（鳳コンサルタント）
③段原リバーフロント地区建築物誘導計画；錦織亮雄（新広島設計）

NEG空間デザインコンペ公募

日本電気硝子㈱主催の第3回コンペ〈ファイアライト〉は、伊東豊雄審査委員長・5審査委員を迎え、A.提案部門「超耐熱ガラスの特性を生かした空間〜建築からインテリアまで」、B.作品例部門で公募している。

A部門　登録締切／8月12日、作品締切／8月26日

B部門　ファイアライトを使用した、1996年8月12日までに日本国内で竣工した建築物、構築物
登録締切／7月12日、作品締切／8月26日

詳しくは㈱新建築社（TEL03-3811-7101）NEG係へ。

「今、注目される木造の世界」

木造の世界の技術と木の文化を、木造に造詣の深い講師が語り、パネルディスカッションで締めくくる。
主催は㈳日本建築学会近畿支部、協賛は㈳日本建築協会、㈳大阪府建築士会ほか。

日　時　1996年 **3** 月**15**日㈮10：00〜16：30
会　場　建設交流館グリーンホール・8階
　　大阪市西区立売堀2-1-2　TEL543-2551
定　員　300名（定員になり次第、締め切り）
参加者　協賛団体会員11,000円、学会会員10,000円
申込方法　必要事項を明記し参加費と80円切手貼付の返信用封筒を現金書留に同封し、㈳日本建築学会（〒550 大阪市西区靱本町1-8-4、TEL06-443-5387）へ。銀行振込みは不可。

●木造建築の動向と課題／東樋口護氏（京都大学）
●重層木造建築の工法と技法（小屋組架構と野地工法の時代的変化）／下村　修氏（社寺建築保存修理設計監理者）
●数寄屋について／安井　清氏（安井杢工務店）
●近代木造建築の明暗／太田隆信氏（坂倉建築研究所）
●木構造から木質構造そして混構造へ／納賀雄嗣氏（一色建築設計事務所）
●構造材のもうひとつの選択肢／葉　祥栄氏（葉デザイン事務所）
●木質構造の大空間、木造住宅の耐震性／播　繁氏（鹿島建設）

インテリアプラニング賞 '96募集

優れたインテリア作品の設計者の表彰を通じて、インテリアの質の向上に資することを目的に、㈶建築技術教育普及センターは「インテリアプラニング賞'96」への応募を呼びかけている。応募点数に制限なし。

募集対象　①1994年4月〜1996年3月に完成した、応募者自身が設計したインテリア作品。
②現に国内にあるものに限る。
③他の賞を受賞、雑誌等で既発表も可。
④家具などのインテリアエレメントのみの設計は対象外。

応募資格　応募作品の設計者であって、①インテリアプランナー、②インテリアプランナーを含むグループ、③インテリアプランナーの推薦のある個人・グループ。

応募受付　1996年 **4** 月**24**日㈬〜 **5** 月**24**日㈮

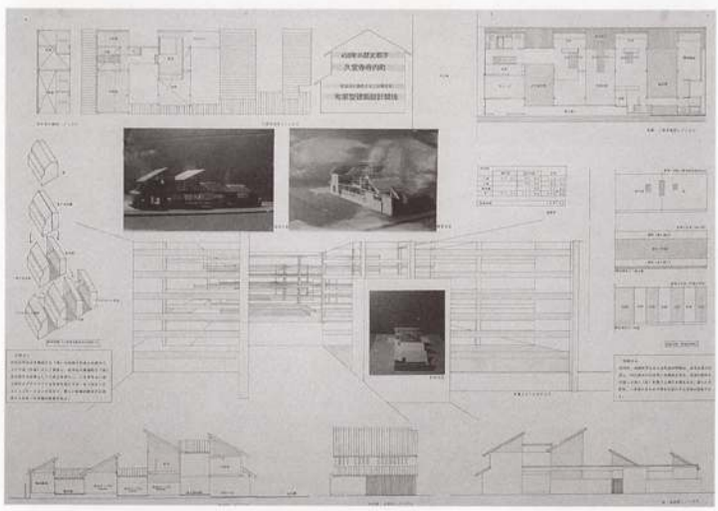
応募方法　応募図書作成要領に基づく「I作品概要書」「II作品説明図」を作成し、㈶建築技術教育普及センター（〒107 東京都港区赤坂6-11-1　TEL03-3505-1831）へ郵送。

賞　建設大臣賞1点100万円、建築技術教育普及センター理事長賞1点50万円ほか

審査委員　大高正人氏（建築家）―委員長―
梅野捷一郎氏（建設省住宅局長）ほか10名

「久宝寺寺内町・町家型建築設計競技」審査結果

大阪府八尾市久宝寺の、戦国時代から残された町割りや環濠・社寺・町家は、近年は老朽化や世代交代によって建て替え、改造が進み、町並みの連続性が失われようとしている。
八尾市では久宝寺寺内町の活性化を図るべく、21世紀型町家の建築設計競技を昨年9月に行い、全国から、222点の応募作品が寄せられた。
昨年10月7日に公開審査（審査委員：遠藤剛生、高田昇、竹山聖、降幡廣信、安原秀の5氏）があり、最優秀賞は、東京都在住の前田雅之氏に決定した。



最優秀賞　前田雅之（㈲空間工房・東京都）●「テーブルに着いて…」

最優秀賞受賞者のコメント
母親と同居する話が実際にあるため、二世帯住宅という点にポイントを置いた。敷地を道路から親と等分に分けて、なるべく顔を合わさずに生活をするが、時折互いが真ん中のテーブルでコミュニケーションを図ることをねらった計画となっている。
空間を表現する形態については、「間」というものを非常に意識している。物と物の間には必ず「間」を置くことにしており、それが真ん中にテーブルを置くことにつながっている。道路との間、親の敷地と息子の敷地の間等には、必ずフィルター等の「間」を置くことを意識して設計を行った。

第15回大阪まちなみ賞の入賞



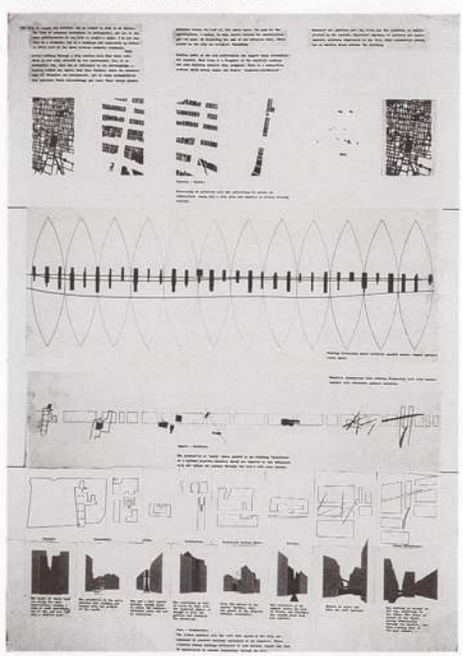
第15回大阪府知事賞／関西国際空港旅客ターミナルビル

昨年実施された第15回大阪まちなみ賞（主催：大阪府、大阪市ほか）は、大阪府知事賞に関西国際空港旅客ターミナルビル、大阪市長賞にアジア太平洋トレードセンター、大阪府建築士会長賞にキーエンス本社・研究所ビルが入賞した。
審査には、委員長・紙野桂人大阪大学教授ら都市計画、建築、報道、色彩など様々な分野の15名が当たった。
特別賞、奨励賞は以下のとおり。

●特別賞　大阪ガス実験集合住宅NEXT21（天王寺区）
●奨励賞　大同生命大阪本社ビル（西区）
関西電力南港発電所（住之江区南港南）
大阪府立看護大学（羽曳野市）
サンタウン新光風台（豊能郡豊能町）

タキロン国際コンペ入賞作

第7回タキロン・国際デザインコンペティション'95は、審査員に建築家・高松伸氏を迎え、課題「都市のつぼ」のもとに実施され、応募作品は312点（海外48点）にのぼった。審査は昨年11月20日に行われ、入賞作品7点・入選作品10点を決定した。



1等 THEA CHAMBERS　英国・UNIVERSITY OF EAST LONDON

日本建築協会

月間の動き

【平成7年12月分】

理事会

第5回定例理事会
14日・4時30分～5時15分・於大閤園
出席者　市川会長ほか27名
議　事　(1)後援・共催名義使用承認の件
(2)理事定数増に関する件
(3)評議員本部選出数増員に関する件
(4)入退会者承認の件
(5)事業報告、その他

編集委員会

第2回計画系分科会
5日・6時30分～8時45分・於本会会議室
出席者　吉村幹事ほか4名
議　事　(1)「阪神大震災から学ぶ」(合同) 特集報告
(2)今後の計画系特集の企画
第9回会員企画小委員会
5日・6時30分～8時・於本会会議室
出席者　稲木副委員長ほか6名
議　事　(1)「建築と社会」(シリーズもの) の報告と掲載予定
(2)新しい企画案について
第7回広告企画小委員会
6日・4時～5時20分・於本会会議室
出席者　勝委員ほか2名
議　事　(1)12月号「第42回青年技術者」特集・「滋賀県土木部建築課作品」特集広告途中経過報告
(2)1月号「阪神大震災から学ぶ」特集・「謹賀新年挨拶」広告途中経過報告
(3)2月号「大阪府住宅供給公社」特集広告途中経過報告
(4)3月号「東海支部」特集広告途中経過報告
(5)独自特集企画
(6)作品作風報告
(7)収支状況報告
第11回構造分科会
6日・6時～7時30分・於本会会議室
出席者　長瀬幹事ほか3名
議　事　(1)来年度の構造特集
(2)「構造の頁」の企画
第9回設備分科会
11日・6時～8時30分・於本会会議室
出席者　田ノ畑幹事ほか6名
議　事　(1)4月号「立体駐車場設備」特集の企画
(2)「設備の頁」の企画
第5回施工材料分科会
13日・4時～6時・於本会会議室
出席者　有光委員ほか6名
議　事　(1)特集企画 (平成8年6月号予定) の検討
(2)今後のスケジュール
第9回編集委員会
14日・6時～8時40分・於本会会議室
出席者　河原副委員長ほか7名
議　事　(1)12月号「第42回青年技術者」特集・「滋賀県土木部建築課作品」特集経過報告
(2)8年1月号「阪神大震災から学ぶ—21世紀へのメッセージ」特集経過報告
(3)8年2月号「大阪府住宅供給公社」特集経過報告
(4)8年3月号「東海支部」特集経過報告
(5)8年4月号「立体駐車場設備」特集経過報告
(6)8年5月号「法令」特集経過報告
(7)「建築の眼」新執筆者報告
(8)収支状況報告
being幹事会
18日・7時～9時・於わいん家
出席者　北村幹事ほか5名
議　事　"being" 欄の今後の予定
第9回作品作風小委員会
19日・6時30分～9時30分・於本会会議室
出席者　富田副委員長ほか9名
議　事　(1)作品の掲載状況・掲載予定の報告
(2)作品の選定
(3)「Gallery」掲載報告・予定
(4)「SKETCH BOOK」掲載予定

事業委員会

第8回若い会員の集い小委員会
11日・7時～8時10分・於本会会議室
出席者　三砂委員ほか2名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
(2)実施報告、及び今後の予定について

教育委員会

第2回工高生数育小委員会
18日・6時～7時・於本会会議室
出席者　和田副委員長ほか6名
議　事　(1)平成7年度・第41回工高生デザインコンクール実施報告
(2)次年度・第42回工高生デザインコンクール募集規定の件

出版委員会

第8回出版委員会、見学・懇親会
22日・3時30分～8時40分・於伊丹第一ホテル
出席者　出田委員長ほか8名
見学先　小西酒造本社ビル・白雪長寿蔵ミュージアム・伊丹市美術館・アイホニックホール・法巌寺

30's EYE—21世紀へのエスキス

第15回松政貞治「都市建築の意味の沈澱と蘇生、そして Deconstruction」
1日・6時30分～9時15分・参加者28名

見学会

第5回茶室見学会
金地院の八窓席
9日・1時～3時・参加者55名

建築クラブ

第284回朝食会
11日・8時30分～10時・於大阪グランドホテル
演題　「旧暦からみた1996年予測」
講師　小林　弦彦氏 (倉敷紡績㈱常務取締役)

建築関係団体合同忘年懇親会

14日・6時～7時30分・参加者360名

入会者 (敬称略)

〔団体会員8社〕
㈱伊藤建築設計事務所
須賀工業㈱名古屋支店
関ヶ原石材㈱名古屋支店
大登建設㈱
第一工業㈱名古屋支店
トステム㈱名古屋支店
東リ㈱名古屋営業所
森松工業㈱名古屋支店
〔個人会員8名〕

池田　政二 (大成建設)	奥　良一 (大成建設)	片岡　稔昌 (大成建設)
島田　博敏 (大成建設)	平林　茂樹 (大成建設)	山内　良博 (大成建設)
鈴木　映男 (大阪府建築指導課)	藤瀬　清志 (ニッタン)	

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市中央区三宮町3−7−6(神戸フクトクビル5階)
電話　神戸(331) 0881〜3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031〜4
倉庫　神戸市東灘区御影石町4丁目（電話811-3610)

OM

テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ——— コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264
大阪事務所TEL06(391)1081−2FAX 06(395)2109　名古屋出張所TEL052(811)3660
横浜営業所TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所TEL0462(21)1761FAX0462(23)1341
埼玉営業所TEL048(774)2845　茨城出張所TEL0292(28)0878FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1−2−10(TSビル)
TEL(06)943−6571(代)
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒　板・掲示板・家　具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547 大阪市平野区加美北3−4−5
TEL06(792)5858　FAX06(792)2810

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店

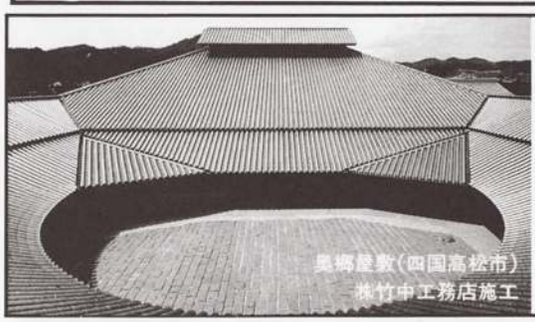
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06−532−0461(代表)
FAX.06−535−5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

新鮮

情報処理／編集・企画／印刷・製本

ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。

ND
日本電植株式会社
〒530 大阪市北区天満1丁目19番4号 センチュリーパーク東天満3・4F
TEL. 06-352-7502㈹ FAX. 06-352-7486



ナニワ瓦株式会社

〒556 大阪市浪速区塩草二丁目二番三号
ファックス 五六一〜七四五四
五六一〜七四一六
あらゆる屋根工事の相談は、

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－3211－8511(代表)

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　三田村　嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話06(202)3071(代表)
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・神戸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話 (352) 1131代
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・茨城・大宮・千葉・山梨・静岡・福井・滋賀・和歌山・松江・長崎・沖縄
出張所　青森・秋田・盛岡・川崎・富山・鳥取・岡山・高松・下関　熊本・宮崎・鹿児島

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある

「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切

株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
郵便番号542 電話 大阪 (06) 768—5031 代表
メンテナンス部　電　話　大阪（06）768—1651 代表
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
郵便番号112　電話 (03) 5689—2351 代表

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530 大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101
創業1919

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア
東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気工事設計施工
株式会社 三興社
代表取締役 土井敏裕
本社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電話 06(361)3671(代)
支店 東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電話 03(3666)1478(代)
営業所 堺・泉州・泉南・滋賀

人と都市の快適な環境をつくります
常業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
住友電設株式会社
大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工
SANPO 三宝電機株式会社
取締役社長 嘉納秀一
本社 〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル) TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城3-12-14 TEL 052(991)5131・FAX 052(914)7535
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881)5571・FAX 078(871)6261
堺研究所 〒590 大阪府堺市三宝町七丁369 TEL 0722(27)8408・FAX 0722(27)1424

電気設備 設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役 山本貴士
本社 〒530 大阪市北区中之島三丁目2－4(朝日ビル) 電話06 (385)1361(代)
大阪営業所 〒564 吹田市垂水町3丁目34－6 電話06 (385)1361(代)
京都営業所 〒615 京都市右京区西京極葛野町21 電話075(311)1185(代)
神戸営業所 〒650 神戸市中央区浪花町59(神戸朝日ビル) 電話078(333)7756(代)

特殊壁装材製造販売 和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉8－173－1
TEL(0729)39－3610
工場 〒580 大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一 〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二 〒597 大阪府貝塚市王子501

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
常務取締役支社長 馬田栄
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号 電話大阪(202)0325～9番
本社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支社 北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは,日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した,二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本社:東京都港区六本木3－16－26
大阪支店:大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

技術と信頼で人と企業に貢献する
青葉印刷株式会社
代表取締役社長 依藤孝行
〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号 TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（07727）2−2220
舞鶴（0773）76−0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332−6861
TEL 東京（03）3272−8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443−6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252−6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83−2381
TEL 大阪（06）877−1581

TMD 制振システム
『Vトレック』

TOKKYO KIKI VIBRATION CONTROL SYSTEMS
E2 振動制御のトータルシステムをめざす
特許機器株式会社
東京 TEL(03)5688-6271
大阪 TEL(06)487-3931

特許機器㈱製 制振装置 「Vトレック」は、二つの質点系の相互作用の問題を積極的に利用して振動を制御しようと言うものです。その用途は、建築物の水平方向の振動制御や床版・梁等に見られる垂直方向の振動を制御する事です。
「Vトレック」を採用する事によって、共振点近傍の振動環境を約2分の1にする事や振動の減衰性能を向上させる事が可能になります。
又、制振装置に必要な周波数調整についても、装置内に装備されている調整機構によって簡単に可能です。
建築物の振動制御という課題にたいして、特許機器㈱製 制振装置「Vトレック」は、様々な構造体と生じている振動問題に対して、有効に機能を発揮しています。

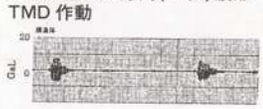
ビル・タワー横揺れ防止用

構造体の屋上部に設置することによって、水平方向の振動を制御する。
1）交通振動による構造振動の低減
2）風による揺動防止

人力加振のX方向（1次）波形
TMD 固定



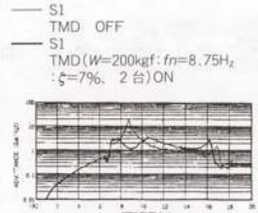
人力加振のX方向（1次）波形
TMD 作動

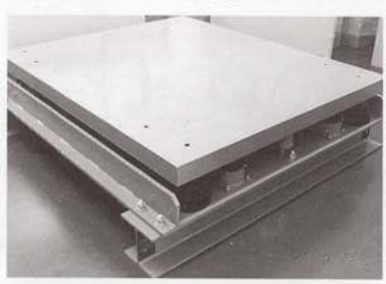




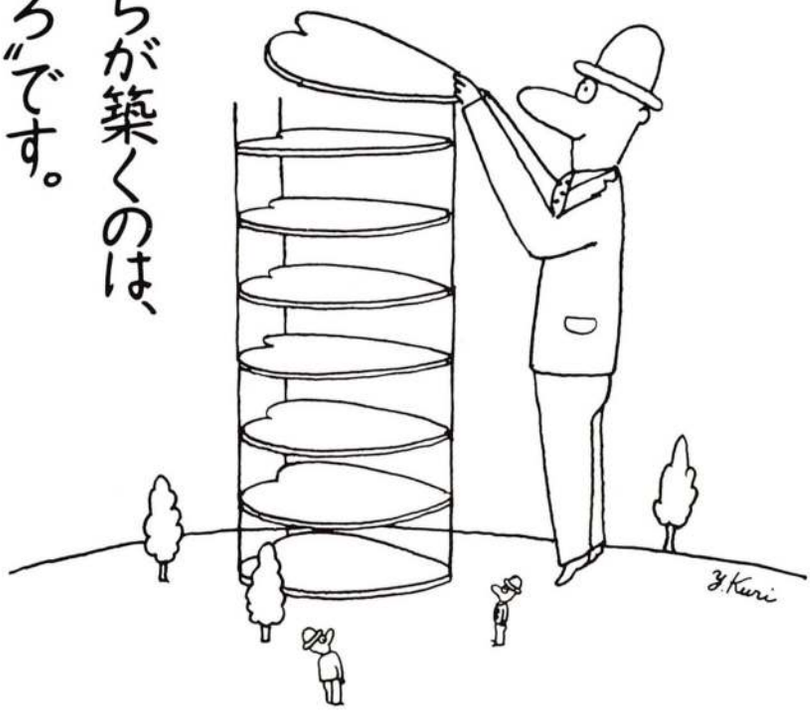
床・アリーナ縦揺れ防止用

床版の大梁・小梁間の懐に設置することにより、縦方向の振動を制御する。
1）大空間と快適性を両立させる
2）ロングスパン床の歩行障害防止
3）多目的空間の振動対策
4）ロックコンサート、エアロビクススタジオの対応に





私たちが築くのは、
〝こころ〟です。



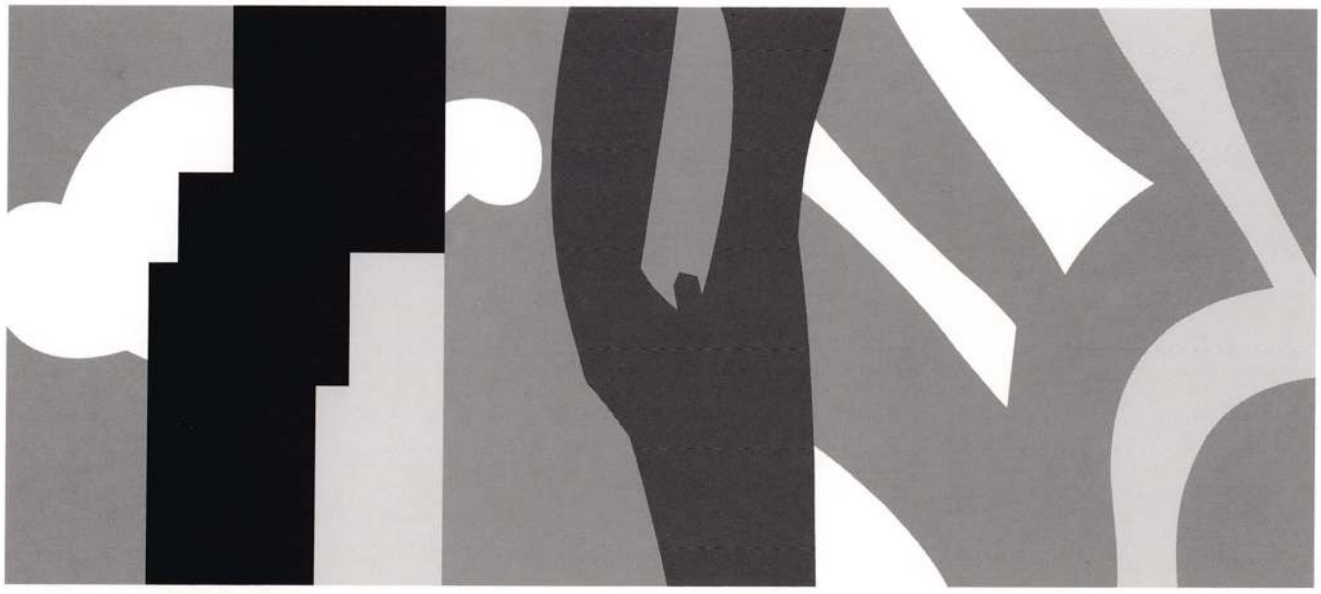
建築物は、機能性だけを考えた
単なる入れ物ではありません。
人と人とをより良い関係で結ぶ創造的空間
それが建築物です。
だから、人のこと、自然のこと、
もっと大きな地球のことを
抜きにしては語れない。
熊谷組は人と自然の結びつきを
大切にしながら
より快適な社会、住みやすい環境づくりを
めざしていきます。

KUMAGAI 熊谷組

本　　社●〒162 東京都新宿区津久戸町2-1 ☎03-3260-2111
大阪支店●〒534 大阪市都島区片町2-10-5 ☎ 06-352-1151

創造という力、建設という知恵。

FUJITA



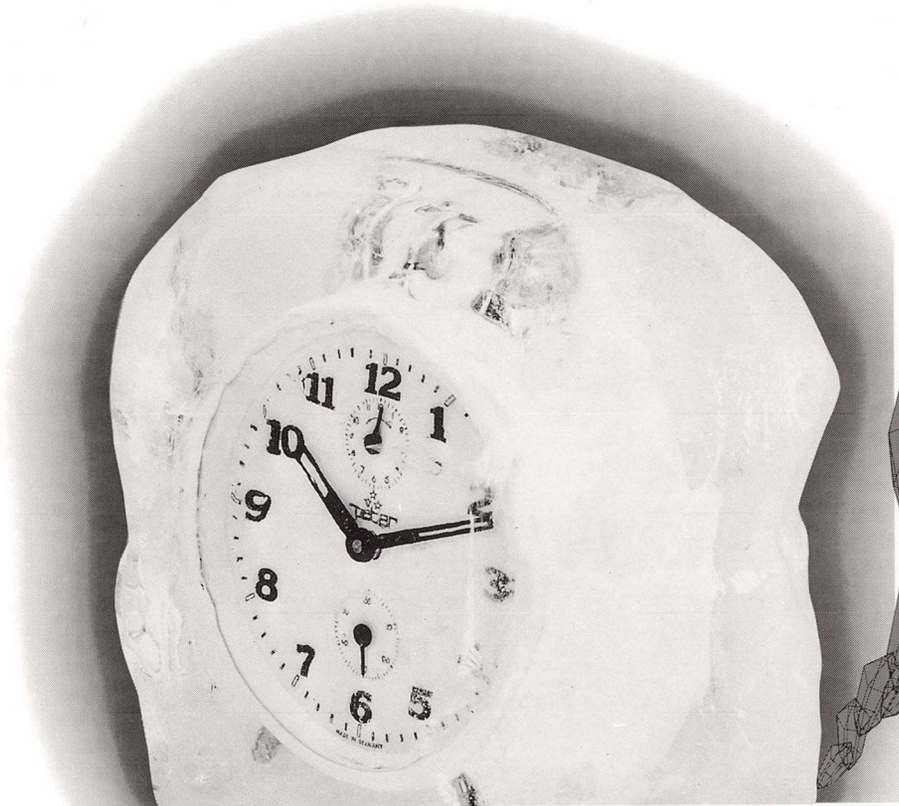
時代の先の先を見越した企画提案を。
フジタには先端技術を駆使しての建設を核に、
都市開発やエネルギー開発やレジャー事業など、
多岐にわたる実績と豊富なノウハウがあります。
すべての力を創造に向けて。

〝高〟環境づくり
フジタ

本　　社　〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15tel(03)3402-1911
大阪支店　〒530 大阪市北区堂島２丁目１―16tel(06) 348-4510

関西電力

快適は、夜つくられる。



昼間の冷暖房に使うエネルギーを、夜の間に作って蓄える。
それが、「氷蓄熱式ヒートポンプシステム」です。
午後10時から翌朝8時までの、夜間の割安な電力を利用。
夏は氷、冬は温水を蓄熱槽に蓄え、
そのエネルギーを昼間の冷暖房に活かします。
新設のビル空調から熱源のリフォームまで――。
これからのビル空調の主流です。

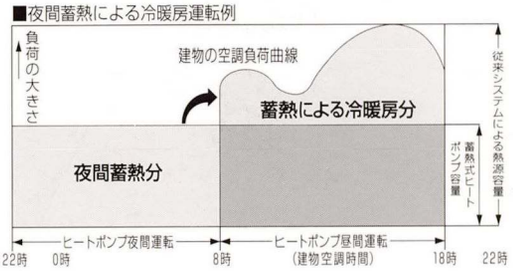
[氷蓄熱式ヒートポンプシステム]

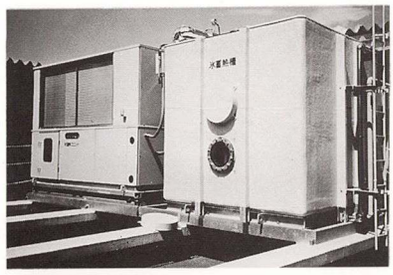
【省スペース】 氷の潜熱が利用できるので「水蓄熱」と比べ、エネルギー量は約12倍。その分、必要スペースは、1/4～1/12ですみ、コンパクトな蓄熱槽で、地下ピットのないビルにも設置できます。また、既設の水蓄熱槽を利用した空調能力アップも可能です。

【エコノミー】 ●夜間蓄熱の電力料金は、昼間の約1/3とたいへんお得。ランニングコストを大幅に低減できます。●熱源設備の容量を小さくできますから、受電設備・契約電力の低減も可能です。●平成7年度から、氷蓄熱システムに対する国の**「3%の利子補給」**制度や、低圧受電のお客さまも電気料金の大幅なコストダウンがはかれる**「低圧蓄熱調整契約」**制度などが実施されています。●お客さまの初期投資の負担を軽減するリース制度も設けられています。

【クリーン】 CO_2、NOxの排出が少ない、地球環境にやさしい空調システムです。

■夜間蓄熱による冷暖房運転例







中・大規模ビル用のユニット式、セパレート式から小規模ビル用のパッケージ式まで色々なメニューがあります。

■業務用蓄熱調整契約の料金単価（6kV受電の場合）

	規程料金	割引後料金(22時～8時)
夏季(7～9月)	14.44円/kWh	4.20円/kWh
その他季(10～6月)	13.13円/kWh	4.20円/kWh

〔お問い合わせは〕関西電力株式会社 お客さま本部 お客さま提案グループ
TEL.06-441-8821(代) 〒530 大阪市北区堂島浜1-4-4 アクア堂島東館18階

社団法人 日本建築協会　〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634 振替口座 00九一0一九一三九九七五

定価1,200円（●本体1,165円●消費税35円●送料共）正会員の購読料は会費に含めて徴収

雑誌 03379-2